

年報 第50集

令和元年度 文化財調査報告書



前橋市教育委員会

表紙：元総社蒼海遺跡群（133）現地説明会の様子

はじめに

日頃より、本市の文化財保護行政につきまして、格別のご高配を賜っておりますことに厚くお礼申し上げます。

令和元年度は、5月に平成から令和へと元号が改められるなど、大きな変革の年でもありました。

4月に改正文化財保護法が施行され、文化財は、これまでの保存重視から活用という側面も重視した新たな形へシフトしました。群馬県においては、令和2年3月に「群馬県文化財保存活用大綱」を策定し、県内文化財の保存と活用に係る基本理念と方針を示しました。本市においても、各史跡の保存活用計画の策定を進めていくとともに、群馬県の大綱を基本とし、「市文化財保存活用地域計画」策定に向けた策定準備、情報収集を進めていく必要があります。

前橋市では従来から、文化材の適切な保護、管理、普及啓発活動や新たな貴重な文化的資産の調査などに努めてまいりました。

平成26年度から4か年に渡って実施してきました蚕糸業に係る歴史的建造物等の調査につきましては、その成果として、臨江閣に引き続き「塩原家住宅」が令和元年12月27日に国の重要文化財に指定されました。

臨江閣は、順調に貸館・入館者数ともに増え、地域の歴史資産としての有効活用が進められています。また、同じく国指定史跡である大室古墳群においても、群馬デスティネーションキャンペーンによる先行PRにより、市内外から多くの来訪者をお迎えしました。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響が県内でも広がりはじめ、先の見通しが難しい中、感染症予防を図りながら、文化財関連施設の活用と管理、イベント等の普及啓発事業の実施に新たな創意工夫が必要となると考えています。

そのような状況の中でも、地域の歴史的な遺産の継承、未だ土に埋もれたままの「歴史」を調査することも、我々の大きな使命のひとつです。

引き続き進めている上野国府、総社古墳群の範囲内容確認調査をはじめ、元総社蒼海遺跡群、上細井中西部遺跡群など、市内各地の遺跡でその歴史を紐解く地道な作業が続けられています。

この冊子には、令和元年度における、それらの成果がまとめられています。

文化財に関わる活動を通して、市民が郷土への愛着の心を育み、連綿と築かれてきた歴史文化を未来に繋いでいけるよう、今後の施策を実施してまいりたいと思います。

令和2年3月

前橋市教育委員会

教育長 塩崎 政江

目 次

はじめに

第1章 指定文化財

1 国重要文化財の新指定	1
2 史跡八幡山古墳の追加指定	4

第2章 文化財保護事業

1 保護管理運営事業	5
2 整備事業	13
3 普及事業	16

第3章 埋蔵文化財事業

1 埋蔵文化財発掘調査事業	24
①令和元年度 上野国府等範囲内容確認調査	48
②令和元年度 上細井中西部遺跡群発掘調査概報告	50
③元総社蒼海遺跡群（133）	83
④元総社蒼海遺跡群（134）	84
⑤元総社蒼海遺跡群（135）	85
⑥元総社蒼海遺跡群（136）	86
⑦元総社蒼海遺跡群（137）	87
⑧元総社蒼海遺跡群（138）	88
⑨元総社蒼海遺跡群（139）	89
⑩元総社蒼海遺跡群（11街区）	90
⑪西部第一落合遺跡群（1）	96
⑫前橋城（市役所西地点）	97
⑬天神風呂N地点遺跡	98
⑭西大室上縄引II遺跡	99
⑮令和元年度 山王廃寺範囲内容確認調査	100
⑯小島田八日市古墳	101
2 市内遺跡発掘調査事業	105
3 遺跡台帳整備事業	105
4 埋蔵文化財資料整備事業	105
5 文化財資料管理	108
6 上野国府等保存整備事業	109
7 山王廃寺埋納坑から出土した塑像	111

あとがき

第1章 指定文化財

本年度は、国指定重要文化財1件、ぐんま絹遺産登録1件、八幡山古墳の追加指定が行われた。

1 国重要文化財の新指定

(1)名称及び員数

名称：塩原家住宅	3棟	(所有者：個人)
主屋	1棟	
裏蔵	1棟	
稻荷社	1棟	

附

蚕種保護室	1棟	蚕種冷蔵庫	1棟
変電室	1棟	自動車車庫	1棟
味噌蔵	1棟	米つき小屋	1棟
作業小屋			1棟

土地（前橋市田口町地内）

(2)所在地

群馬県前橋市田口町地内
所有者住所：前橋市田口町

※所有者が個人のため、詳細は非公開
とします。

(3)年代

主屋：大正元年（1912）
裏蔵：江戸末期（慶応2年（1866）以前の可
能性あり）
稻荷社：明治40年（1907）

(4)指定基準について

指定基準
「(3)歴史的価値の高いもの」、
「(5)流派または地方的特色において顕著なもの」

(5)概要

塩原家住宅は前橋市北西部の田口町に所在し、利根川の左岸に位置し、旧国道17号と上武道路（国道17号バイパス）が交差する位置の北東にある小高い丘陵地にある。

明治期から昭和期において中毛地区における蚕種製造を主導した塩原家の蚕種製造への関わりは、初代佐平が、村の有志と明治12年（1879）に共同稚蚕飼育所を設立したことにはじまる。明治14年（1881）には養蚕飼育試験場と改称して、蚕種（カイコの卵）の製造・販売を本格的に開始し、

やがて独自の改良種である「塩原又（亦）」が県内外に広く販売された。そこで、事業の拡張を図り、明治末期から大正期にかけて、前身の茅葺民家を現存の3階建の主屋（今回、重要文化財となる建物）へと建て替えた。その後は戦後の昭和26年（1951）に蚕種冷蔵室、昭和31年（1956）に自動車車庫を整備するなど施設を整え、昭和32年（1957）に塩原蚕種株式会社を設立するが、昭和40年代に蚕糸業界が全国的に低迷期に入り、昭和54年（1979）に会社を休業し、平成8年（1996）に廃業となった。

塩原家住宅が所在する敷地は5,000平方メートルを超えており、西側に石垣を築き、主屋は敷地の北寄りに南を正面として建てられている。そして、主屋を囲むように裏蔵、稻荷社、蚕種冷蔵室、米つき小屋、味噌蔵、前蔵などの付属施設が建ち並んでいる。

塩原家住宅の主屋は、1階を蚕種製造としての使用は限定的で大半を居室空間とし、2階を養蚕作業に、3階を蚕種作業に用いた、国内でも最大級と思われる養蚕農家建築である。この主屋は、群馬県及びその周辺において、幕末から明治期にかけて蚕種飼育法とともに発展してきた蚕種製造民家の集大成として高い価値を有している。また、敷地内には蚕種製造の工程を伝える一連の建物が残り、蚕種に関する文献資料も多く残り、明治から戦後に至るまでの近代蚕種製造民家の様相をよく示すものとして重要なである。

(6)構造・形式及び特徴

①本指定
○主屋：木造、建築面積434.47m²、3階建、桟瓦葺

主屋は文献資料等から大正元年（1912）の建設と考えられる。南東部や西側の増築部以外の本体は3階建であり、外壁は土壁である。屋根上には「総檜」と呼ばれる換気のための越屋根（屋根上に付けられた小さな屋根）をもつ。

1階は住居と事務室、台所として使用されており、蚕種業に関わることとしては、東側にある土間の地下に桑貯蔵庫があったほか、その西側のチャノマで作業を行っていた。

養蚕及び蚕種に関連して使われた2・3階は約28.2m×10.8mの広大な屋内空間がある。南北の外壁はすべて窓となっており、2階と3階の間にも換気口が設置されるなど通気を重視していたことがわかる。

2階は、全体を養蚕作業に使っていた。南北の窓沿いと中央の階段部分を通路としたほかは4室に分けて蚕室としていた。

3階は、全体を蚕種作業に使っていた。2階のような間仕切りは無かったものの部屋番号を記した木札が残ることから、区分けして使用していたことがわかる。中央北側に梯子がかけられ、屋根上の「総檜」へと登れるようになっている。

○裏蔵：土蔵造、建築面積32.85m²、2階建、桟瓦葺

建築年代は明らかではないが、内部には炭化した建築材が残っていることから、慶応2年（1866）に強盗が入り、火を付けられた蔵の1つと考えられる。内部の仕上げは厚い横板を用いて丁寧に造られており、大きな文庫蔵（書物等の保管の蔵）と考えられている。

○稻荷社：木造、一間社流造、銅板葺

社に至る石段の石柱に「明治四拾年四月吉辰」とあることから明治40年（1907）の建立である。主屋の背面（北側）の西隅に安置されている屋敷神であり、盛り土の上に立てられている。屋敷神の本殿としては本格的な造りであり、当時の塩原家の勢いを示すものと思われる。



裏蔵



稻荷社

2 ぐんま絹遺産登録

（1）名称

塩原家住宅（旧塩原蚕種株式会社社屋）他
蚕種業関係施設

（2）員数

11棟

（3）種別

建造物

（4）絹にかかる史実、由来、沿革等の内容

明治期から昭和において中毛地区における蚕種製造を主導した塩原家の蚕種製造への関わりは、初代佐平が、村の有志と明治12年に共同稚蚕飼育所を設立したことにはじまる。明治14年に家業として蚕種業を本格的に開始し、やがて原蚕種の塩原又の注文が全国から相次ぐようになった。そこで、事業の拡張を図り、明治末期から大正期にかけて、前身の茅葺民家を現存の三階建の主屋へと建て替えた。その後は戦後の昭和26年に蚕種冷蔵室、自動車車庫等を整備し、昭和32年に塩原蚕種株式会社を設立する



主屋

が、蚕糸業界が全国的に低迷期に入り、昭和54年に会社を休業し、平成8年に廃業となった。

約5,000平方メートルに及ぶ土地を造成した敷地は、西側に石垣を築き、主屋は敷地北寄りに南面して建ち、これを囲むように裏蔵、蚕種冷蔵室、米つき小屋、味噌蔵、前蔵などが建ち並ぶ。敷地北東隅の高台には蚕種保護室を立てる。

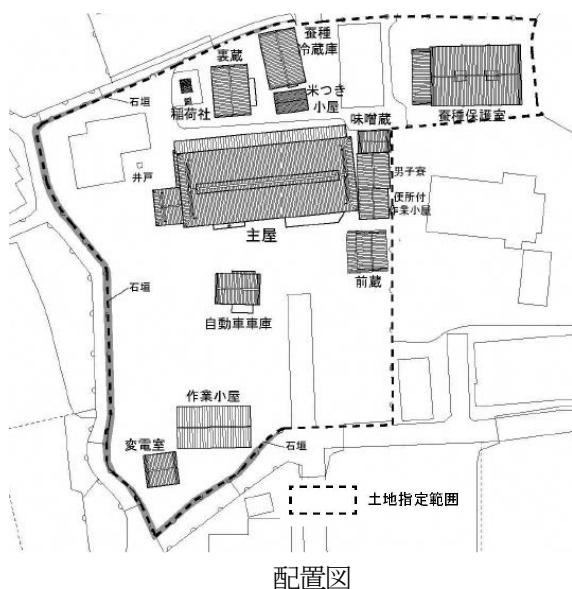
塩原家住宅の主屋は、1階は蚕種製造としての使用は限定的で、大半が居住空間とし、2階を養蚕作業に、3階を蚕種作業に用いた国内でも最大級の養蚕農家建築である。この主屋は、群馬県及びその周辺において、幕末から明治期にかけて蚕種飼育法とともに発展してきた蚕種製造民家の集大成として高い価値を有している。また、敷地内には蚕種製造の工程を伝える一連の建物が残り、蚕種に関する文献資料も多く残り、明治から戦後に至る近代蚕種製造民家の様相を良く示す物として重要である。



塩原家住宅 遠景



所有者 塩原京子さん



2 史跡八幡山古墳の追加指定

(1) 指定名称および指定年月日

名 称 史跡八幡山古墳

史跡指定 昭和 24 年 7 月 13 日

追加指定 昭和 55 年 3 月 22 日

平成 15 年 8 月 27 日

令和 2 年 3 月 10 日

(2) 指定等の対象の所在地

既指定地

所在 前橋市朝倉町四丁目 9-3 外 6 筆

面積 22,076.84 m²

追加指定地

所在 前橋市朝倉町四丁目 9-10 外 2 筆

面積 587.00 m²

(3) 概要

八幡山古墳は、広瀬川右岸の台地縁辺に形成された朝倉・広瀬古墳群の端緒をなす前方後方墳で、4世紀前半の築造である。130mの墳丘長を持つ前方後方墳は東日本最大規模である。墳丘は2段築成で、葺石を施す。主体部は後方部墳頂に竪穴系の埋葬施設を持つと考えられる。周堀は不整長方形を呈し、兆域は南北 190m以上、東西 130m以上を測る。

本古墳は高崎市所在の元島名將軍塚古墳（前方後方墳）とともに本県域で最古段階の古墳で、古墳時代の幕開けとともに大規模な農業開発をけん引した盟主の古墳とみられる。

今回条件が整ったため、周堀の南西部を追加指定するものである。



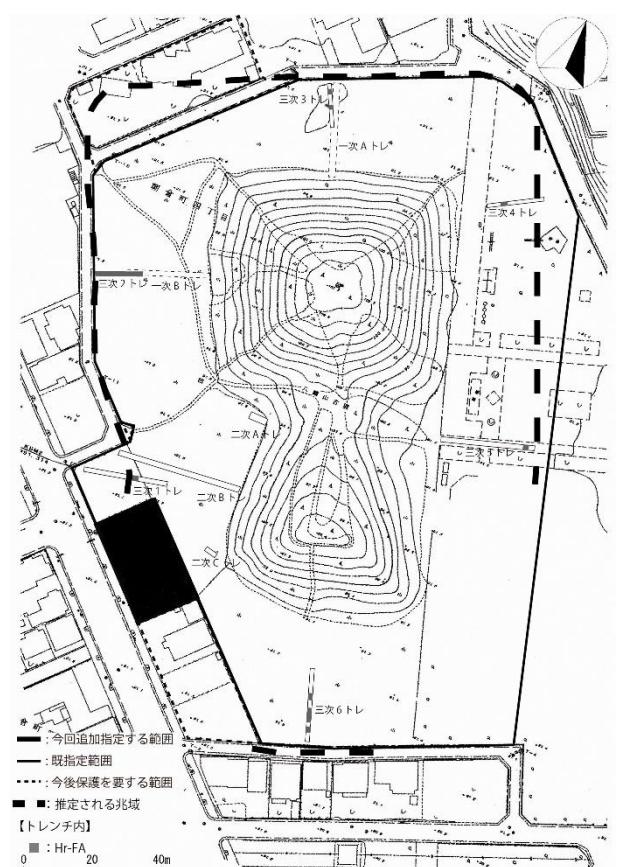
八幡山古墳航空写真（南より）



八幡山古墳墳丘（南西より）



八幡山古墳調査写真（葺石検出状況）



八幡山古墳の兆域（黒塗り部分が追加指定箇所）

第2章 文化財保護事業

1 保護管理運営事業

(1) 国有文化財管理

国有文化財天川二子山古墳と総社二子山古墳の2箇所について実施した。見廻り看視、清掃等の日常管理については、自治会役員を国有文化財看視人として委託した。落枝の処分については、職員が定期的に行なった。定期除草は、天川二子山古墳は前橋市シルバーパートナーメンバーに、総社二子山古墳は「みんなの店運営委員会」に業務委託し、それぞれ2回実施した。

(2) 国・県・市指定文化財管理

令和2年3月末日現在の指定文化財の数は、以下一覧表の通りである。

指定名称	国指定	県指定	市指定	合計
重要文化財	7	38	140	185
史跡	11	12	45	68
無形文化財	0	0	0	0
有形民俗文化財	0	0	24	24
無形民俗文化財	0	2	21	23
天然記念物	2	3	13	18
名勝	0	1	0	1
合計	20	56	243	319
登録有形文化財	24			24
登録有形民俗文化財	1			1
重要美術品	8			8

① 史跡の樹木管理

- ・危険樹木の伐採（蛇穴山古墳南側3・前二子山古墳北側道路沿2・遠見山古墳北側2・天川二子山古墳西側1東側1・不二山古墳東側2・五代大日塚古墳西側2）
- ・樹木剪定（総社二子山古墳西側・東電実施・遠見山古墳北側1）
- ・樹木撤去（中二子山古墳北側1墳丘部1・八幡山古墳前方部東側1・女堀東沼1）

② 史跡等の除草

市が管理する史跡等について、地元自治会、前橋市シルバーパートナーメンバー及び業者に委託して環境美化に努めた。

除草業務一覧表

	史跡名	区分 (指定)	除草面積 延べ(m ²)
1	前橋城 車橋門跡	市	1,125
2	亀塚山古墳	市	7,452
3	金冠塚古墳	市	7,221
4	八幡山古墳	国	33,708
5	宝塔山古墳	国	2,204
6	蛇穴山古墳	国	400
7	蛇穴山古墳 隣接地	国	1,308
8	総社二子山 古墳隣接地	国	792
9	女堀(1)	国	85,992
10	不二山古墳	市	1,142
11	大日塚古墳	市	1,124
12	荒砥富士山 古墳	市	2,700
13	大胡城跡	県	23,620
14	大胡城跡(急 傾斜地)	県	5,000
15	堀越古墳	県	582
16	遠見山古墳	市	3,886
17	阿久沢家住 宅	国	2,400
18	膳城跡(1)	県	3,171
19	旧本間酒店	市	2,000
20	女堀(2)	国	5,666
21	今井神社古 墳	市	4,624
22	天神山古墳	県	1,095
23	膳城跡(2)	県	14,820
合計			212,032

③ 害虫防除

市が管理する史跡5ヶ所において、樹木に発生する害虫アメリカシロヒトリの防除作業を職員が樹幹注入型殺虫剤を用いて実施した。

実施日 令和元年5月14日

実施場所 ①天川二子山古墳 ②総社二子山古墳
③遠見山古墳

実施樹木 90本

④ スズメバチ駆除

宝塔山古墳・飯土井町女堀でスズメバチが発生したため、駆除を行った。

実施日 宝塔山古墳……令和元年 7月26日
飯土井町女堀……令和元年 10月 3日

⑤その他の環境整備

寄附を受けた不二山古墳の土地（780m²）について職員直営で樹木伐採等の整備を実施した。



	附・天皇東宮行幸啓関係資料六冊	西側の欄間窓、ガラス1枚破損。
県重	旧アメリカン・ボード宣教師館	窓の木製建具、2階天井内装、地下階漏水対策、堅樋等の修繕。
市無民	上泉の獅子舞 附獅子頭3点	獅子頭の一つ法眼の頭部を支える内側支柱の補修。
市天	三夜沢のブナ	枝折れ。

②防火査察及び文化財防火訓練

ア 防火査察

39件の文化財査察対象物に対して7班編成を組み、前橋市消防局(各消防署地域安全係)、東京電力パワーグリッド、関東電気保安協会と協力して、合同立入査察を実施した。

○令和2年1月22日(水)

《中央消防署：6施設》

市水道資料館(敷島町)、市浄水場排水塔(敷島町)、旧蚕糸試験場事務所棟(敷島町)、旧大竹酒造煉瓦蔵(三河町一丁目)、萩原家住宅主屋座敷(朝日町一丁目)、萩原家旧蔵(朝日町一丁目)

《中央消防署：6施設》

群馬県庁本庁舎(大手町一丁目)、群馬会館(大手町二丁目)、前橋カトリック教会聖堂

(大手町二丁目)、臨江閣(本館、別館、茶室)(大手町三丁目)、市中央児童遊園のなばあく もくば館(大手町三丁目)、旧勝山社煉瓦蔵(本町二丁目)

○令和2年1月23日(木)

《中央消防署：3施設》

広瀬川美術館(旧近藤嘉男アトリエ及び 絵画教室ラ・ポンヌ)(千代田町三丁目)、旧安田銀行担保倉庫(協同組合前橋商品市場倉庫)(住吉町二丁目)、上泉郷蔵(上泉町)

《東消防署：14施設》

上毛電気鉄道大胡駅駅舎・大胡駅電車庫・大胡駅変電所・大胡駅壁雷鉄塔・大胡駅中継鉄塔・大胡駅引留鉄塔・大胡駅受電鉄塔・荒砥川橋梁・粕川橋梁(茂木町)、阿久沢家住宅(柏倉町)、柏倉諏訪神社の歌舞伎舞台(柏倉町)、三夜沢赤城神社本殿内宮殿(三夜沢町)、三夜沢赤城神社本殿並びに中門(三夜沢町)、赤城神社惣門(三夜沢町)

(3) 文化財の保護

① 指定文化財の現状変更について

今年度の現状変更は、国指定が6件、県指定が1件、市指定が2件であった。

詳細は一覧の通り。

種別	指定名称	内容
国特天	カモシカ	死亡(1件)
国史	山王廃寺跡	史跡地内の日枝神社社殿新築のため試掘。
国史	山王廃寺跡	史跡地内にある日枝神社社殿新築。
国史	山王廃寺跡	史跡地内にある日枝神社社殿新築に伴う試掘。
国史	女堀	倒木の除去。
国重	臨江閣三棟	臨江閣別館2階

《南消防署：3施設》

産泰神社本殿・幣殿・拝殿・神門及び境内地（下大屋町）、旧関根家住宅 一棟（西大室町）、旧アメリカン・ボード宣教師館 一棟（小屋原町）

○○令和2年1月24日(金)

《西消防署：6施設》

上野総社神社本殿 一棟（元総社町一丁目）、総社神社拝殿（元総社町一丁目）、旧本間酒造店舗兼主屋・酒蔵及び釜屋（総社町総社）、光厳寺薬医門（総社町総社）、大徳寺総門（小相木町）

《北消防署：1施設》

旧小暮一の鳥居（富士見町小暮）

イ 文化財防火訓練

想定：1月26日午前9時55分頃、二宮赤城神社北側林野から出火、参拝客が火災を発見し、119番通報するとともに社務所にいた宮司に連絡、参拝客と宮司が懸命な初期消火活動を行うが本殿及び拝殿へ延焼中の模様。またこの火災により宮司と参拝客が文化財の絵馬を搬出しようとして逃げ遅れたもの。参拝客、宮司による初期消火（消火器）。119通報による特命建物火災による消防の出勤、要救助者の救出・救護、一斉放水の実施。

○令和2年1月26日(日)

午前10時00分から午前11時00分まで
二宮赤城神社（前橋市二之宮町886番地）

〈参加機関〉

前橋市消防局（南消防署、城南分署、中央消防署）
前橋市消防団（第4方面団、第11分団1部、第12分団3部、第13分団3部、第14分団1部・4部、第15分団1部・2部）
前橋市教育委員会事務局文化財保護課
二宮赤城神社



1/26 二宮赤城神社



訓練の様子

③文化財パトロール

市内を10地区に分け、各地区に文化財保護指導員を配置し、指定文化財のパトロールを行った。月1度の報告により除草や修理の対応をした。第1回会議は平成31年4月22日に行い、令和元年6月22日開催の情報交換会現地視察では、元総社蒼海遺跡群の発掘状況の見学を行った。



元総社蒼海遺跡群発掘状況の見学

(4) 前橋市総社歴史資料館の管理・活用

前橋市総社歴史資料館の来館者数は、今年度、初めて10,000人を超えた。今年度も、ミニ企画展を数回実施し好評を得た。

資料館の見学の対応には、地元で組織されている説明員の会に委託を行っている。毎年9月下旬から11月中旬かけて、市内の小学4年生が天狗岩用水の現地見学に訪れている。「秋元氏と天狗岩用水」の展示を中心に解説を行い、昔の天狗岩用水工事に使った道具の体験の案内をもしている。今年は、小学3年生も社会科見学に訪れ、「昔の暮らし」の学習を行った。その他、多くの団体や個人、学校・一般を問わず来館者の要望に応じて、館内はもとより総社地区の古墳の説明や付近の史跡の案内にも応じている。さらに説明員の会には、近隣の史跡の清掃も月3回、年間36回程度の活動を依頼している。

総社歴史資料館の開館日数は308日、来館者数は約10,600人。そのうち学校の社会科見学は、2,802人にのぼる。

3月には説明員の研修会を例年通り計画したが、コロナウイルス感染症の影響で中止とした。今回の研修は、「佐渡奉行街道と天狗岩用水を探る」をテーマに玉村町、前橋市、渋川市を中心に現地研修、天狗岩用水を下流から現在の取り入れ口まで、また総社町をつらぬく佐渡奉行街道をたどるコースを予定していた。



総社歴史資料館

(6) 前橋市粕川歴史民俗資料館の管理・活用

粕川歴史民族資料館は、大胡、宮城、粕川地区などの赤城南麓地域の歴史や民俗が学習できる施設として活用している。今年度は春期及び秋期に企画展を開催し、多くの市民に関心を持っていただくことをねらった。

年間の開館日数は219日、入場者数合計2311人。
春期企画展「赤城南麓の製鉄遺跡」
開催期間：平成31年4月26日(金)～
令和 元年9月22日(日)
入場者数：810人

秋季企画展「前橋藩第4代藩主酒井忠清とその時代」

開催期間：令和元年10月19日(土)～
令和2年 3月 1日(日)
入場者数：1,501人

(7) 阿久沢家住宅の管理・活用

本住宅の管理については、開館日はシルバー人材センターに委託。令和元年度の開館日数は191日。来館者は2,891人で過去最高の数になった。

また、住宅の燻蒸を業者に委託して年6回実施し、住宅の適切な維持管理に努めた。

昨年度に引き続き里山学校事業の会場として地元の子どもたちなどの学習の場となったほか、4月には庭先にある桜のライトアップを阿久沢家住宅活用委員会との共催で実施した。好評につき期間を延長し、4月1日(月)～4月18日(木)の18日間9時～21時まで連日開館し約582人が来場した。なお、期間中に演劇の公演と夜間解説会を実施した。

1月～2月にかけて小学1年生の国語教材「たぬきの糸車」に絡め、粕川歴史民俗資料館から糸車を借用して、ござに展示をした。学校教育課を通して、市内の小中学校に周知をした。

○中村ひろみ一人芝居『お花見と、ひとり芝居
「初恋橋」』 阿久沢家住宅

開催日 平成31年4月8日(月)
18:30～19:10 (公演)
19:10～19:30 (アフタートーク)
参加者 13人

○夜間解説会

開催日 平成31年4月9日(火)
19:00～19:30
参加者 12人

○「たぬきの糸車」(糸車の展示)

開催日 令和2年1月11日～令和2年2月29日
開館日のみ
来場者数 527人



中村ひろみ一人芝居



夜間解説会



糸車の展示

(8) 臨江閣の管理・活用

開館日の管理については、前橋市シルバー人材センターに委託し、2名常駐している。管理業務の委託では、機械警備業務、消防設備保守点検、雨樋及び屋根清掃などを業者委託した。なお、庭内の樹木は、公園管理事務所へ管理を依頼している。

9月と3月には、管理人・消防設備点検業者を呼んで、消防訓練を行った。

貸館では、お茶会や百人一首大会、演劇、演奏会、アコースティックライブ等さまざまな行事が行われた。撮影は結婚式の前撮りや七五三・成人式のほかコスプレの撮影が一年を通して頻繁に利用された。また、ドラマ「結婚できない男」や映画「映像研には手を出すな」等の撮影が行われた。

団体見学は、各種団体見学のほか、クラブツーリズムの見学が多かった。

月別入場者数

月	開館日数	入館者数（人）
4	26	7,705
5	27	9,280
6	26	4,220
7	26	2,773
8	27	2,875
9	25	5,151
10	27	5,375
11	26	4,757
12	24	3,047
1	24	3,003
2	25	4,045
3	26	5,289
合計	309	57,520

ジャンル別貸館利用割合

種別	件数	割合
写真撮影	115 件	73%
研修セミナー等	5 件	3%
茶会、いけばな等	7 件	4%
行政関係	12 件	8%
イベント	8 件	5%
その他	11 件	7%
合計	158 件	100%

使用料収入額 2,509千円

ひな人形展

本館1階にて寄附で受け入れたひな人形をボランティアの協力により展示した。3月1日に「臨江閣ひな祭り」を予定していたが、新型コロナウィルス感染拡大防止により中止した。

1月29日（水）～3月15日（日）



本館1階ひな人形展示の様子

(9) 前橋市蚕糸記念館の管理・活用

県指定重要文化財である旧蚕糸試験場事務棟を敷島公園ばら園内に移築し、昭和57年4月に前橋市蚕糸記念館として一般公開した。

開館日の管理は、前橋市シルバー人材センターに委託し、見学者の受付や館内外の清掃を行っている。

このほかの管理業務として、消防設備保守点検、樋及び周辺清掃業務をそれぞれ専門業者に委託した。

建物内の4つの展示室(①設立のいきさつ、開所当時の様子を示す資料②はき立てから繭出荷までの養蚕用具③上州座織をはじめとして製糸業に用いる道具器械④機織りや養蚕信仰の資料)において資料を展示し、蚕糸業とともに歩んできた前橋の近代化を偲ぶ記念館として公開している。

春のばら園まつり、秋のバラフェスタの開催に合せて、富岡製糸場世界遺産伝道師協会等の協力を得て、座織り体験・桑の木クラフト体験・まゆクラフト体験を数回行っている。

開館日は、4月～11月の土・日・祝日（ばら園まつり・バラフェスタ開催期間中は毎日）で本年度の来館者は4,584人であった。



座織り体験



桑の木クラフト体験



まゆクラフト体験

(10) 大室公園史跡の管理・活用

一般公開している大室古墳群の石室入口の鍵開閉や日常の保守・点検・清掃等については大室公園管理業者に委託している。

県内外から多くの見学者が訪れる公園内の古墳群であることから、市民ボランティア「古墳の語り部」が史跡案内等を行なっている。

例年6月に開催している大室イベントでは、各種体験コーナーを設けているが、令和元年度も座繰り体験等で富岡製糸場世界遺産伝道師協会の協力を得て開催することができた。

令和2年2月中旬からJR東日本の群馬デスティネーションキャンペーンの先行PRとして、大室古墳群等を紹介したテレビCMが放送され、来園者が大幅に増加した。

(11) 大室公園民家園の管理・活用

開園日の管理は前橋市シルバーハウスセンターに委託。令和元年度の開園日数は184日、来園者数は平成30年度の7,748人から大幅に増加し、13,138人となった。

群馬デスティネーションキャンペーンの影響により増加したと思われる。

茅葺屋根保存維持のための専門業者による燻蒸を6回実施した。

6月の「大室イベント」のほか、「大室古墳の教室」各事業での会場や「大室古墳の語り部」ボランティアの活動拠点としても、例年同様に利用された。



おおむろつか
大室古墳の語り部による古墳案内

(12) 旧本間酒造の管理・活用

H31.4.19 教育福祉常任委員会視察

R1.6.28 旧本間酒造利活用にかかる説明会（外トイレ工事、来年度に持ち越し決定）

R1.7.1 旧本間酒造ホングラ雨樋修理

R1.7.5 主屋和室エアコン取替

R1.7.5 シタミセエアコン設置

R1.9.7~23 現代美術展ソウウレシ開催
参加者750人

R1.10.9 管理謝礼4~9月分支払

R1.10.26~11.4 「秋、酒蔵にて」開催
参加者1726人

R2.1.7 掲示板設置工事終了

R2.3.9 旧本間酒造樹木剪定業務 南側

R2.1.14 ホングラ消防設備設置工事

R2.3.30 ホングラ白壁改修工事 西側

R2.3.30 北側扉設置工事

R2.3.30 ホングラ白壁改修工事 南側の一部

説明会出席者：総社地区自治会連合会正副会長・総社町栗島自治会長・総社地区生涯学習奨励員連絡協議会長・総社歴史資料館説明員の会会長顧問・総社地区民生委員児童委員協議会会長・総社地区老人クラブ連合会長・総社地区老人クラブ連合会・総社地区食生活改善推進員会長・HONMAYA代表



(13) 前橋市粕川出土文化財管理センターの管理・活用

現在施設は、赤城山南麓の旧町村の出土遺物の収蔵庫、隣接する粕川歴史民俗資料館の収蔵庫として、平成6年度から活用している。

施設内の機械警備、小荷物専用昇降機、浄化槽保守点検、消防設備保守点検は、業務委託により引き続き管理を行っている。

(14) 寄附の受け入れ

平成9年に市指定史跡として指定している不二山古墳の土地780m²を受け入れた。また、前橋藩に関係している太刀「肥前國住近江大塚藤原忠廣及び刀熊沢兼俊の2点は歴史的価値が高いということで寄附を受け入れた。

その他貴重な文化財資料を受け入れた。

No.	寄附名称
1	半鐘
2	瓦、土器（土師器、須恵器）、石器
3	計算尺
4	不二山古墳 土地
5	ひな人形（ケース入り）
6	たち、刀
7	史跡宝塔山古墳用地
8	ひな人形、御殿段飾り
9	大室古墳群の案内看板



No.6

上段：たち 肥前國住近江大塚藤原忠廣

下段：刀 熊沢兼俊



No.9 寄附看板（日本キャンパック（株）から）

(15) 刀剣の製作承認及び市有刀剣の管理

本年度の新規製作承認申請はなし。

新規に太刀1口、刀1口の寄付受け入れを行った。刀剣類を良好な状態で保存するため、毎年実施している専門的な技術者による手入れを、11月と2月の2回実施した。対象刀剣類は7種56口。

また、新規に寄附を受けた刀剣のうち、太刀「肥前國住近江大塚藤原忠廣」については保存状態が良好とは言えない状態であったことから、今後の適切な維持管理のため、錆取りを行った。



手入れの様子

○市有刀剣種類別所有数

太刀	4
刀	14
脇差	18
短刀	7
槍	5
薙刀	1
小柄・小刀	7
合計	56

2 整備事業

(1) 阿久沢家住宅耐震基礎診断事業

【概要】

阿久沢家住宅は、昭和45年に国の重要文化財の指定を受けた民家住宅である。本住宅は平成24年度の公有化以降建物周辺の環境整備や管理棟などの整備を行って、一般公開のほか里山学校事業などを実施し、保存と活用を図っている。

一方、平成21年度に群馬県が実施した耐震予備診断では基礎診断が必要と判定されていた。しかしながら、公有化時点ですでに屋根の劣化が著しく、雨漏りなどによる躯体への影響が懸念されていた。このため、平成26年度に緊急的に屋根葺替工事を実施し、当面の住宅の保存の目途が立ったことから、安全な利活用の推進を目的とし、令和元年度から2か年度事業として耐震基礎診断を実施している。

なお、事業の実施に当たっては国庫及び県費の補助を受けて実施した。診断業務は公益財団法人文化財建物保存技術協会に委託した。2か年度事業の1年目にあたる今年度は、実測調査や地盤調査、構造診断を実施し、構造診断の中間報告を受けた。

【スケジュール】

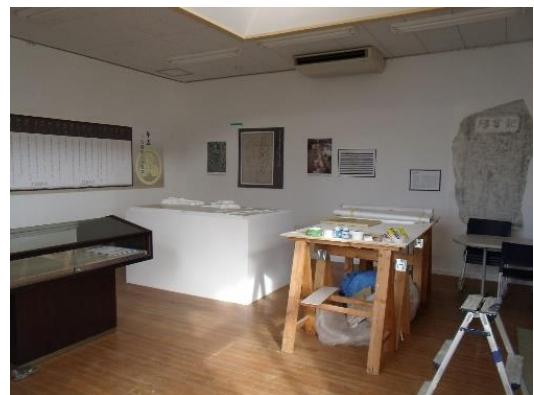
- 令和元年度 現地目視・実測調査、地盤調査、構造診断（中間）
- 令和2年度 構造診断、構造補強案の策定、報告書作成
- 令和3年度以降 耐震補強工事実施工設計、耐震補強工事



地盤調査の様子

(2) 大胡城跡ガイダンス施設整備事業

令和元年度は昨年度作成した展示造作物の微調整をした。南側門扉と通路の改修工事が令和元年1月25日に終わり、大胡城跡からの通行がスムーズにできるようになったので、文化財探訪で大胡城跡を巡った時にこの通路を使用した。



大胡城跡ガイダンス施設の内観



改修後の南側通路

(3) 指定文化財説明板の整備

説明板の新設及び書替を行った。

- ・説明板書替

全面張替 1箇所：富士見公民館案内看板・伯牙弾琴鏡
八幡宮文書 一巻九通（八幡宮）・力田遺愛碑（光巖寺）・
前橋市文化財めぐり（群馬総社駅）・

- ・一部張替 1箇所：石田玄圭の墓

- ・写真張替 4箇所：旧閑根家住宅

- ・新設 1箇所：総社二子山古墳駐車場案内

(4) 総社古墳群範囲内容確認調査事業

【概要】

平成 29 年度より実施している総社古墳群範囲内容確認調査について、3 年目にあたる今年度は、2 か年度に渡って調査を行った市指定史跡遠見山古墳の発掘調査報告書の作成と、次年度調査を予定している総社二子山古墳の現況測量を実施した。事業の実施に当たっては、「総社古墳群調査検討委員会」の指導を受けて行った。

「総社古墳群調査検討委員会」

委員長：右島和夫（群馬県立歴史博物館長）

委 員：林部均（国立歴史民俗博物館副館長）

：山本孝文（日本大学文理学部教授）

第1回委員会 令和元年8月25日

第2回委員会 令和2年2月11日

【遠見山古墳発掘調査報告書】

これまでの調査から推定される墳丘規模は、墳丘長 87.5m、後円部径 52.5m、前方部幅 58.0m を測る。内堀外端までの主軸長は 106m で、古墳南側で確認された溝が外堀とすると、兆域の主軸長は 136m となる。また、墳丘形状を復元すると、前方部北側で張り出しが認められた。その南側の墳丘上で土器による祭祀跡が検出されていることを考え合わせると、造出部の存在が推定される。墳丘に施された葺石の石材を調査したところ、現利根川水系の石材組成と近似していることが明らかになり、石材採集地の一つとして利根川の利用が推定された。

出土遺物は円筒埴輪が主体となる。円筒埴輪には、3 条突帯と 4 条突帯の 2 種が確認できたが、器高との相関関係は認められなかった。樹立位置としては、後円部の墳丘第一段縁辺で検出された埴輪列は 4 条突帯が主体で、墳丘第 2 段より転落した埴輪は 3 条突帯が多く確認されていることから、場所によって使い分けられている可能性がある。また、朝顔形埴輪も一定量出土していることから、一定の間隔で樹立されていたことが考えられる。

形象埴輪は、後円部南北の周堀から 2 点のみの出土で、南側周堀からは人物埴輪の下頸部片が出土している。小柄で、初期の人物埴輪の特徴を示し、手慣れた造りの印象を受ける。円筒埴輪と比較すると出土量が

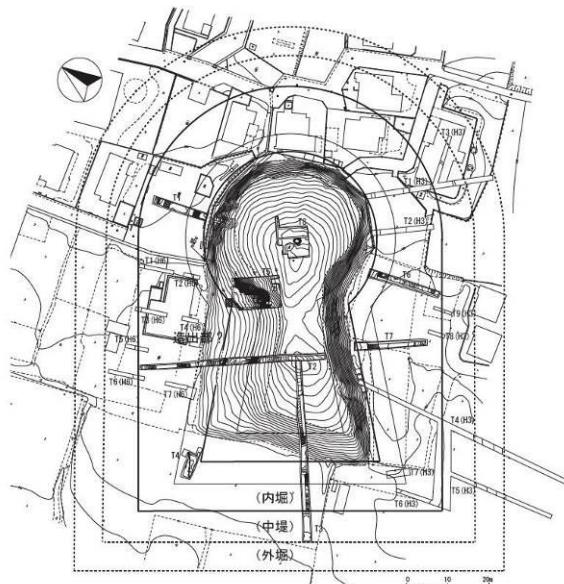
非常に少ないとから、中堤などに集中して配置していると考えられる。

榛名山の 6 世紀初頭の火山灰が周堀に堆積した状況や、祭祀跡出土の土師器や出土した埴輪の特徴から、本古墳は 5 世紀後半の築造であることが推定される。今後は他の古墳の範囲内容確認調査を進めるとともに、引き続き本古墳の調査を進め、主体部の位置の確認や、墳丘形状・兆域の正確な把握に努める必要がある。

【総社二子山古墳現況測量業務】

令和 2 年度に調査を予定している総社二子山古墳の調査に先立って、古墳および周囲の現況測量を実施した。墳丘の計測に当たっては地上レーザによる三次元計測を取り入れ、墳丘形状の正確な把握に努めた。

- 平面縮尺 250 分の 1
- 対象面積 約 29,000 m²
(墳丘部面積 約 4,700 m²)
- コンター 20cm コンター



遠見山古墳推定範囲図



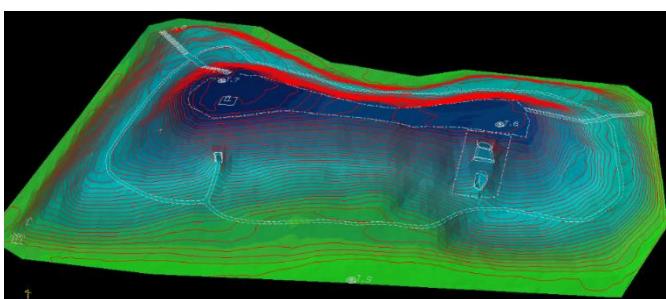
遠見山古墳墳丘くびれ部オルソ画像



遠見山古墳くびれ部埴輪列出土円筒埴輪



遠見山古墳祭祀跡出土土器



総社二子山古墳3次元計測図



総社二子山古墳現況測量図

(5) 大室公園古墳群等整備

関係課（観光振興課、公園管理事務所等）と連携し、群馬デスティネーションキャンペーンの先行整備を進め、利用者の利便性向上を図った。

文化財保護課

- ①前二子古墳石室入口前バリアフリー工事
- ②前二子古墳・中二子古墳立ち枯れ樹木伐採
- ③民家園高木剪定
- ④古墳案内看板4期設置（大室公園ネーミングライツ企業、日本キャンパック株から寄附）
- ⑤古墳パンフレットコーナー設置

公園管理事務所

- ①園内トイレ洋式化等工事
- ②立ち枯れ伐採、除草
- ③園内案内看板増設

観光振興課

- ①南駐車場に臨時おみやげ売店設置（市物産振興協会、土日祝日）
- ②南駐車場にキッチンカー配置（土日祝日）
- ③大室公園行きバスの増便調整



大室前二子古墳、中二子古墳周辺

3 普及事業

(1) 大室古墳群公開・普及イベント

本イベントは、国指定史跡を擁する大室古墳群を広く普及啓発することを目的として、平成17年度から毎年開催している。今回で15回目。なお、今年度は群馬県主催の「群馬古墳フェスタ」と共催とした。

① イベント名称

「大室古墳群公開・普及イベント2019」

② 日時：令和元年6月2日（日）

午前9時30分～午後3時30分

③ 会場：前橋市西大室町2545 他 大室公園内

④ 内容（市主催企画）：

〈古墳見学会〉

市民ボランティア解説員「大室古墳（つか）の語り部」による古墳案内

〈体験イベント〉

勾玉づくり、プラバンづくり、お面づくり、座繰り、桑の木クラフト、繭クラフト、古代衣裳

⑤ 参加者：延べ3, 556名

（市主催企画のみの参加人数）



(2) 大室古墳群市民ボランティア解説員（大室古墳の語り部）の活動

市民ボランティア解説員の会「大室古墳（つか）の語り部」は、一般市民の視点に立った文化財・史跡の普及活用を目指し平成18年に発足した。現在活動中の市民ボランティア解説員は、15名。ほとんどが地元在住で、地元にまつわるエピソードなども盛り込みながら案内・解説を行っている。春から秋にかけての定例説明会の他、団体や個人から見学依頼を受けて大室古墳群の案内を行っている。他に大室イベントや大室公園堅穴住居再生体験の協力など幅広く活動している。定例説明会は、「広報まえばし」や市ホームページでの広報も行い、市民に活動をアピールしている。

また、年度末には総会を開催し、翌年度の総括と来年度へ向けての活動計画を検討した。さらに、野外研修として、市外の史跡や解説団体（施設）を見学し資質向上に努めている。

① 定例活動（古墳案内等）

（5月～11月の主に第1土曜日）

令和元年度から南駐車場西を集合・出発場所として開催。

希望者が集まり次第、人数に応じてグループに分けるなど随時案内。

一週一時間程度。見学者 計 226名

② 学校・一般団体等の案内

随時受け付け。17団体へ実施。

見学者 計 227名

③ 研修会

市観光ボランティア会の研修のほか、会員で史跡や歴史施設の見学・研修を行っている。

令和元年度は、前橋城ゆかりの地を歩いて巡り、前橋城の遺構と歴史について主に学んだ。

④ 古墳の語り部養成講座

令和2年度の群馬デスティネーションキャンペーンの来場者に対応するため、養成講座を実施した。中澤邦夫会長が活動概要を説明し、第1部は井上唯雄顧問が「大室古墳群と民家園」について語り、第2部では実際に古墳巡りを体験する解説ツアーを実施した。

参加者は、6名で全員が古墳の語り部に加入した。



5月定例会の様子



古墳の語り部養成講座の様子（第1部）

(3) 第47回前橋市郷土芸能大会

毎年開催している郷土芸能の公演。市内から4つの団体と、近隣市町村から招待した2団体に出場いただいたほか、群馬県立桐生西高等学校と太鼓部の生徒にオープニング公演を依頼し、計7団体で公演を行った。

近隣市町村からの招待は、団体同士の交流と 研鑽を目的に始められ恒例となっている。今回は伊勢崎市より「東町囃子保存会」、 北群馬郡吉岡町より「下八幡宮獅子舞保存会」の皆様に出演いただいた。

恒例となっている抽選会も実施。これは余興的な催しである一方、より多くの方に来場いただき、最後の公演まで場内の活気を維持するねらいで実施している。市内16の企業・団体からご協賛を頂き、盛大に開催することができた。

マスコミ各社の後援協力を頂き、広報活動も積極的に行なった。延べ500名入場。

① 日時 令和元年11月23日（土）
午後0時40分～午後4時

② 会場 昌賢学園まえばしホール
(前橋市民文化会館) 小ホール

③ 出演団体一覧

郷土芸能の名称	保存会(団体)名	所在地
和太鼓演奏	群馬県立 桐生西高等学校 和太鼓部	桐生市 相生町
三夜沢赤城神社 太々神楽	同保存会	三夜沢町
東町屋台囃子	東町囃子保存会	伊勢崎市 境東
下八幡宮獅子舞	同保存会	吉岡町 南下
青柳の祇園	青柳町 郷土芸能保存会	青柳町
江田の 二十二夜様講	江田町自治会	江田町
清野町野良犬 獅子舞	同保存会	清野町



三夜沢赤城神社太々神楽



清野町野良犬獅子舞



群馬県立桐生西高等学校 和太鼓演奏

(4) 前橋・高崎連携文化財展

前橋・高崎連携文化活用事業として毎年開催している文化財展「東国千年の都」は、本年度で第13回目となった。

① 展示テーマ

東国千年の都

『前橋・高崎発掘物語。文化財を未来へつなぐ』

② 期日・会場

・前橋会場 令和2年1月8日～14日

K'BIX 元気21まえばし1階にぎわいホール

・高崎会場 令和2年1月18日～26日

高崎シティギャラリー 2階 第6展示室

③ 開催結果

来場者数3,355人

(前橋会場2,470人)



前橋会場：展示解説の様子

(5) 文化財探訪

この事業は、前橋市内にある文化財や施設の見学を通じて、市民の方々の生涯学習に役立て、文化財の意義・保護管理の大切さの理解を深めることを目的に、平成15年度から開始してきた。

令和元年度は、第1回目は歩いてめぐる文化財探訪「白鳳時代に思いを馳せて」として元総社地区を歩いてめぐった。第2回目は粕川歴史民俗資料館企画展関連事業「前橋の城跡をめぐる」としてバスと徒歩でめぐった。

〈第1回目〉

歩いてめぐる文化財探訪

「白鳳時代に思いを馳せて」

日 時 令和元年12月1日(日)

午前9時～午後2時15分

案 内 文化財保護課 副主幹 阿久澤 智和

参加者 21名(欠席者2名)

コース 元総社市民サービスセンター→宮鍋様→総社神社→東山道→国分寺→国分尼寺→山王廃寺跡→



〈第2回目〉

粕川歴史民俗資料館 企画展関連事業

「前橋の城跡をめぐる」

日 時 令和2年3月18日(日)

午前9時から午後1時

案 内 文化財保護課 専門員 小島 純一

参加者 30名(欠席者1名)

コース 市役所→大胡神社→大胡城跡→膳城跡→粕川歴史民俗資料館→市役所→車橋門跡→前橋城碑→高浜公園→長壁神社→龍海院



(6) 出張授業・出前講座

○出張授業「おもしろ文化財教室」

「おもしろ文化財教室」は、小・中学校の社会科や総合的な学習の時間などにおいて、本課職員が講師として学校や教育施設へ訪問し、授業を行うものである。担当教諭と事前打ち合わせを行い、授業のねらいや留意点などを確認し、児童・生徒たちにとって充実感や達成感のある授業をめざし実施した。今年度は、のべ20校 1,370名を指導した。

《実施概要一覧》

実施日	学校名 学年	実施内容(実施場所等)
4/24	桃井小6年	古墳見学(総社古墳群)
6/11	桃井小6年	勾玉づくり(PTA親子行事)
6/13	広瀬小6年	古墳学習プログラム(亀塚山古墳)
6/28	荒牧小5年	勾玉づくり(国立赤城青少年交流の家)
6/29	荒牧小5年	勾玉づくり(国立赤城青少年交流の家)
7/16	岩神小6年	縄文土器作り
7/26	若宮小4~6年	勾玉づくり(夏休みの体験教室)
8/2 午前	時沢小5年	勾玉づくり(国立赤城青少年交流の家)
8/2 午後	時沢小5年	勾玉づくり(国立赤城青少年交流の家)
10/11	元総社南小3年	昔の道具・くらし(粕川歴史民俗資料館)
10/16	桃瀬小3年	昔の道具・くらし(粕川歴史民俗資料館)

11/20	東小3年	昔の道具・くらし (粕川歴史民俗資料館)
11/21	六中1年	六中地区の歴史
11/29	桂萱東小3年	昔の道具・くらし (粕川歴史民俗資料館)
12/5	滝窪小3年 (含む分校)	昔の道具・くらし (粕川歴史民俗資料館)
12/6	粕川小3年	昔の道具・くらし (粕川歴史民俗資料館)
2/5	勝山小3年	昔の道具・くらし (粕川歴史民俗資料館)
2/6	大胡東小3年	昔の道具・くらし (粕川歴史民俗資料館)
2/7	月田小3年	昔の道具・くらし (粕川歴史民俗資料館)
2/21	城南小3年	郷土芸能(八幡宮おはやし・水神宮裸みこし)

出前講座(生涯学習課事業)

今年度の実施状況は以下の通り。

- i. 「前橋市の文化財行政」
2団体
- ii. 「明治のイギリス外交により見出された大室古墳群」
1団体
- iii. 「古代の東国に咲いた華 山王廃寺」
なし
- iv. 「解明! 古代前橋の中心「推定上野国府跡」
1団体

なお、この他にも地域の歴史勉強会等の団体や前橋市教育研究会社会科部会、前橋市社会科研究会等からの講師派遣依頼があった。

また、「公民館連携事業」に関連するものとして、「のびゆくこどもつどい」や地区の文化祭、児童文化センターとの連携事業等で合わせて4件の講師派遣依頼があり、勾玉づくり、埴輪づくり等を実施した。

(7) 職場体験学習

今年度は、0件であった。

(8) 文化財資料の貸出

出版社等からの依頼を受け、写真資料のか貸し出しを行なった。主な貸し出しは以下の通り。

貸し出し資料	貸し出し先
松平直基画像	TBSテレビ
旧安田銀行担保倉庫写真データ	株式会社エイエイピー
春日神社太々神楽(蚕の舞写真) 松平直克公肖像写真	株式会社天夢人
前橋城絵図 (貞享四年卯年八月十三日) 大胡城下絵図写真	岩宿博物館
大室はにわ館 ・外観 ・はにわ展示コーナー	株式会社ワニブックス
・白藤V-4号墳出土馬形埴輪 ・王山古墳調査風景 ・前橋天神山古墳埋葬施設 壺形土器	群馬県立歴史博物館
松平直矩画像	・松竹株式会社 ・公益社団法人姫路観光コンベンションビューロー 他
臨江閣外観	クラブツーリズム株式会社
・前二子古墳石室 ・大室古墳群空撮	株式会社洋泉社
・大室古墳群空撮 ・前二子古墳外観 ・前二子古墳石室内 ・須恵器装飾器台小像 ・前二子古墳出土装身具 ・前二子古墳出土埴輪 円筒埴輪 石見形埴輪 ・大室はにわ館内部 ・蛇穴山古墳外観(南側) ・蛇穴山古墳石室内 ・蛇穴山古墳棺台 ・蛇穴山古墳石室内漆喰 ・総社歴史資料館外観	群馬県文化振興課

山王金冠塚古墳空撮	上毛新聞社
・塩原家住宅全景 ・玄関の繭と蚕蛾の彫刻 ・塩原家住宅3階 ・裏蔵地階冷蔵室	上毛新聞社
・天狗岩堰用水 ・同ジオラマ	株式会社童夢
元景寺所在 「奉書写大仏頂万行首 楞嚴神呪供養塔」	長野原町

(9) 里山学校

平成31年度の教育委員会重点事業の1つである赤城山ろく里山学校（宮城地区）において、国指定重要文化財阿久沢家住宅を活用し、昔の暮らしを宮城小学校の児童を対象とし、体験学習を実施した。子ども達が地域の自然や文化を感じられるよう、半日体験の2回を企画した。

第1回

開催日時

令和元年7月7日（日）9：30～12：00

参加人数 25名

（宮城小学校13名、城南小学校12名）

活動内容

- ・オオムラサキの生態学習と観察、放蝶
- ・ジャガイモ掘り体験と試食



紙芝居の様子



オオムラサキのメス（左）とオス

第2回

令和元年10月26日（土）9:30～12:30

参加人数 13名

（宮城小学校12名、敷島小学校1名）

活動内容

- ・凧作りと凧揚げ体験
- ・サツマイモ掘り体験と焼き芋の試食



凧作りの様子



凧揚げに挑戦

(10) まえばし古墳の教室

主に小学生を対象とした体験学習や考古学講座を開講し、市内の埋蔵文化財の活用や本市の古代文化を紹介するとともに郷土愛を育むことを目的として開催した。

開催した普及事業

(1) 小学生夏休み森の考古学教室

時間：午前9時から午後0時まで

講師：文化財保護課職員

会場：総社歴史資料館学習室（第1、3回）

柏川歴史民俗資料館学習室（第2回）

総社公民館調理実習室（第4回）

第1回 はにわ作り

期日：令和元年7月25日（木）12名

第2回 まが玉作り

期日：令和元年8月1日（木）10名



第3回 かがみ作り

期日：令和元年8月8日（木）14名

第4回 土器クッキー&アイロンストラップ作り

期日：令和元年8月23日（金）15名



(2) 古代文様タイル制作 18名

日時：令和元年12月21日（土）

会場：前橋市総社歴史資料館学習室

講師：文化財保護課職員

(3) 鏡チョコレート作り 計55名

日時：令和2年2月1日（土）、2日（日）

会場：総社歴史資料館学習室

総社公民館調理実習室

講師：杉山 秀宏 先生

（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団

主任調査研究員



鏡チョコレート（抹茶味）

(1 1) 文化財調査事業

①前橋の蚕糸業に係る歴史的建造物等調査

【調査概要】

前橋市の蚕糸業にかかる歴史上重要な遺構及び文献を調査し、市域における蚕糸業の重要性を再評価するために実施する調査事業である。

平成30年度、「塩原蚕種の建造物と文書—前橋の蚕糸業に係る歴史的建造物等調査報告書」を5カ年計画の5年次として報告書を刊行した。しかし、これは塩原蚕種を中心とした調査・研究の成果であるため、その他の前橋市の蚕糸業にかかる歴史上重要な遺構及び文献について、引き続き調査を行うこととなった。また今年度は、国の重要文化財（建造物）に指定された塩原家住宅に伝わる「塩原佐平家文書」の今後の取り扱いについて検討する文書部会を開催した。

【構成員】

石井寛治顧問（東大名誉教授）

大野敏委員（横浜国立大学教授）

岡田昭二委員（前橋市文化財調査委員）

西川武臣委員（横浜開港資料館館長）

宮崎俊弥委員（元前橋国際大学教授）

村田敬一委員（県文化財保護審議会副会長）

【調査計画】（本年度は継続1年目）

計画年次	調査		内容
1年次	事前調査		委嘱式及び現地視察（塩原蚕種）
塩原蚕種に係る調査	「蚕糸業遺構調査（塩原蚕種建造物調査）」		・建造物調査 ・建造物に関係する部分の報告書作成
	「関連文献調査」		・塩原蚕種にかかる文献調査
	「聞き取り調査」		・塩原蚕種所有者及び関係者を対象に物件の歴史や活用状況、活動範囲等について詳細な聞き取りを行う。
	検討・計画		・調査成果から歴史的な価値付け等、整理、検討。 ・次年次の調査活動の計画について検証 ・計画の再構成等
4年次	蚕糸業	市内に残る蚕糸業に係る遺構関係	・市内の蚕糸業関連遺構の全体把握 ・蚕糸業関連遺構絞

に 係 る 調 査	調査	込みと詳細調査 等準備
	市内蚕糸業にかかる文献調査	・調査物件の過去の資料、既往の研究等から調査物件の歴史的意義や価値、変遷過程に関する調査等
	検討・計画	・次年次の調査活動の計画について検証 ・計画の再構成等
5年次	報告書作成	・報告書作成に当たって、必要に応じ、隨時補足調査を行い、調査内容の充実を図る。 報告書作成
継続年次	調査	・4カ年にわたって実施した調査内容を報告書として編集する。 ・専門部会及び委員会により精査し、報告書の内容を確認し発行。
令和元年	次年度の調整 「塩原佐平家文書」	文書の確認整理作業
令和2・3年度	菊水小林製糸所 池田撚糸 三栄撚糸工場	図面・写真・考察
令和4・5年度	報告書の作成 原稿執筆 印刷製本 「(仮) 前橋の蚕糸業」	調査成果から歴史的な価値付け等、整理、検討

第3章 埋蔵文化財事業

1 埋蔵文化財発掘調査事業

(1)令和元年度の発掘調査をふりかえって

今年度は、令和元年度埋蔵文化財発掘調査一覧表に示したとおり計16件の発掘調査を実施した。調査目的・原因別内訳は保存目的の範囲・内容確認調査2件、公共開発事業に伴う記録保存を目的とした調査11件、民間開発事業に伴う記録保存を目的とした調査3件である。記録保存目的の調査では公共開発に伴い2遺跡、民間開発に伴い2遺跡の調査を直営で実施し、他はすべて民間調査組織への委託により調査を実施した。

総発掘調査面積は20,155m²で、うち保存目的の調査が275m²、公共開発に伴う調査が19,272m²、民間開発に伴う調査が608m²であった。また、直営で行った調査は12,836m²、官民委託は7,319m²であった。以下に主な調査について概述する。

①上野国府等範囲内容確認調査

第2期5か年計画の4年目にあたる今年度は、7地点で8箇所のトレンチを設定し、国府関連遺構の検出に努めた。調査の結果、上野国府の中心施設ではないが、宮鍋神社南側付近より官衙に関連すると考えられる区画溝や掘込地業を検出することができた。上野国府等範囲内容確認調査では、ここ数年国府関連遺構の検出が続いている、上野国府を推定する材料が徐々に蓄積されている。

②小島田八日市古墳

古墳は国道50号線北側、市中南部の小島田町に位置し、個人住宅の建築に伴い調査を実施した。調査の結果、県内でも調査事例の少ない4世紀前半頃の古墳と推定され、本市では、前橋天神山古墳以来の調査となつた。古墳の主体部は後世の開発により削平されてしまっていたが、現存する墳丘部で追葬主体部を検出した。追葬主体部からは重圈文鏡、ガラス小玉、鉄製品が出土した。

③上細井中西部遺跡群No.2

県営上細井中西部地区土地改良事業に伴い平成30年度より5か年計画で直営調査を実施しており、今年度はその2年目になる。令和元年度の発掘調査は6月から開始し翌年1月にかけて実施した。調査の結果、縄文時代前期及び中期の堅穴住居跡や土坑、古墳時代から奈良・平安時代の堅穴住居跡や掘立柱建物跡等が多数検出された。

④元総社蒼海遺跡群(133)～(139)、(11街区)

元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群の発掘調査は、直営により2遺跡・346m²、民間委託により6遺跡・3,733m²の調査を実施した。

蒼海(133)は蒼海遺跡群南東部の宮鍋神社南側の宅

地造成に伴う調査である。昨年度調査を実施し総地業建物跡の南辺が検出された蒼海(127)の北側にあたる。調査の結果、南北約13m×東西約13mのほぼ正方形をとる総地業範囲を確認したが、礎石等は検出されなかった。調査区周辺では、蒼海(99)や国府28トレンチ等で地業建物跡が複数確認されており、これらの建物跡との関連が想定される。

蒼海(134)は区画整理区域東部境の西部環状線拡幅工事に伴い調査を実施した。259m²の狭い調査区であったが、古墳・平安時代の堅穴住居跡が密度濃く14軒検出された。また、調査区の中央部からは、東西に走行する上幅7.5m、深さ2.34m、断面逆台形の古代の大溝も検出されている。この大溝は、過年度に本調査区の周辺を調査した際にも検出されており、上野国府に関連する区画溝であると考えられる。

蒼海(135)は区画整理区域南東部に位置する。調査の結果、溝跡3条、井戸跡、ピットを検出した。検出した溝跡3条は、すべて蒼海城の堀跡と考えられ、南北方向に走行する堀跡は、蒼海城の本丸・二の丸の西側の堀跡にあたる。なお、本調査区は「蒼海城絵図」等から蒼海城本丸の南西、二の丸西部の「松井屋敷」とされる郭に該当し、柵列と考えられるピット列も検出されている。

蒼海(136)は遺跡群南東部の宮鍋神社南方に位置する。調査区はA・B区の2区に分かれしており、A区からは8～9世紀代と考えられる建物跡（総地業1棟・布地業1棟・掘立柱1棟）や古墳・平安時代の堅穴住居跡8軒を検出した。B区からは土坑・ピットが検出されただけで、大部分は近現代の攪乱であった。A区の周辺ではこれまで複数棟の建物跡が検出されており、構造的に官衙に関連する遺構群であると考えられる。

蒼海(137)は遺跡群北部の1区と中央部の2区に分かれている。1区からは6世紀末～10世紀代の堅穴住居跡8軒、2区からは7世紀末～11世紀代の堅穴住居跡37軒等が検出された。特筆すべき遺物としては、2区のH-26号住居跡から出土した八稜鏡、D-8号土坑から出土した銅鏡2面（五花鏡・素文鏡各1面）、鉄鐸、鉄鈴、雁又鎌があげられる。

蒼海(138)は区画整理区域南東部、県道足門・前橋線から北側に1本入った区画道路の築造に伴い調査を実施した。調査の結果、溝跡5条、ピット37基が検出された。検出された5条の溝跡のうち4条は蒼海城に関連する中世ものと考えられる。残りの1条は9世紀後半以前の古代の溝跡と想定されるが、底面が非常に硬化化するなど道としての利用も考えられる。

蒼海(139)は区画整理区域北西部、国分尼寺跡の南東に位置する。調査の結果、奈良・平安時代の堅穴住居跡5軒、道路状遺構1条、溝跡1条等が検出された。国分尼寺に近接する調査区であったことから、新たに

発見を期待したが、残念ながら尼寺に直接関連すると考えられる遺構は検出されなかった。

蒼海(11街区)は蒼海遺跡群北東部の牛池川左岸台地上に位置する。診療所の建設に伴い調査を実施した。調査の結果、堅穴住居跡6軒、鍛冶工房1軒、周溝墓1基を検出した。鍛冶工房は9世紀代のものと考えられ、床面や工房内のピットから金床石や鉄滓が出土した。

⑤西部第一落合遺跡群(1)

西部第一落合土地区画整理事業に伴い今年度より調査を開始した。今年度は积迦尊寺南方の道路予定地部分の調査を実施した。調査区は東西に走行する道・水路により南北に分断され、北側調査区からは断面逆台形の東西に走行する古代の溝跡や畠跡が検出された。また、南側調査区からは9世紀後半から11世紀代に帰属する堅穴住居跡34軒、堅穴状遺構2軒、溝跡17条、井戸跡11基等を検出した。

⑥天神風呂N地点遺跡

大胡地区の中心街から南西約1kmに位置する。市道00-360号線の築造に伴い調査を実施した。93m²と非常に狭い調査区であったが、縄文時代前期中葉の土坑3基、奈良・平安時代の堅穴住居6軒、溝跡1条、土坑14基等を検出した。これまでに周辺で調査した天神風呂遺跡群と同様の集落の傾向を示すものであった。

⑦前橋城（市役所西地点）

新市議会棟建設に伴い市役所の西側で調査を実施した。調査の結果、平安時代の堅穴住居跡1軒、近世の堀・溝跡16条、井戸跡14基、ピット等を検出した。特に、調査区の南辺から検出された前橋城の堀跡は、再築以前の酒井氏時代の「水曲輪」の堀と考えられる。また、多数検出されたピットの中には礎石を据えているものも確認され、侍屋敷の建物跡と考えられる。

⑧西大室上縄引遺跡II

大室公園の北西に位置し、変電所の建設に伴い調査を実施した。調査の結果、古墳時代後期の堅穴住居跡1軒と弘仁9年(818)の大地震に起因すると考えられる南北方向に走行する「地割れ」の痕跡が確認された。

⑨山王廃寺跡

日枝神社の建替えに伴い塔北側の範囲確認調査を実施した。調査の結果、トレンチ南半分で濃密な瓦片の分布が認められた。この瓦片の分布は、その検出された位置や出土状態から塔基壇外装の瓦積みの一部と考えられる。また、塔基壇外装の南で塔基壇の版築が認められた。

(2)台帳整備事業

令和元年度の台帳整備事業は、まず昨年度下半期に実施した本発掘調査及び試掘調査実施箇所のデータを9月までに、また本年度上半期のデータは2月までに遺跡地図に加筆した。また、過去5年間の試掘調査

実施箇所のうち遺跡地図未記入分について、改めてデータを整理し前橋市遺跡分布地図への書き込みを行った。なお、包蔵地の範囲変更が生じた場合は、隨時、県の情報システム上に反映されるよう、データの改訂を申請している。

(3)資料整備事業

①普及関係

埋蔵文化財普及パンフレット『い・せ・きワールドin前橋 2020』を刊行し、市内小・中学校に配布した他、一般用として公民館等の公共施設にも配布した。

埋蔵文化財資料の展示については、前橋・高崎連携文化財展において展示を行った。また、主に平成30年度に本市で発掘調査を実施した遺跡の出土品を中心に展示した「新収蔵品展」を令和元年11月6日から21日まで14日間の会期で臨江閣別館1階の西洋間において開催し、会期中2,246人の来館者があった。さらに、市内公民館および小学校、けやきウォーク、サンデンフォレストにおいて出土資料の貸出しや展示替えを行った。

②資料整備

昨年度に引き続き収蔵資料の整理を行い、調査図面・写真資料及び報告書等の整理・台帳作成はほぼ終了した。

出土遺物については、山王廃寺跡からの出土遺物を中心に収蔵整理及び台帳作成を行った。来年度以降も、スケジュールを立てて収蔵資料の整理を行い、複数年度に亘るが、将来的に収蔵資料の台帳化を行う予定である。

(4)開発に伴う事前協議

令和元年度は2,827件の開発事業に係る埋蔵文化財包蔵地の照会があった。また、文化財保護法第93条第1項の届出は803件となった。平成24年度『前橋市遺跡分布地図』情報の公開に伴う「周知の埋蔵文化財包蔵地」の拡大により、照会・届出件数が一気に増大したが、本年度は昨年度に比べてわずかに減少（包蔵地照会333件、93条届出57件）している。減少の要因については、2~3月の新型コロナウイルスの関連が考えられるが、大幅な減少とはなっておらず、相変わらず市内における開発事業の多さを物語っている。試掘・確認調査実施件数は42件であり、このうち29件で埋蔵文化財の存在を確認した。うち6件が発掘調査に移行し6件が現在調整中である。その他については、試掘調査結果を受けて計画変更等により現状保存を図った。その他に、各種開発工事中の立会調査を25件実施した。

(2) 令和元年度 埋蔵文化財発掘調査一覧表

	遺 跡 名	所在地	面積(m ²)	担当	調査原因	調査期間	主な内容
1	上野国府等範囲 内容確認調査	元総社町	271	阿久澤智和 齋藤 颯 梅澤克典	範囲内容確 認調査	9月 24 日 ～ 2月 28 日	平安住居跡、礎 石建物跡、道路 跡、溝跡、土坑
2	上細井中西部遺 跡群No. 2	上細井町	12, 050	小峰 篤 藤井賢一郎 村越純子	土地改良 事業	6月 6 日 ～ 1月 17 日	縄文住居跡、古 墳～平安住居 跡、掘立柱建物 跡、溝跡
3	元総社蒼海遺跡 群(133)	元総社町	203	阿久澤智和 齋藤 颯 梅澤克典	土地区画整 理事業	6月 14 日 ～ 12月 20 日	古墳～平安住居 跡、掘立柱建物 跡、基壇建物 跡、土坑、溝跡
4	元総社蒼海遺跡 群(134)	総社町総 社	259	スナガ環境測設 (株) 瀧澤典雄	土地区画整 理事業	7月 16 日 ～ 9月 26 日	古墳・平安住居 跡、溝跡
5	元総社蒼海遺跡 群(135)	元総社町	304	技研コンサル(株) 山田誠司	土地区画整 理事業	9月 5 日 ～ 9月 24 日	蒼海城堀跡
6	元総社蒼海遺跡 群(136)	元総社町	696	技研コンサル(株) 山田誠司	土地区画整 理事業	10月 15 日 ～ 11月 29 日	古墳～平安住居 跡、掘立柱建物 跡、基壇建物 跡、土坑、溝跡
7	元総社蒼海遺跡 群(137)	元総社町	1, 459	技研コンサル(株) 山田誠司	土地区画整 理事業	12月 5 日 ～ 2月 13 日	古墳～平安住居 跡、土坑、溝跡
8	元総社蒼海遺跡 群(138)	元総社町	702	技研コンサル(株) 前田和昭	土地区画整 理事業	12月 16 日 ～ 1月 6 日	蒼海城堀跡
9	元総社蒼海遺跡 群(139)	元総社町	313	技研コンサル(株) 前田和昭	土地区画整 理事業	12月 10 日 ～ 12月 24 日	奈良・平安住居 跡、道路状遺構
10	元総社蒼海遺跡 群(11 街区)	元総社町	143	神宮 智 岩丸展久 並木史一 寺内勝彦	診療所建設	11月 14 日 ～ 11月 19 日	奈良・平安住居 跡、鍛冶遺構、 周溝墓

	遺跡名	所在地	面積 (m ²)	担当	調査原因	調査期間	主な内容
11	西部第一落合遺跡群（1）	元総社町	2,524	技研コンサル(株) 佐野良平	土地区画整理事業	12月18日 ～ 3月 日	奈良・平安住居跡、溝跡、畠跡
12	前橋城（市役所西地点）	大手町	669	技研コンサル(株) 佐野良平	新議会棟建設	11月5日 ～ 11月26日	前橋城堀跡・平安住居跡
13	天神風呂N地点遺跡	茂木町	93	山下工業(株) 青木利文	道路築造	9月20日 ～ 10月10日	縄文土杭、奈良・平安住居跡
14	西大室上繩引遺跡II	西大室町	300	山下工業(株) 青木利文	変電所建設	10月15日 ～ 11月2日	古墳住居跡、平安地割跡
15	山王廃寺跡	総社町総社	4	阿久澤智和・ 齋藤 颯 村越純子 前原 豊	社殿改修にともなう範囲内容確認調査	3月23日 ～ 3月25日	塔北辺瓦積基壇、礎石と考えられる石
16	小島田八日市古墳	小島田町	165	並木史一 小島純一 前原 豊	個人住宅	5月8日 ～ 6月1日	古墳

(3) 令和元年度 埋蔵文化財報告書一覧表

No.	報告書名	発行者	発行年月日	備考
1	推定上野国府 ～平成30年度調査報告～	前橋市教育委員会	令和2年3月16日	
2	総社古墳群範囲内容確認調査報告書Ⅰ —遠見山古墳の調査—	前橋市教育委員会	令和2年3月16日	
3	元総社蒼海遺跡群(134)	前橋市教育委員会	令和2年2月28日	
4	元総社蒼海遺跡群(135)	前橋市教育委員会	令和2年3月10日	
5	元総社蒼海遺跡群(136)	前橋市教育委員会	令和2年3月27日	
6	元総社蒼海遺跡群(137)	前橋市教育委員会	令和2年3月27日	
7	元総社蒼海遺跡群(138)	前橋市教育委員会	令和2年3月27日	
8	元総社蒼海遺跡群(139)	前橋市教育委員会	令和2年3月27日	
9	天神風呂N地点遺跡	前橋市教育委員会	令和2年3月2日	
10	前橋城（市役所西地点）	前橋市教育委員会	令和2年3月19日	
11	西大室上縄引遺跡Ⅱ	前橋市教育委員会	令和2年3月31日	

(4) 令和元年度 立会調査一覧表

	所在 地	開発面積 (m ²)	開発原因	調査年月日	調査結果
1	新堀町 1047 の一部	811	フィットネスクラブ建築（合併浄化槽）	H31. 4. 10	As-B 下水田跡（畦畔 1 条）
2	元総社町 2276-4	230	個人住宅（基礎工事）	H31. 4. 23	埋蔵文化財検出なし
3	新堀町 1047 の一部	961	診療所建築（合併浄化槽）	R1. 5. 8	埋蔵文化財検出なし
4	東善町 943-2	1, 088	事務所併設倉庫建築	R1. 5. 15	埋蔵文化財検出なし
5	二之宮町 125-1	795	物置建築（表層地盤改良）	R1. 5. 17	埋蔵文化財検出なし
6	富士見町原之郷字旭久保 666 番、668 番 1、668 番 1 先水路	1, 978	店舗建設（L型擁壁設置工事）	R1. 6. 18	埋蔵文化財検出なし
7	茂木町地内	-	道路改良工事（重力式擁壁工事）	R1. 7. 8	埋蔵文化財検出なし
8	元総社町二丁目 27 番 3 の一部	240	個人住宅（基礎工事）	R1. 7. 25	遺構の検出なし。土師器片 3 片
9	元総社町字屋敷 2313 の一部	337	個人住宅（基礎工事）	R1. 8. 20	埋蔵文化財検出なし
10	江田町字村東 568-1 ほか 9 筆	3, 241	事務所	R1. 8. 21	古墳時代の水田跡
11	富士見町時沢 2794-1 ほか	-	道路整備工事（側溝布設）	R1. 9. 3	埋蔵文化財検出なし
12	粕川町室沢 1211-2	4, 976	太陽光発電所	R1. 9. 11	土坑 1 か所
13	富士見町時沢 2823-1 ほか	-	道路整備工事（側溝布設）	R1. 9. 17	埋蔵文化財検出なし
14	新堀町 1047 の一部	965	店舗建築	R1. 9. 30	埋蔵文化財検出なし
15	富士見町小暮 1055	-	道路改良工事	R1. 10. 2	埋蔵文化財検出なし
16	総社町総社 3137-2	-	土地区画整理（下水工事）	R1. 10. 23	平安時代の水田跡（畦畔検出なし）
17	元総社町二丁目 10	80	耐震性貯水槽設置	R1. 11. 18	埋蔵文化財検出なし
18	苗ヶ島町 924 先	-	道路改良工事	R1. 12. 10	埋蔵文化財検出なし
19	小島田町 649-1 ほか	844	個人住宅基礎工事	R1. 12. 6	埋蔵文化財検出なし
20	富士見町時沢 1770-1 ほか	-	道路改良工事	R2. 1. 15	埋蔵文化財検出なし
21	青梨子町 79-1、79-9	12	浸透槽設置工事	R2. 1. 17	埋蔵文化財検出なし
22	荻窪町 212-1、206-1	5, 464	伐採・伐根、資材置き場埋土	R2. 2. 4	堀跡
23	下佐鳥町 478	21, 618	倉庫増築工事	R2. 2. 14	埋蔵文化財検出なし
24	小島田町 172-ほか 4 筆	4, 944	店舗（碎石貯留施設・合併浄化槽）	R2. 3. 24	埋蔵文化財検出なし
25	東大室町 623 番 1	809	個人住宅（基礎工事）	R2. 3. 11	古墳周堀または溝跡

(5) ①令和元年度 試掘・確認調査一覧表

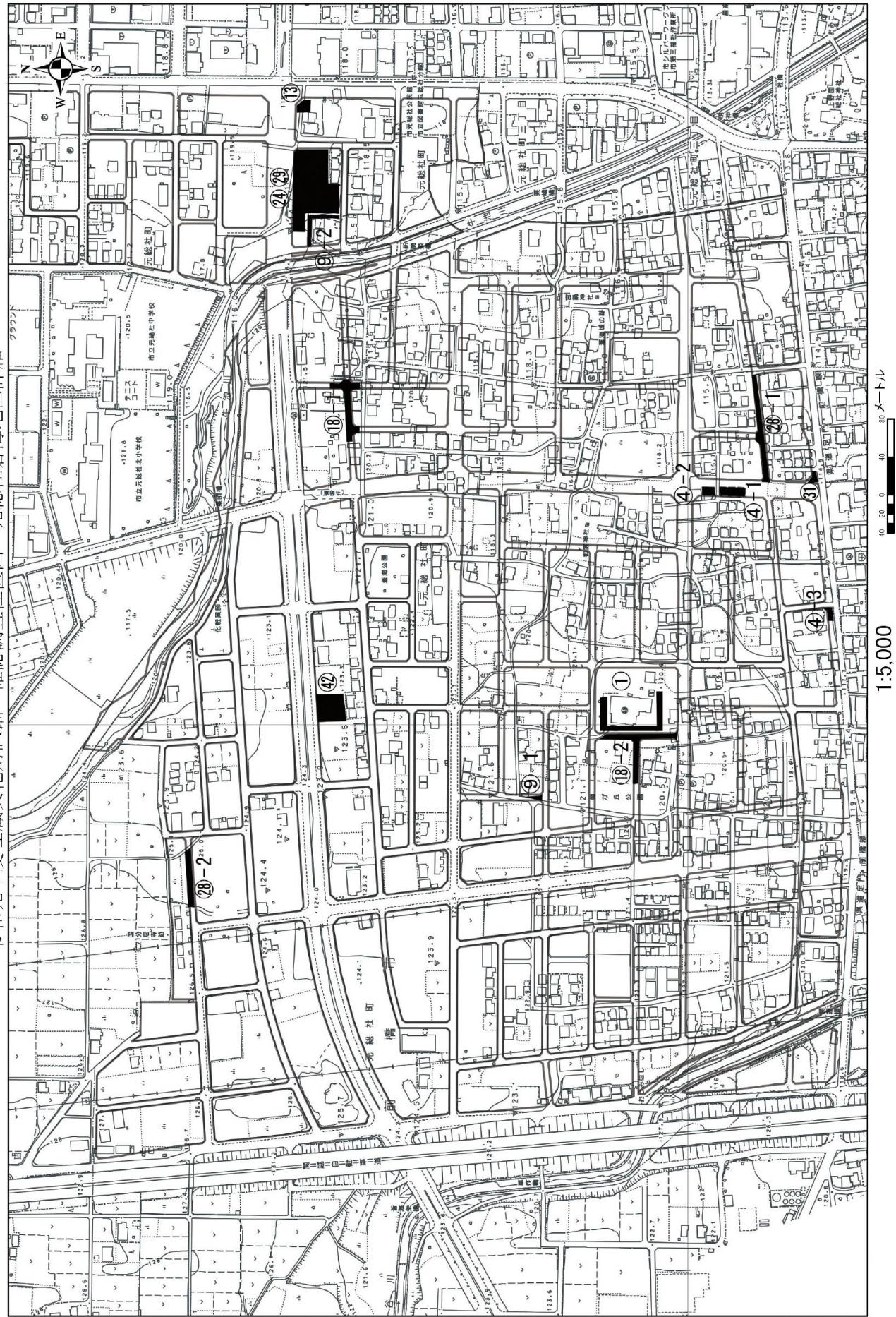
	所在地	開発面積 (m ²)	開発原因	調査年月日	調査結果
1	元総社町 1372-1 ほか	1,450	こども園舎建替え	H31. 4. 11	堅穴住居跡 1軒、中世溝跡 2条、柱穴 5基。土師器片、須恵器片
2	江木町 1251-1 他	3,466	障害者支援施設	R1. 5. 16	堅穴住居跡 1軒、性格不明遺構。土師器片、須恵器片
3	池端町 155-3 ほか	600	道路新設	R1. 5. 23	近現代の溝跡 1条
4	元総社町 2149-2 他	570	土地区画整理	R1. 5. 30	中世の溝跡 4条を検出した。土師器片 1、古代瓦片 1、内耳鍋片 1、陶器片 1
5	青梨子町 131-1 他	2,531	店舗建設	R1. 6. 13	遺構の検出なし。土師器片 2、須恵器甕片 1
6	堀越町 806 番 1 ほか	3,996	宅地造成	R1. 6. 18	柱穴 3基。土師器片、須恵器片
7	富士見町小暮 1792-5 ほか	5,355	道路改良	R1. 6. 19	遺構の検出なし。土師器片 1片
8	上細井町 1613 ほか	14,569	土地改良事業	R1. 7. 2	住居跡 11軒、溝跡、土坑、ピット等。縄文土器片、土師器片
9	元総社町 3607-4 ほか	254	土地区画整理	R1. 7. 23	溝跡 1条。土師器片 2個
10	箱田町字道下 28 番 3 ほか	951	宅地造成	R1. 8. 9	平安時代水田跡（畦畔）、中世土坑 2基
11	茂木町 242-1 番地ほか	12,200	道路築造	R1. 8. 16	堅穴住居跡 7軒。土師器、須恵器片、縄文土器片、鉄滓
12	元総社町 750-1 ほか	2,804	土地区画整理	R1. 8. 19	堅穴住居跡 35軒、溝跡 5条、土坑。土師器、須恵器片、灰釉陶器、鉄滓
13	総社町総社 3601-15 ほか	158	医院建築	R1. 8. 26	古墳時代の堅穴住居跡 1軒。土師器（口縁部の内湾する壺、完形 2点を含む）
14	富士見町原之郷字白川 816 番 1	1,828	宅地造成	R1. 8. 28	埋蔵文化財検出なし
15	富士見町時沢字上里 2229-1	1,027	建売住宅	R1. 9. 3	遺構の検出なし。縄文土器片、土師器片、須恵器片
16	鶴光路町 162 ほか	7,500	道路改良	R1. 9. 10	古墳時代の畠跡
17	小相木町字村南 600 番 1 ほか	4,377	宅地造成	R1. 9. 12	平安時代水田跡（畦畔）
18	元総社町 1986 ほか	1,459	土地区画整理	R1. 9. 18	堅穴住居跡 6軒、蒼海城堀跡。土師器、須恵器、瓦
19	上大島町 931 番ほか	7,747	公民館建築	R1. 9. 24	埋蔵文化財検出なし
20	総社町植野字堀之内 298 番 1 ほか	1,103	宅地造成	R1. 9. 26	埋蔵文化財検出なし
21	表町二丁目 29-2 ほか	4,061	複合ビル建設	R1. 10. 1	埋蔵文化財検出なし
22	江田町字田中境 200 番 1 ほか	932	宅地造成	R1. 10. 3	平安時代の畠跡。土師器、須恵器
23	富田町 12-6 ほか	2,800	道路改良	R1. 10. 9	埋蔵文化財検出なし
24	元総社町 3605-2 ほか	3,424	診療所建築	R1. 10. 11	堅穴住居跡 11軒、溝跡 1条、土坑 4基。土師器片
25	五代町字桧嶺 1296 番 1 ほか	4,381	介護施設建築	R1. 10. 24	柱穴 10基。土師器片
26	大手町一丁目 123-2 ほか	496	学校建築	R1. 10. 29	溝跡 3条、柱穴 6基、井戸跡 1基。土師器片、埴輪片
27	荻窪町 732-7 ほか	1,239	配水場建設	R1. 10. 31	堅穴住居跡 4軒、土坑、柱穴。土師器片、須恵器片

	所在 地	開発面 積 (m ²)	開発原因	調査年月 日	調 査 結 果
28	元総社町 2153-3 ほか	1, 372	土地区画整理	R1. 11. 7	1 区：蒼海城堀跡 3 条、土坑、柱穴、2 区：溝跡、土坑、落ち込み。土師器片、須恵器片
29	元総社町 3605-2 ほか	3, 424	診療所建築	R1. 11. 13	竪穴住居跡 4 軒、住居または溝跡 1 条、溝跡 1 条。土師器片
30	公田町 567 番 1 ほか	21, 939	店舗建設	R1. 12. 10 ～13	平安時代水田畦畔 16 条、中世溝跡 7 条、土坑、柱穴。土師器片
31	元総社町 2150-8 ほか	244	土地区画整理	R1. 12. 18	中世溝跡 3 条。土師器片
32	関根町 72 ほか	74, 000	道の駅整備及び道 路新設	R1. 12. 19 ～24	平安時代水田、古墳時代水田
33	総社町総社字昌楽寺廻窪道 2874 番 1 ほか	883	宅地造成	R2. 1. 9	竪穴住居跡 3 軒、落ち込み 1、土坑 2 基、柱穴 5 基。土師器片、須恵器片
34	朝倉町 115-1 ほか	730	道路新設	R2. 1. 15	竪穴住居跡 8 軒、土坑 1 基。土師器片、須恵器片
35	川曲町字柳橋 153 番 1 ほか	1, 356	校舎増築	R2. 1. 22	平安時代水田畦畔 11 条
36	箱田町字村前 1427 番ほか	994	宅地造成	R2. 2. 5	平安時代水田畦畔 1 条、溝跡 2 条
37	荒子町 1086 番地 1 ほか	2, 393	老人ホーム建設	R2. 2. 10	埋蔵文化財検出なし
38	総社町高井字十郎 91 番 4	183	店舗建設	R2. 2. 12	竪穴住居跡 2 軒、柱穴 1 基
39	鳥取町 814 番地 1 ほか	1, 771	公民館駐車場建設	R2. 2. 17	埋蔵文化財検出なし
40	池端町 154-1 ほか	950	道路新設	R2. 2. 19	古墳周堀カ、溝跡 2 条、土坑 1 基、ピット 2 基。土師器片
41	上細井町 1471 ほか	19, 326	土地改良事業	R2. 2. 25	住居跡 1 軒、土坑 4 基、溝跡 1 条、柱穴 1 基、性格不明遺構 1。縄文土器片、土師器片
42	元総社町 1754、1848-3	1, 111	倉庫建設	R2. 3. 12	住居跡 7 軒、土坑 4 基、柱穴 3 基。土師器片、瓦片

(5) ②令和元年度 埋蔵文化財試掘・確認調査位置図



令和元年度埋蔵文化財試掘・確認調査位置図 元総社着海地区詳細



(5) ③令和元年度 埋蔵文化財試掘・確認調査詳細

1 元総社町 1372 番地 1 ほか

開発面積 1,450 m² 開発原因 こども園舎建替

調査日 平成 31 年 4 月 11~13 日

調査の概要

開発予定地は東の牛池川、西の染谷川に挟まれた前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業区域内に位置する。北西に上野国分二寺、南東に総社神社を擁する上野国府推定域で、多数の発掘調査実績により縄文から近代まで濃密な遺跡地として知られる。

遺構確認は表土下 86.5~158cm の総社砂層漸移層上面で行った。調査の結果、園舎南側では、中世堀跡、竪穴住居跡等が検出された。園舎北側は遺構は検出されなかった。園舎西側は、表土下 130cm 以上まで埋土で、堀跡上層の攪乱部分である可能性がある。遺物は土師器片、須恵器片が出土した。

別紙元総社蒼海地区詳細①

2 江木町 1251 番地 1 ほか

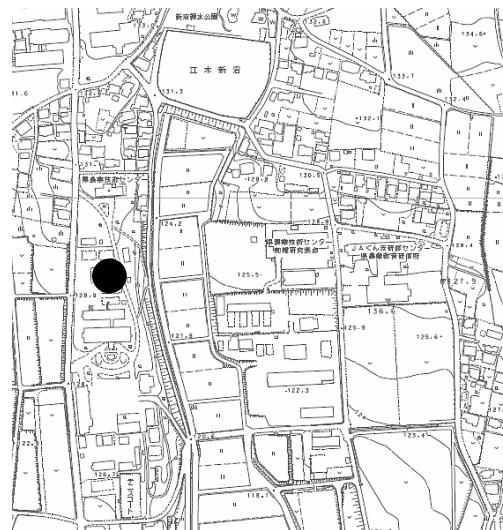
開発面積 3,466 m² 開発原因 障害者支援施設

調査日 令和元年 5 月 16 日

調査の概要

開発予定地は、旧群馬県農業技術センター跡地で、赤城山南麓に位置する。

遺構確認は表土下 36~56cm の暗褐色土上面で行い、調査の結果、竪穴住居跡 1 軒、性格不明遺構 1 基が検出された。新設建物の北東部の 1・2 トレンチでは遺構・遺物は確認されなかった。新設建物の北側中央部分の 3 トレンチ中央部で、平安時代の竪穴住居跡 1 軒を検出した。4・5 トレンチは遺構と見られる覆土を確認したが、大部分が攪乱を受けていた。5 トレンチでは土師器・須恵器片が出土している。なお、4 トレンチより南側の新設建物範囲については、旧建物により全域が攪乱を受けているものと想定される。



3 池端町 155 番地 3 ほか

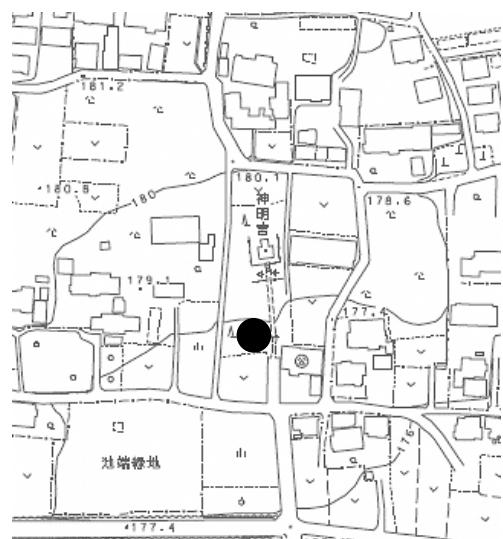
開発面積 600 m² 開発原因 道路新設

調査日 令和元年 5 月 23 日

調査の概要

開発予定地は関越自動車道駒寄 IC の南西約 500m の榛名山麓に位置する。隣接する神明宮は、小山が残り、群馬県古墳総覧に清里村 3 号古墳として掲載されている。

今回の調査は神明宮の南側部分となり、遺構確認は表土下 100cm の地山漸移層で行った。調査の結果、近現代の溝跡 1 条が検出されたのみであり、遺物の出土もなかった。



4 元総社町 2149 番地 2 ほか

開発面積 570 m² 開発原因 土地区画整理

調査日 令和元年 5 月 30 日

調査の概要

開発予定地は東の牛池川、西の染谷川に挟まれた前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業区域内に位置する。北西に上野国分二寺、南東に総社神社を擁する上野国府推定域で、多数の発掘調査実績により縄文から近代まで濃密な遺跡地として知られる。

3 地点の確認調査で、調査の結果、元総社線予定地の現道南側では、南北方向の蒼海城堀跡と直交する溝跡 2 条が検出された。現道北側では遺構は検出されなかった。足門線に面する地点では蒼海城堀跡が検出された。現道南側について、記録保存のための発掘調査を実施した。(元総社蒼海遺跡群(135))

別紙元総社蒼海地区詳細④

5 青梨子町 131 番地 1 ほか

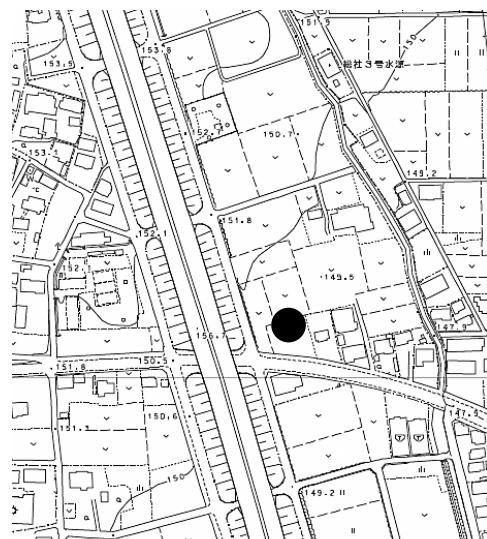
開発面積 2,531 m² 開発原因 店舗建設

調査日 令和元年 6 月 13 日

調査の概要

開発予定地は関越自動車道沿いの榛名山麓に位置する。西側 60m は、関越自動車道建設に伴って調査の行われた下東西遺跡となる。

遺構確認は、表土下 90~124cm の地山層、旧河道覆土で行った。調査の結果、少量の遺物は出土したが、Hr-FA 洪水層、As-C を多く含む黒色土層とともに一定の状態で堆積しており、遺構の検出はなかった。なお、現況表土は敷地北東側が高いが、古墳時代は低かったようであり、前述層の下層に多量の礫が堆積しており、低い部分が自然の旧河道であったと推定される。



6 堀越町 806 番地 1 ほか

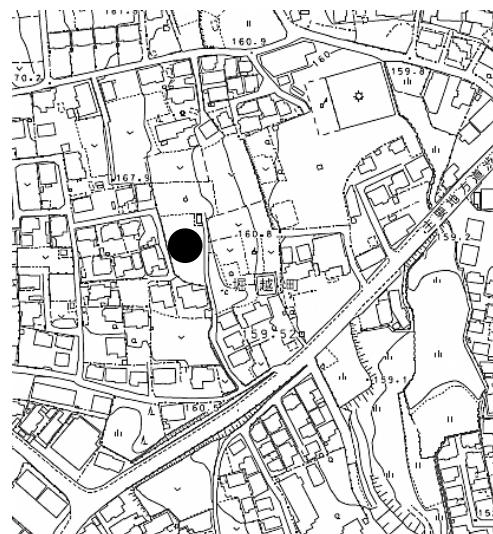
開発面積 3,996 m² 開発原因 宅地造成

調査日 令和元年 6 月 18 日

調査の概要

開発予定地は市立大胡小学校の西約 600m の赤城山麓に位置する。南側 500m は、宅地造成に伴って調査の行われた柳沢遺跡で、平安時代の住居跡が検出されている。

遺構確認は、表土下 54cm のローム漸移層で行った。調査の結果、柱穴 3 基を検出した。土師器片、須恵器片が出土した。1 基の柱穴から出土した土師器甕片から古代の可能性があり、他の柱穴も覆土が同様であることから、同時期と推定される。



7 富士見町小暮 1792 番地 5 ほか

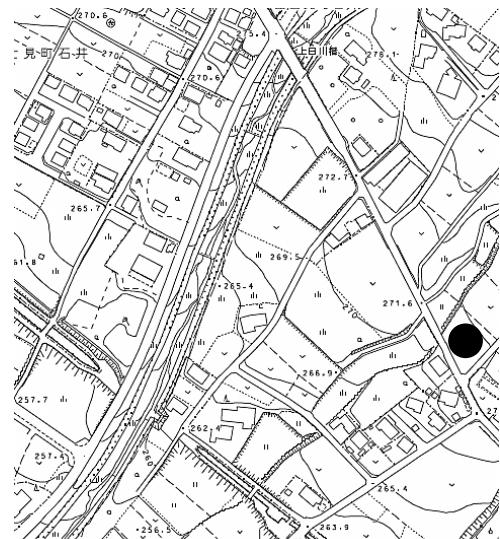
開発面積 5,355 m² 開発原因 道路改良

調査日 令和元年 6 月 19 日

調査の概要

開発予定地はふるさと農道の延伸工事予定地であり、群馬用水北側、赤城白川左岸の赤城山麓に位置する。周辺での調査実績は少ない。

遺構確認は、表土下 54~65cm のにぶい黄褐色地山層上面で行った。調査の結果、土師器片 1 片が出土したのみで、遺構の検出はなかった。表土下 29~35cm 程度までが現表土である耕作土であり、その下に As-C、Hr-FP を含む黒褐色土が一定に堆積していた。



8 上細井町 1613 番地ほか

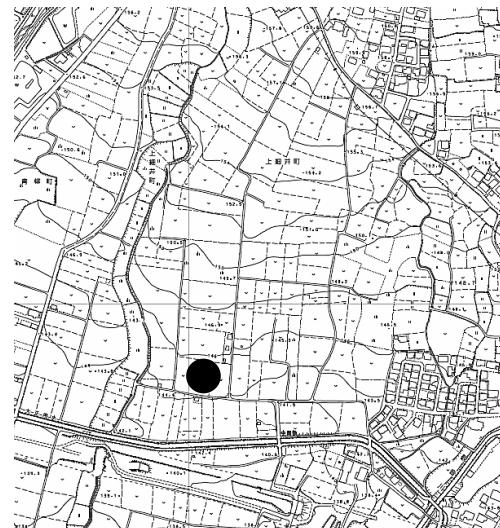
開発面積 14,569 m² 開発原因 土地改良事業

調査日 令和元年 7 月 2 日

調査の概要

開発地は、上武国道北側の赤城山麓南端に位置し、北から南に下る緩やかな斜面である。開発地南側は上武道路建設に伴って調査の行われた上細井蟬山遺跡であり、調査区南側の方が遺構密度が高い。この南側は、今回と同一の土地改良事業に伴って上細井中西部遺跡群 No. 2 の調査が行われ、多数の住居跡が検出されている。

遺構確認は、表土下 19~77cm のにぶい黄褐色～黒褐色のローム質土またはその漸移層上面で行った。全体で 13 本のトレンチ調査を行い、調査の結果、住居跡 11 軒、溝跡、土坑、ピット等を検出した。遺構の検出された箇所については、次年度に記録保存のための発掘調査を実施することとした。(上細井中西部遺跡群 No. 3)



9 元総社町 3607 番地 4 ほか

開発面積 254 m² 開発原因 土地区画整理

調査日 令和元年 7 月 23 日

調査の概要

開発予定地は東の牛池川、西の染谷川に挟まれた前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業区域内に位置する。北西に上野国分二寺、南東に総社神社を擁する上野国府推定域で、多数の発掘調査実績により縄文から近代まで濃密な遺跡地として知られる。

2 地点の確認調査で、梅ヶ丘公園北側では、表土下約 1 m の総社砂層漸移層で遺構確認を行い、遺構は検出されなかった。牛池川左岸では、表土下 20cm の総社砂層で遺構確認を行い、中世の溝跡 1 条が検出された。東西に走行し、上幅約 3 m、深さ約 1 m で、断面形状は薺研状を呈する。

別紙元総社蒼海地区詳細⑨

10 箱田町 28 番地 3 ほか

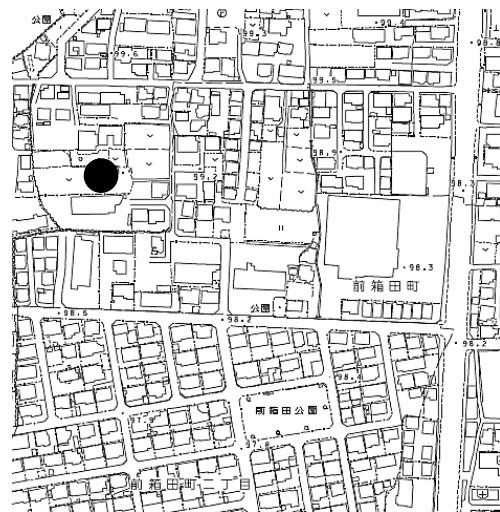
開発面積 951 m² 開発原因 宅地造成

調査日 令和元年 8 月 9 日

調査の概要

開発予定地は JR 新前橋駅の南約 1.5km、近年新たに開通した新前橋・川曲線の西側で、前橋台地の西部に位置する。平安時代の水田跡が広く確認されている地域で、開発地の東約 200m の前箱田村西 II 遺跡、同 III 遺跡でも確認されている。

遺構確認は表土下約 35cm の As-B 層で行い、調査の結果、As-B 下の水田跡を検出した。確認された畦畔は 6 条で、他に中世の土坑 2 基が確認された。



11 茂木町 242 番地 1 ほか

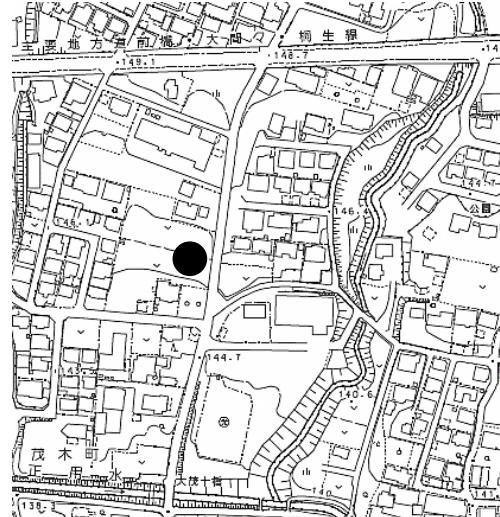
開発面積 12,200 m² 開発原因 道路築造

調査日 令和元年 8 月 16 日

調査の概要

開発予定地は主要地方道前橋・大間々・桐生線の南側で、赤城南麓に位置する。周辺台地上に天神風呂遺跡群が広がり、縄文から平安まで多くの遺跡が確認されている。

遺構確認は表土下約 50cm のローム質地山で行い、調査の結果、古墳時代から平安時代と推定される堅穴住居跡 7 軒を検出した。工事計画の変更による遺跡の現状保存が叶わなかつたため、記録保存のための発掘調査を実施した。(天神風呂 N 地点遺跡)



12 元総社町 750 番地 1 ほか

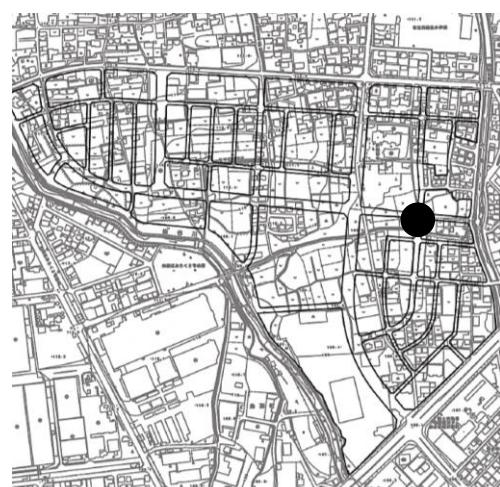
開発面積 2,804 m² 開発原因 土地区画整理

調査日 令和元年 8 月 19 日

調査の概要

開発予定地は主要地方道前橋・安中・富岡線の南で、東の牛池川、西の染谷川に挟まれた前橋都市計画事業西部第一落合土地区画整理事業区域内に位置する。北には、縄文から近代まで濃密な遺跡地として知られる元総社蒼海遺跡群が存在する。

開発予定地中央には水路が存在し、この北側では、遺構確認は表土下約 56cm、南側では表土下約 124cm の総社砂層で行った。調査の結果、開発予定地全体で広く遺構が検出された。とりわけ水路の南側は重複も多く、堅穴住居跡 35 軒等を検出し、灰釉陶器片等も出土した。遺跡の現状保存が叶わなかつたため、記録保存のための発掘調査を実施した。(西部第一落合遺跡群(1))



13 総社町総社 3601 番地 15 ほか

開発面積 158 m² 開発原因 医院建築

調査日 令和元年 8 月 26 日

調査の概要

開発予定地は東の牛池川、西の染谷川に挟まれた前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業区域内に位置する。北西に上野国分二寺、南東に総社神社を擁する上野国府推定域で、多数の発掘調査実績により縄文から近代まで濃密な遺跡地として知られる。

遺構確認は表土下約 35cm の As-C 混土層で行い、調査の結果、竪穴住居跡 1 軒を検出した。遺物は 6 世紀前半の口縁部が内湾する壺が完形で 2 点出土したほか、須恵器模倣杯も出土し、当該期の住居跡となると考えられる。

別紙元総社蒼海地区詳細⑬

14 富士見町原之郷 816 番地 1

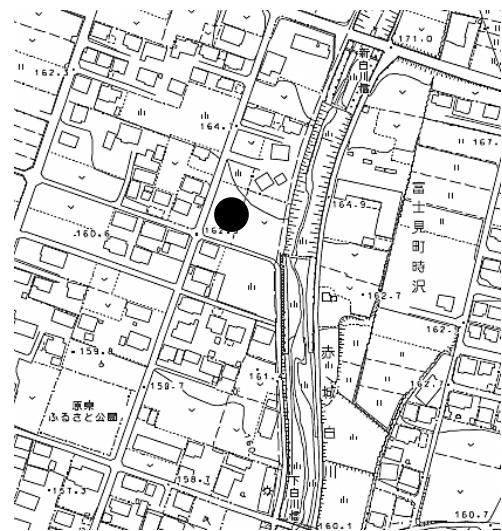
開発面積 1,828 m² 開発原因 宅地造成

調査日 令和元年 8 月 28 日

調査の概要

開発予定地は赤城白川右岸の赤城南麓に位置する。

遺構確認は表土下約 180cm のシルト質土層で行い、調査の結果、遺構、遺物は検出されなかった。表土下 1m 程度の深さには多量の礫を含む層があり、永く赤城白川の氾濫原であったと考えられる。



15 富士見町時沢 2229 番地 1

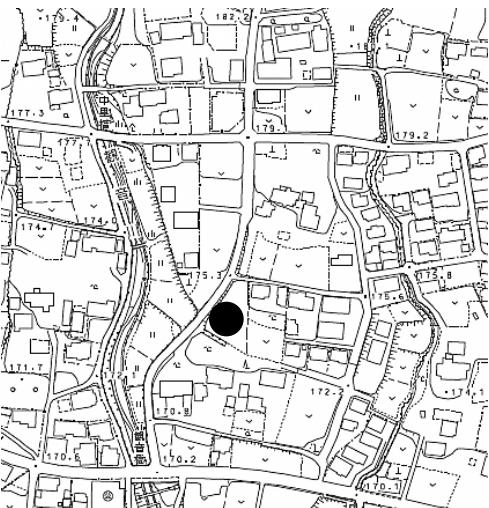
開発面積 1,027 m² 開発原因 建売住宅建築

調査日 令和元年 9 月 3 日

調査の概要

開発予定地は、観音川左岸の赤城南麓で、時沢上里遺跡の道路を挟んですぐ東側に位置する。

遺構確認は、表土下約 50cm 及び 74cm の淡色黒ボク土上面と下面で行い、調査の結果、縄文土器片、土師器片、須恵器片が出土したが、遺構は確認されなかった。縄文土器については、称名寺式を中心とした遺物包含層が確認されたが、遺構検出には至らなかった。時沢上里遺跡でも同様の土器が出土している。



16 鶴光路町 162 番地ほか

開発面積 7,500 m² 開発原因 道路改良

調査日 令和元年 9月 10 日

調査の概要

開発予定地は、北関東自動車道前橋南 IC の西側、旧前橋玉村線沿線で前橋台地の南部に位置する。前橋南 IC は西田遺跡として本発掘調査が行われ、水田 3 面等多数の遺構が確認されている。

遺構確認は、表土下約 50cm の浅間 C 軽石を含む黒色土層で行い、調査の結果、遺構、遺物は確認されなかった。As-B 下水田跡が想定される地域だが、遺構確認面より上層はほぼ残っておらず、遺構確認面より深くまで攪乱が及んでいる範囲が広かった。一方で、ごく一部の遺構確認面上部が残る部分では、直上に灰黄褐色の水流搅拌された Hr-FA 泥流層と見られる土が確認された。この下の浅間 C 軽石を含む黒色土層上面は凹凸があり、古墳時代中期の畠跡であった可能性が考えられる。



17 小相木町 600 番地 1 ほか

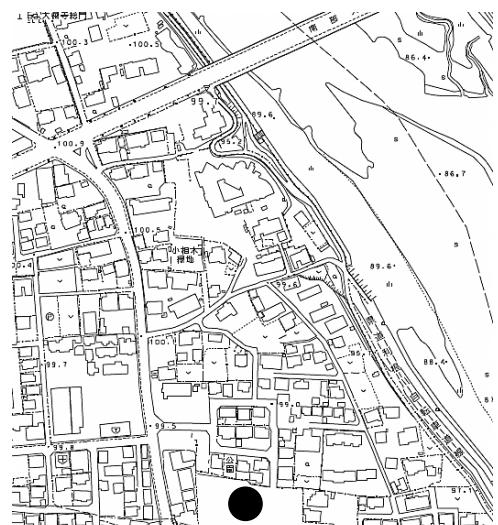
開発面積 4,377 m² 開発原因 宅地造成

調査日 令和元年 9月 12 日

調査の概要

開発予定地は、南部大橋の南側で、利根川右岸の前橋台地西部に位置する。As-B 下水田の広く残る東地区だが近隣に包蔵地はない。

遺構確認は、表土下 24cm の As-B 層で行い、調査の結果、As-B 下水田を検出した。開発地西側は、As-B 層の残存が悪く、遺構は確認されなかったが、東寄りは同層の堆積が見られ、畦畔 4 条が確認された。開発予定地は、包蔵地外であり、過去に北側でも畦畔は確認されなかつたものの、As-B の堆積が確認されており、水田が広がるものと考えられる。



18 元総社町 1986 番地ほか

開発面積 1,459 m² 開発原因 土地区画整理

調査日 令和元年 9月 18 日

調査の概要

開発予定地は東の牛池川、西の染谷川に挟まれた前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業区域内に位置する。北西に上野国分二寺、南東に総社神社を擁する上野国府推定域で、多数の発掘調査実績により縄文から近代まで濃密な遺跡地として知られる。

2 地点の確認調査で、調査の結果、中央大橋線の南側では、堅穴住居跡 2 軒等を検出した。元総社幼稚園西側では、堅穴住居跡 4 軒、溝跡 1 条等が検出された。ともに記録保存のための発掘調査を実施した。(元総社蒼海遺跡群(137))

別紙元総社蒼海地区詳細⑯

19 上大島町 931 番地ほか

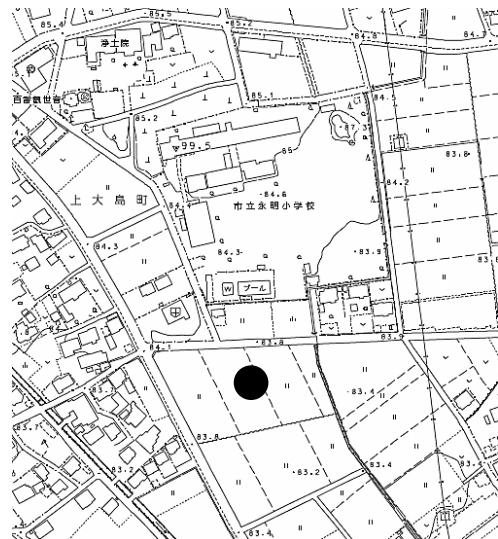
開発面積 7,747 m² 開発原因 公民館建築

調査日 令和元年 9月 24 日

調査の概要

開発予定地は市立永明小学校のすぐ南側の広瀬川低地帯内に位置し、周辺調査実績は少ない。

遺構確認は表土下約 30~40cm の礫層上面で行い、調査の結果、遺構、遺物は確認されなかった。広瀬川低地帯内の旧流路および氾濫平野に当たるとみられ、多量の礫が確認された。



20 総社町植野 298 番地 1 ほか

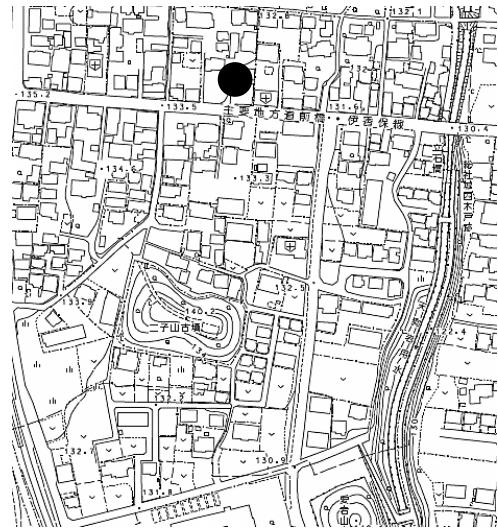
開発面積 1,103 m² 開発原因 宅地造成

調査日 令和元年 9月 26 日

調査の概要

開発予定地は主要地方道前橋・伊香保線沿い北側で、榛名山麓に位置する。総社古墳群の北側、勝山城および総社城の西となる。

遺構確認は表土下 84m の浅間C 軽石層下面で行った。浅間C 軽石の層は、川砂が混じり、水流による二次堆積層と思われる。下層の地山層にも川砂が混じり、鉄分の酸化も見られ、何度も水流があったと思われる。調査の結果、遺構、遺物は確認されなかった。



21 表町二丁目 29 番地 2 ほか

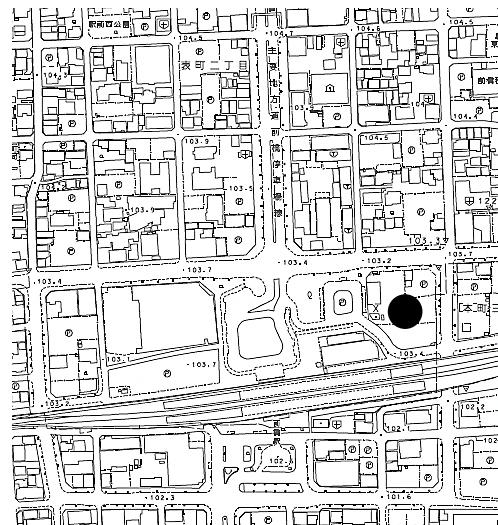
開発面積 4,061 m² 開発原因 複合ビル建設

調査日 令和元年 10月 1 日

調査の概要

開発予定地は J R 前橋駅北口ロータリーの東側で、前橋台地に位置する。周辺では、調査実績も遺構検出事例も少ない。

遺構確認は開発建物基礎から、表土下約 1.5mまで掘り下げたが、ほぼ埋土であった。一部に表土下 130cm よりも深い箇所で As-B 混土が確認され、かなりの深さがあり、現代のいずれかの時点で盛土したものと思われる。また、敷地東部となる 1 トレンチでは、表土の埋土の下層が、地山粘質土となることから、盛土をする際には、当時の地表面が削平された上で、埋めたものと考えられる。調査の結果、遺構、遺物は確認されなかった。



22 江田町 200 番地 1 ほか

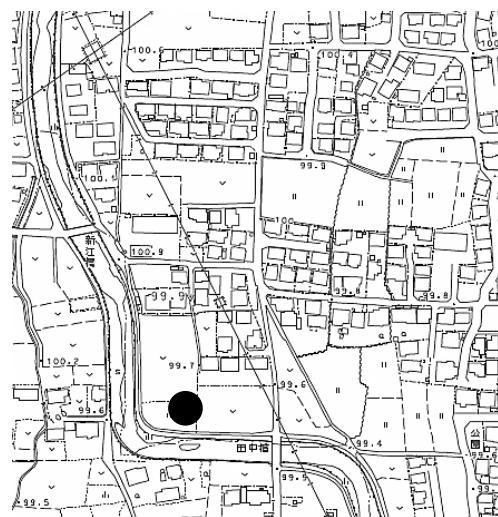
開発面積 932 m² 開発原因 宅地造成

調査日 令和元年 10 月 3 日

調査の概要

開発予定地は、高崎市と接する染谷川左岸で、前橋台地西端に位置する。東には前箱田村西Ⅲ遺跡等が存在し、As-B 下水田が広く検出されている。

遺構確認は、表土下約 1m の As-B 層およびその下の As-C を含む褐灰色土層で行い、調査の結果、平安時代の畠跡および水田の可能性のある As-B 層を検出した。工事予定地南側の 2 トレンチの東側には、全面に As-B 層が堆積していたが、畦畔は確認されなかった。西側 9m の範囲は 60~70cm の間隔で As-B が筋状に堆積しており、平安時代の畠跡と考えられる。その西側では、As-C 混土の下に川砂を多く含む旧河道が確認され、染谷川の旧流路の可能性もある。土器片が多く出土し、何らかの営みがあった可能性も考えられる。



23 富田町 12 番地 6 ほか

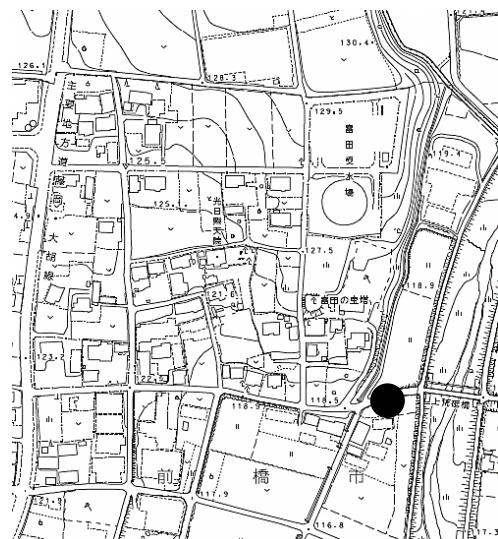
開発面積 2,800 m² 開発原因 道路改良

調査日 令和元年 10 月 9 日

調査の概要

開発予定地は、荒砥川右岸の富田受水場の南側となり、赤城南麓に位置する。東には前箱田村西Ⅲ遺跡等が存在し、As-B 水田が広く検出されている。

今回の調査は、令和元年度工事予定箇所部分である荒砥川右岸の土手に近い箇所のみの調査を行った。遺構確認は、表土下 170cm の川砂層（現道北側）および表土下 75cm の礫層（現道南側）で行い、調査の結果、遺構、遺物は確認されなかった。道路北側、南側いずれも川砂層および礫層が確認されたため、この付近までは荒砥川の氾濫原と考えられる。



24 元総社町 3605 番地 2 ほか

開発面積 3,424 m² 開発原因 診療所建築

調査日 令和元年 10 月 11 日

調査の概要

開発予定地は東の牛池川、西の染谷川に挟まれた前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業区域内に位置する。北西に上野国分二寺、南東に総社神社を擁する上野国府推定域で、多数の発掘調査実績により縄文から近代まで濃密な遺跡地として知られる。

遺構確認は、表土下 34cm の総社砂層で行い、調査の結果、堅穴住居跡 11 軒、溝跡 1 条、土坑 4 基を検出し、土師器片が出土した。当該地の遺構確認面は浅く、総社砂層地山まで削平されていたが、地山を掘り込む住居跡等の遺構が多数検出された。建設予定建物より西では、牛池川に近く遺構が薄くなるものの、その東側は河川近接地として多くの居住があったものと考えられる。

別紙元総社蒼海地区詳細②

25 五代町 1296 番地 1 ほか

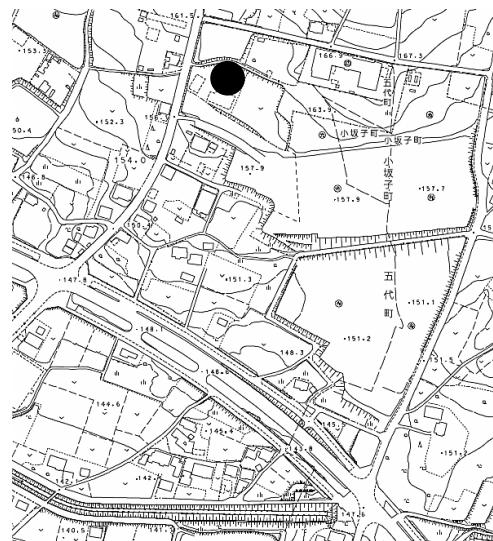
開発面積 4,381 m² 開発原因 介護施設建築

調査日 令和元年 10 月 24 日

調査の概要

開発予定地は、五代南部工業団地および上武道路の北側で、赤城南麓に位置する。五代桧峰遺跡および同II遺跡の西側に位置する。

遺構確認は、表土下約76cmの浅間C軽石を含む黒色土層または地山ローム層で行い、調査の結果、柱穴10基を検出した。近隣遺跡の状況から、古墳時代の集落等が確認される可能性も想定されたが、敷地東部の高み部分は、地山ローム層まで削平されており、勾配が下がった西側では、その上の浅間C軽石層が残っていたが、遺構の検出は柱穴のみであった。当該地の北や東はさらに標高が高くなるため、尾根部分を中心に居住したことが推測される。確認された柱穴は、集落の何らかの施設に伴う可能性も考えられる。



26 大手町一丁目 123 番地 2 ほか

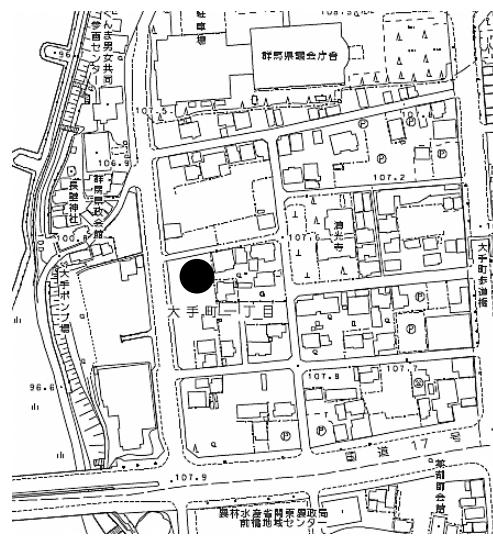
開発面積 496 m² 開発原因 学校建設

調査日 令和元年 10 月 29 日

調査の概要

開発予定地は、利根川左岸の群馬県庁南側で、広瀬川低地帯内に位置する。前橋城の縄張内で、付近では前橋城（南曲輪地点No.2）において調査が行われている。

遺構確認は、表土下約50cmの白色粘質地山で行い、調査の結果、前橋城堀跡を含む溝跡3条、柱穴6基、井戸跡1基が検出された。うち1条の溝跡は、前橋城（南曲輪地点No.2）の堀跡と同一遺構と推定されるが、この堀跡は前橋城絵図には描かれておらず、走行位置・方向は不明である。堀跡内からは埴輪が出土している。前述遺跡における調査でも出土が見られ、付近に古墳があったことが推測される。



27 萩窪町 732 番地 7 ほか

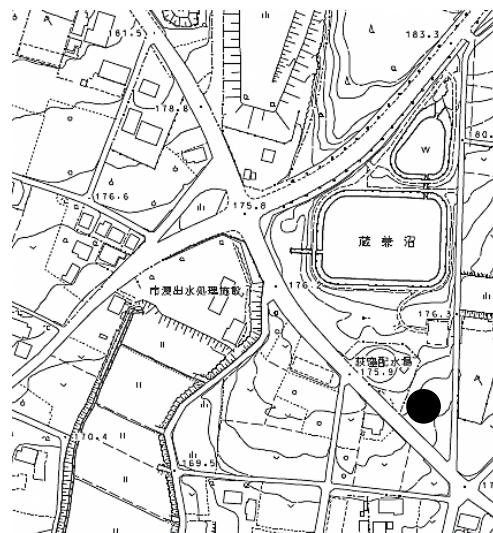
開発面積 1,239 m² 開発原因 配水場建設

調査日 令和元年 10 月 31 日

調査の概要

開発予定地は、主要地方道渋川大胡線沿い北側の萩窪配水場東側隣接地で、赤城南麓に位置する。同配水場北側の藏金沼等の開発にあたり、萩窪倉兼遺跡、同II遺跡の調査が行われている。

遺構確認は、表土下52cmの地山漸移層で行い、調査の結果、堅穴住居跡4軒、土坑1基、柱穴10基が検出された。萩窪倉兼遺跡、同II遺跡の調査において古代の大規模な集落が確認されており、当該地も集落となるものと思われる。記録保存のための発掘調査を実施予定。



28 元総社町 2153 番地 3 ほか

開発面積 1,372 m² 開発原因 土地区画整理

調査日 令和元年 11 月 7 日

調査の概要

開発予定地は東の牛池川、西の染谷川に挟まれた前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業区域内に位置する。北西に上野国分二寺、南東に総社神社を擁する上野国府推定域で、多数の発掘調査実績により縄文から近代まで濃密な遺跡地として知られる。

2 地点の確認調査で、足門線に近い1区では、表土下 62~102cm の総社砂層地山で遺構確認を行い、調査の結果、蒼海城堀跡 3 条、土坑、柱穴を検出した。元総社蒼海土地区画整理事業区域北西部の2区では、表土下 76cm の地山漸移層で遺構確認を行い、調査の結果、溝跡 1 条、土坑 2 基、落ち込みを検出した。ともに記録保存のための発掘調査を実施した。(元総社蒼海遺跡群(138) (139))

別紙元総社蒼海地区詳細②

29 元総社町 3605 番地 2 ほか

開発面積 3,424 m² 開発原因 診療所建築

調査日 令和元年 11 月 13 日

調査の概要

開発予定地は東の牛池川、西の染谷川に挟まれた前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業区域内に位置する。北西に上野国分二寺、南東に総社神社を擁する上野国府推定域で、多数の発掘調査実績により縄文から近代まで濃密な遺跡地として知られる。開発は、No. 24 の診療所建築計画が変更されたものである。同試掘結果により、建物基礎が浅く設計変更されたが、一部に地下部分等が残り、前試掘位置と異なるため、再度の試掘を行った。

遺構確認は、表土下 56cm の総社砂層地山で行い、調査の結果、堅穴住居跡 4 軒、住居または溝跡 1 条、溝跡 1 条を検出し、土師器片が出土した。記録保存のための発掘調査を実施した。(元総社蒼海遺跡群(11 街区))。

別紙元総社蒼海地区詳細③

30 公田町 567 番地 1 ほか

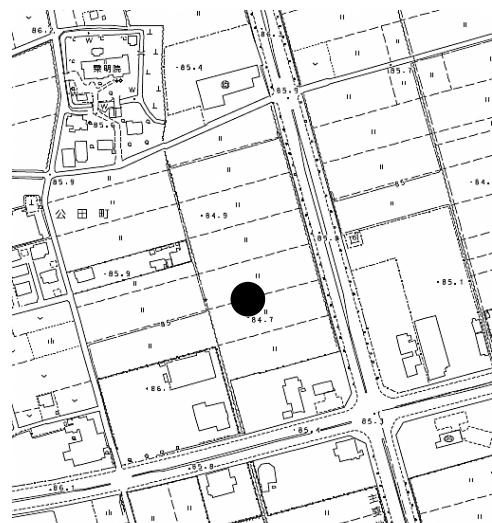
開発面積 21,939 m² 開発原因 店舗建設

調査日 令和元年 12 月 10~13 日

調査の概要

開発予定地は、主要地方道高崎・駒形線と主要地方道前橋・長瀬線バイパスの交差点の北西側となり、前橋台地西側に位置する。東側の前橋・長瀬線部分は、公田池尻遺跡として発掘調査が行われている。

遺構確認は、表土下 38~58cm の浅間 B 軽石層下面及び表土下 44 ~65cm の明褐灰色粘質土層上面で行い、調査の結果、平安時代水田畦畔 16 条、中世溝跡 7 条、土坑、柱穴を検出した。また、若干の土師器片が出土した。平安時代~中世の旧地表も北から南へ緩やかに下っていると思われる。



31 元総社町 2150 番地 8 ほか

開発面積 244 m² 開発原因 土地区画整理

調査日 令和元年 12 月 18 日

調査の概要

開発予定地は東の牛池川、西の染谷川に挟まれた前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業区域内に位置する。北西に上野国分二寺、南東に総社神社を擁する上野国府推定域で、多数の発掘調査実績により縄文から近代まで濃密な遺跡地として知られる。

遺構確認は、表土下 35cm の総社砂層地山で行い、調査の結果、中世溝跡 3 条を検出した。最も大きく新しいものは蒼海城本丸西側を南北に走行する堀跡で、北側に近接する元総社蒼海遺跡群(47)の 1 号溝跡等と同一遺構の東側肩であると推定される。また、同堀跡は、複数期が指摘されており、他の 2 条もこれに先行するものである可能性がある。

別紙元総社蒼海地区詳細①

32 関根町 72 番地ほか

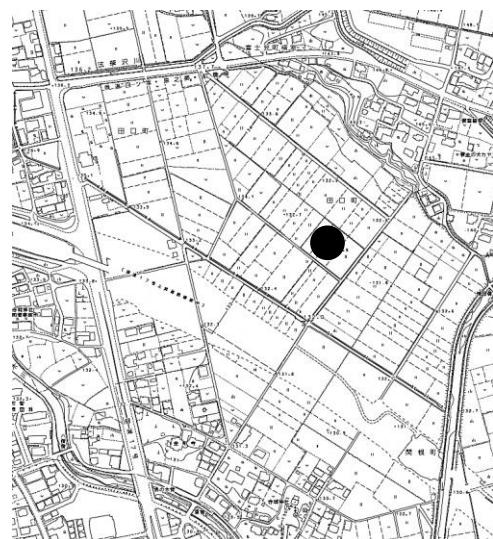
開発面積 74,000 m² 開発原因 道の駅整備及び

調査日 令和元年 12 月 19・23・24 日

調査の概要

開発予定地は、上武道路北側、細ヶ沢川右岸となり、赤城南麓から広瀬川低地帯への境界付近に位置する。南側の上武道路は、関根赤城遺跡、田口下田尻遺跡として発掘調査が行われている。

19 本のトレーンチを設定し、遺構確認は浅間 B 軽石層下面、榛名二ツ岳渋川テフラ洪水層上面、浅間 C 軽石混土層下面で行い、調査の結果、一部に古墳時代中期および平安時代末の水田跡を検出した。赤城山麓の緩斜面であるとともに河川に近接することから幾度もの水流があったと思われ、調査個所によって土の堆積状況が様々で、Hr-FA 洪水層や As-B 層の残存がトレーンチにより異なった。9、10、11-1、11-2 トレーンチで水田跡が確認され、このガソリンスタンド建設部分について、記録保存のための発掘調査を実施予定。



33 総社町総社 2874 番地 1 ほか

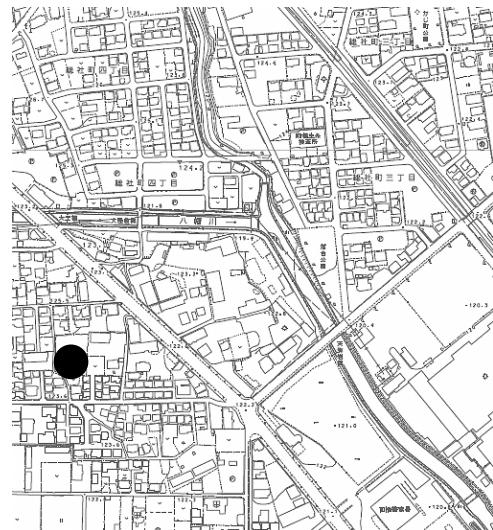
開発面積 883 m² 開発原因 宅地造成

調査日 令和 2 年 1 月 9 日

調査の概要

開発予定地は、産業道路の西側、山王廃寺の東となり、榛名山麓に位置する。東側 50m の産業道路沿いは、昌楽寺廻向遺跡として発掘調査が行われている。

遺構確認は表土下 111cm の総社砂層で行い、調査の結果、土層断面から C 黒層を掘り込む古代の竪穴住居跡 3 軒等を検出した。上記遺跡の以外にも、開発予定地の西側およびこの 50m 南側は、平成 4 年度、同 6 年度に実施された試掘調査において住居跡が検出されており、集落の広がりを見せる。開発計画で現状保存の困難な道路部分について、記録保存のための発掘調査を実施予定。



34 朝倉町 115 番地 1 ほか

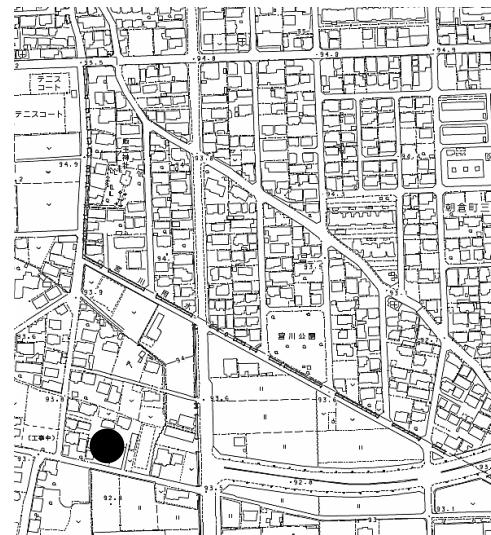
開発面積 730 m² 開発原因 道路新設

調査日 令和 2 年 1 月 15 日

調査の概要

開発予定地は、江田天川大島線の延伸であり、市立わかば小学校の北西で、前橋台地上に位置する。100m東側の既設道路部分は、朝倉伊勢西遺跡、同 II 遺跡であり、店舗建設に伴う調査の同 III 遺跡も隣接する。

遺構確認は、表土下約 50cm の Hr-FA 洪水層および表土下約 1m の地山層で行い、調査の結果、竪穴住居跡 8 軒等を検出した。工事予定地西側隣接地は前年度に試掘を実施し、西側部分で As-B 純層を検出しており、本工事予定地よりやや低いものと思われる。本工事予定地は、東側から続く台地部分にある集落が広がり、水田域との境目付近と推定される。記録保存のための発掘調査を実施予定。



35 川曲町 153 番地 1 ほか

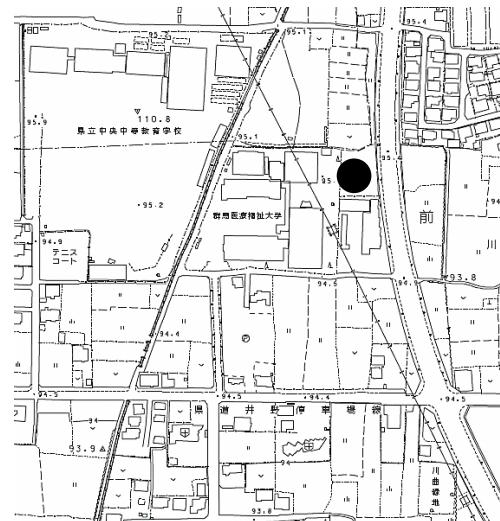
開発面積 1,356 m² 開発原因 校舎増築

調査日 令和 2 年 1 月 22 日

調査の概要

開発予定地は、新前橋・川曲線の沿線西側で、前橋台地の西部に位置する。平安時代の水田跡が広く確認されている地域で、開発地の東西に位置する川曲柳橋 II 遺跡、柳橋遺跡でも確認されている。

遺構確認は表土下約 45cm の浅間 B 軽石層で行い、調査の結果、平安時代の水田畦畔 11 条を検出した。このうち一部は隣接する調査において確認されたものの延伸となり、開発予定地も水田が広がると考えられる。記録保存のための発掘調査を実施予定。



36 箱田町 1427 番地ほか

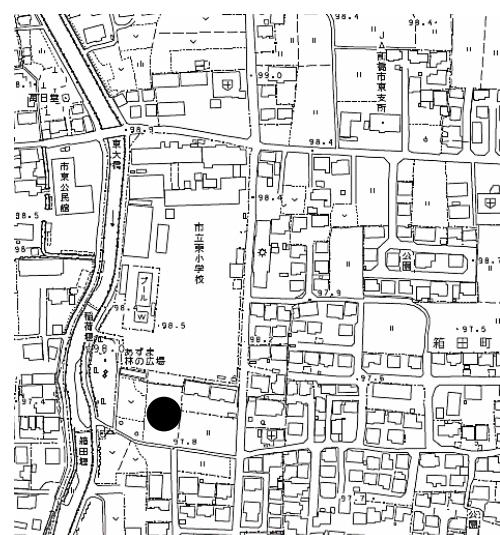
開発面積 994 m² 開発原因 宅地造成

調査日 令和 2 年 2 月 5 日

調査の概要

開発予定地は、市立東小学校南側で、前橋台地の西部に位置する。東地区は平安時代の水田跡が広く確認されている地域であるが、すぐ近くでの発掘調査実績はない。

遺構確認は、東側の 1 トレンチでは、As-B 層が確認されなかつたため表土下約 85cm の Hr-FA 洪水層または As-C を含む黒色土層で行い、滝川に近い西側の 2 トレンチでは表土下約 47cm の As-B 層で行った。調査の結果、1 トレンチ南部で東西に走行する時期不明の溝跡 1 条が検出され、2 トレンチでは南北に走行する平安時代の畦畔 1 条および中世の溝跡 1 条が検出された。1 トレンチの Hr-FA 洪水層は、トレンチ中央から北側で確認され、下面はピット状の平面形で凹凸がみられたが、明確な遺構は確認されなかった。



37 荒子町 1086 番地 1 ほか

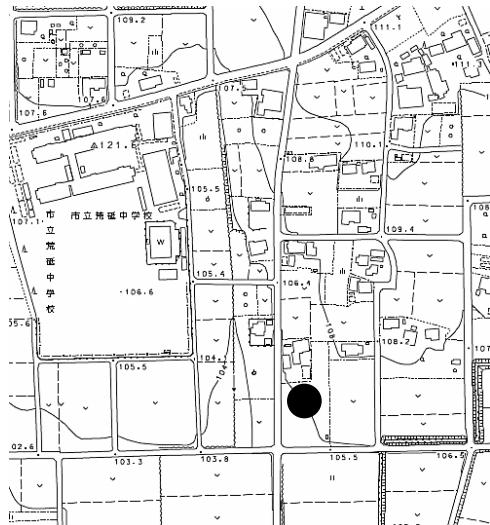
開発面積 2,393 m² 開発原因 老人ホーム建設

調査日 令和 2 年 2 月 10 日

調査の概要

開発予定地は、市立荒砥中学校南東側で、赤城南麓に位置する。南側の荒砥下押切 I 遺跡では古代の住居跡が、東側の荒砥下押切 II 遺跡では古墳時代～古代の住居跡や水田跡が確認されている。

遺構確認は、表土下約 40cm～1m のローム層で行った。開発予定地のほぼ全域で表土の下層はロームであったが、表土はローム層まで削平された上に盛られた客土であり、削平の深さが異なっていたため、ロームが表出する深さを遺構確認面とした。調査の結果、遺構、遺物は確認されなかった。敷地西側の一部で B 混土～地山漸移層までが残っており、旧地形が低くなっていたと思われる。



38 総社町高井 91 番地 4

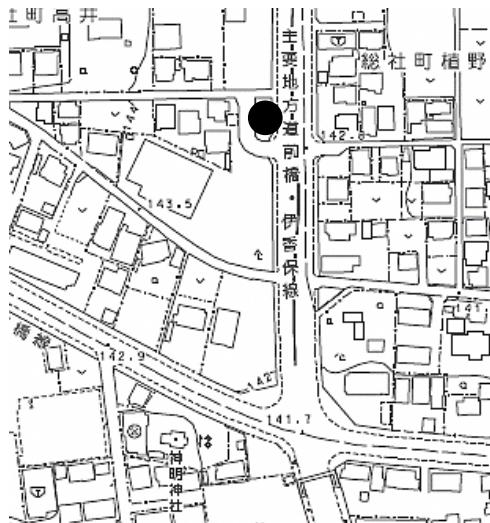
開発面積 183 m² 開発原因 店舗建設

調査日 令和 2 年 2 月 12 日

調査の概要

開発予定地は、吉岡町に近い主要地方道前橋・伊香保線バイパス沿線で、榛名山麓に位置する。南東側のバイパス道路は高井桃ノ木遺跡として発掘調査が行われ、古墳時代～古代の集落跡等が検出されている。

遺構確認は、表土下 102cm の総社砂層漸移層で行い、調査の結果、C 黒層を掘り込む竪穴住居跡 2 軒、ピット 1 基が検出された。開発者と協議を行い、工事計画の変更による現状保存が行われた。



39 鳥取町 814 番地 1 ほか

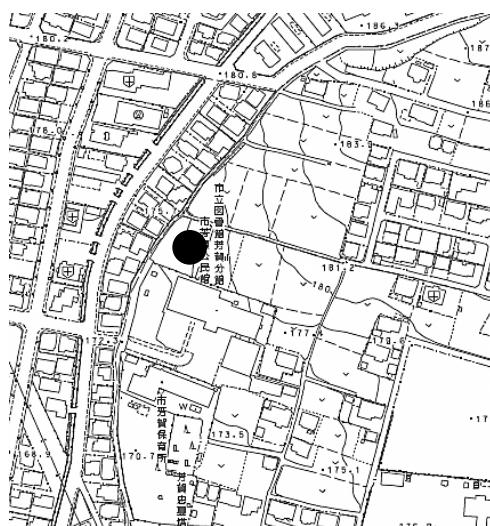
開発面積 1,771 m² 開発原因 公民館駐車場建

調査日 令和 2 年 2 月 17 日

調査の概要

開発予定地は、芳賀公民館に隣接する北側で、赤城山南麓に位置する。西側の芳賀団地は芳賀北部団地遺跡として発掘調査が行われ、縄文時代や古代の集落跡が検出されている。

遺構確認は、表土下 15～122.5cm のローム層で行い、調査の結果、遺構、遺物は検出されなかった。敷地南西部では表土下 120cm まで盛土となっており、過去に一度削平されて盛土が行われたと考えられる。



40 池端町 154 番地 1 ほか

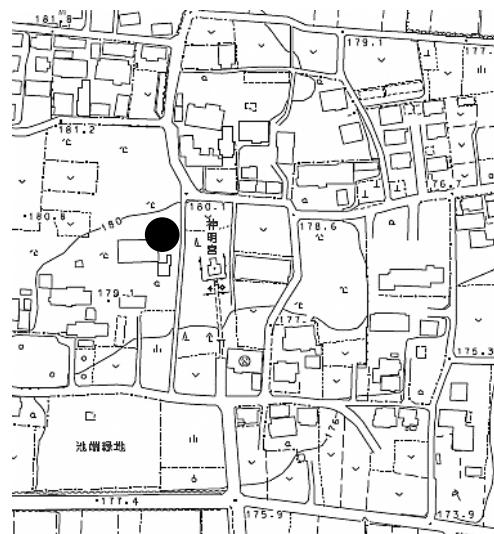
開発面積 950 m² 開発原因 道路新設

調査日 令和 2 年 2 月 19 日

調査の概要

開発予定地は、池端緑地の北側、工事中の県道南新井・前橋線の南側となり、同線へのアクセス道であり、榛名山麓に位置する。東側の神明宮の建つ小山は、清里村 3 号墳として群馬県古墳総覧に登録されている。なお、神明宮南側は、同じ開発予定により、今年度すでに確認調査を実施している(3)。

遺構確認は表土下約 140cm の地山層で行い、調査の結果、溝跡 3 条等が検出された。うち 1 条は上部に As-B が堆積し、神明宮の真西に位置しており、古墳周囲の可能性が高い。また、開発予定地南端で検出された溝跡は、上幅(4)m、深さ 84cm を測り、南北に走行しており、土層の堆積から中世以降と考えられる。神明宮西側部分について、記録保存のための発掘調査を実施予定。



41 上細井町 1471 番地ほか

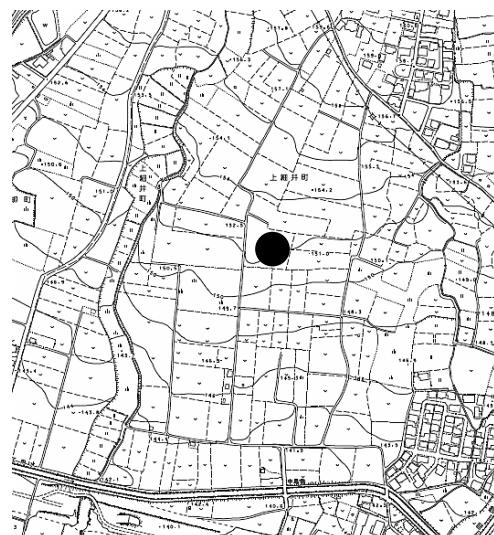
開発面積 19,326 m² 開発原因 土地改良事業

調査日 令和 2 年 2 月 25 日

調査の概要

開発予定地は、上武道路の北側であり、西に白川、東に觀音川が流れる赤城山南麓に位置する。今年度すでに確認調査を行った工事予定地(8)のうち、夏場の耕作により調査が行えなかった部分について、調査を実施した。

遺構確認は表土下 9~91cm の地山ローム層で行い、調査の結果、堅穴住居跡 1 軒、土坑 4 基、溝跡 1 条、ピット 1 基、性格不明遺構 1 基が検出された。工事予定地北端で唯一検出された堅穴住居跡も壊乱に壊されほぼ残っておらず、全体として遺構の検出は非常に少量に止まった。上武道路南側では、上細井中西部遺跡群の発掘調査により多数の堅穴住居跡が検出されているとの対照的である。



42 元総社町 1754 番地、1848 番地 3

開発面積 1,111 m² 開発原因 倉庫建設

調査日 令和 2 年 3 月 12 日

調査の概要

開発予定地は東の牛池川、西の染谷川に挟まれた前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業区域内に位置する。北西に上野国分寺、南東に総社神社を擁する上野国府推定域で、多数の発掘調査実績により縄文から近代まで濃密な遺跡地として知られる。

遺構確認は表土下 75cm の総社砂層漸移層で行い、調査の結果、堅穴住居跡 7 軒、土坑 4 基、ピット 3 基を検出した。また、遺物は土師器片、瓦片が出土した。竈の構築材に瓦を使用しているものも見られ、遺構時期は古代が主となる。記録保存のための発掘調査を実施予定。

別紙元総社蒼海地区詳細④

(6) 令和元年度 埋蔵文化財発掘調査詳細

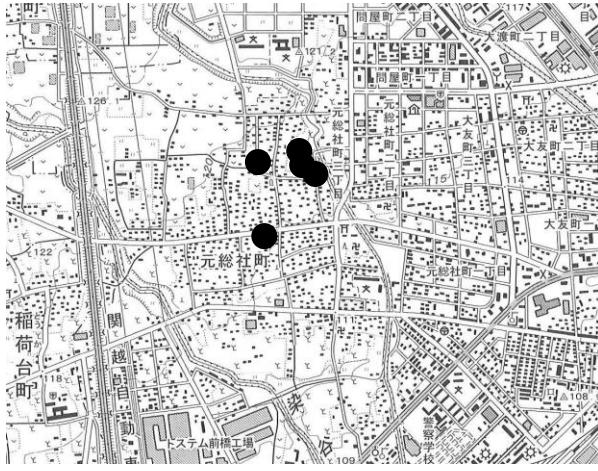
①令和元年度上野国府等範囲内容確認調査

調査地 前橋市元総社町923-45 ほか

調査期間 令和元. 9. 24～令和2. 2. 28

調査面積 271 m²

調査担当 阿久澤智和・齋藤 颯・梅澤克典



上野国府は前橋市元総社町付近に存在していたと推定されているが、その遺構が未発見なために詳細が不明なことから、上野国府関連施設の検出と解明を目的として、上野国府等範囲内容確認調査を平成23年度から実施している。事業開始当初は5ヵ年計画で実施していたが、5ヵ年目の平成27年度でも目的が達成されないことから、計画を延長し引き続き調査を実施するはこびとなつた。令和元年度は第2次5ヵ年の4年目に当たる。

(2) 調査目的

令和元年度調査は、①元総社小学校西方における国府関連遺構の確認(62トレンチ)、②宮鍋神社付近における建物跡の確認(63～65トレンチ)、区画溝の範囲確認(66～68トレンチ)を実施した。

(3) 調査成果

元総社小学校西方における国府関連遺構の確認

平成29・30年度に元総社小学校西方で実施した54・59・60トレンチの調査で掘立柱建物跡が多数検出されたことから、官衙関連施設の存在を想定し、その範囲確認のために62トレンチを設定し調査を実施した。

調査の結果、9世紀から10世紀にかけての住居跡9軒、掘立柱建物跡の柱穴と推定されるピット、溝跡1条、道路跡1条が検出されたほか、落ち込みと判断した遺構が検出された。この遺構は、浅間C軽石混入黒色土層(基本層序IV層)とその下層の漸位層(基本層序V層)を掘り抜き、底面は総社砂層(基本層序VI層)に達していた。この遺構は東西8m、南北8mの逆L字形に設定したサブトレンチ全体で確認できた点から、広範囲に亘り掘り込まれた遺構と考えられる。また、底面に複数の起伏が確認できることから、土坑状の遺構

の集合体である可能性が高い。この遺構の覆土から8世紀後半から9世紀前半を中心とした土器が、規則性を持たずに入破片の状態で出土した。これらの点から、この遺構は、粘質化した漸位層を求めて掘削された粘土採掘坑である可能性が考えられる。



62トレンチ 1号落ち込み全景 (西から)

宮鍋神社付近における建物跡の確認

宮鍋神社付近では、平成26年度に調査した上野国府等範囲内容確認調査28トレンチや元総社蒼海遺跡群(99)において掘込地業が検出されていたが、神社の南約60mに位置する元総社蒼海遺跡群(133)で一辺約13mの正方形を呈する掘込地業が検出されたほか、神社の南約150mに位置する元総社蒼海遺跡群(136)においても2基の掘込地業が検出された。こうした状況から、宮鍋神社付近には、この他に掘込地業が存在することが見込まれることから、元総社蒼海遺跡群(127)の調査時に実施したレーダー探査で反応が認められた地点2か所において掘込地業の有無の確認を行った(63・64トレンチ)ほか、元総社蒼海遺跡群(136)で検出された掘込地業の範囲確認(65a・65b)を実施した。

63・64トレンチではそれぞれ住居跡が検出され、掘込地業は認められなかった。

65aトレンチでは、元総社蒼海遺跡群基壇状建物の北辺の範囲確認を行ったが、掘込地業は中世の溝により破壊されており、北辺の検出には至らなかつた。また、65bトレンチでは同じくB-1号建物跡の掘込地業の南東隅の検出を試みたが、中世以後の遺構により破壊されており、南東隅を検出することはできなかつた。



65a トレンチ 掘込地業検出状態（西から）

区画溝の範囲確認

宮鍋神社周辺の建物跡（掘込地業）の分布および範囲確認に関連して、ほぼ東西方向に走る区画溝の範囲確認を行った（67・68 トレンチ）。この区画溝は、平成26年度に調査した元総社蒼海遺跡群（95）および平成28年度上野国府等範囲内容確認調査で検出されているが、今回は、これまで調査されていなかった元総社蒼海遺跡群（95）よりも東で、その延伸の確認調査を行った。調査の結果、68 トレンチでは攪乱を受けながらもかろうじて区画溝が検出されたが、さらに東の67 トレンチでは、区画溝自体は削り取られていた。ただし、区画溝の底面に掘られた溝跡の延伸と考えられる幅約 1 m の溝跡が検出されたことから、区画溝は元総社蒼海遺跡群（95）よりも東へ直線的に伸びていた可能性が高いことが判明した。この区画溝は宮鍋神社付近で検出されている掘込地業の分布よりも南に位置する点や、掘込地業によっては、その方向がこの区画溝の方向と同じである点から、礎石建物（掘込地業）のより構成される施設の南区画溝の可能性が考えられる。



67 トレンチ 区画溝底面の溝跡検出状態（西から）

なお、元総社蒼海遺跡群（58）で検出された区画溝の延伸を確認するために、蒼海城跡推定本丸跡にトレンチを設定して（66 トレンチ）調査を行った。調査地点は広範囲に亘って地山の総社砂層まで土が削り取られており、溝跡は検出できなかった。

②令和元年度 上細井中西部遺跡群発掘調査概報

1 本概報は、群馬県中部農業事務所が計画した令和元年度（農山）県営水利施設等整備事業（畠地帯担い手育成型）上細井中西部地区（以下「上細井中西部地区土地改良事業」という。）に伴い実施した令和元年度発掘調査に係る概要報告書である。

2 上細井中西部地区土地改良事業は、平成30年度から5か年計画で施工され、埋蔵文化財発掘調査も当該事業と並行して実施される。本年度は5か年計画の2年目にあたる。

3 令和元年度工区（B工区）内での発掘調査について

遺跡名：上細井中西部遺跡群No.2（かみほそいちゅうせいぶいせきぐんなんばーに）

遺跡略記号：31B21

調査区所在地（4調査区）

- ・4区 前橋市上細井町1661他 (調査面積: 2,729 m²)
 - ・5区 前橋市上細井町1650他 (調査面積: 7,908 m²)
 - ・6区 前橋市上細井町1642 (調査面積: 233 m²)
 - ・7区 前橋市上細井町1568-5他 (調査面積: 1,180 m²)
- 合 計: 12,050 m²

4 調査方針

発掘調査及び資料整理は、前橋市長と群馬県中部農業事務所長との間で、埋蔵文化財発掘調査に係る業務委託契約を締結し実施した。なお、発掘調査経費のうち農家負担分については、国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金（国庫補助）、群馬県文化財保存事業費補助金並びに市費により実施した。

5 調査体制

前橋市教育委員会事務局 文化財保護課 埋蔵文化財係

6 調査期間及び担当者

4区：令和元年6月6日～令和元年11月11日（担当者：小峰・藤井・村越）

5区：令和元年6月18日～令和2年1月17日（担当者：小峰・藤井・村越）

6区：令和元年7月8日～令和元年7月10日

令和元年8月19日～令和元年8月22日（担当者：小峰・藤井・村越）

7区：令和元年8月28日～令和元年10月16日（担当者：小峰・藤井・村越）

7 発掘調査の各種記録、出土遺物は、前橋市教育委員会が保管している。

8 凡例

遺構及び遺構施設の略称は、次のとおり。

H：古墳、奈良、平安時代の堅穴住居跡 J：縄文時代の堅穴住居跡

T：堅穴状遺構 B：掘立柱建物跡 I：井戸跡 W：溝跡

D：古墳、奈良、平安時代の土坑 J D：縄文時代の土坑

M：古墳 P：ピット、貯蔵穴 A：道路状遺構 S：集石

O：落ち込み等 N：粘土採掘坑 X：その他

本文・図面で示す火山灰の名称は、以下の記号を用いた。

A s-B：浅間Bテフラ（供給火山：浅間山 1108年）

H r-F A：榛名二ツ岳渋川テフラ（供給火山：榛名山 5世紀末～6世紀初頭）

A s-C：浅間Cテフラ（供給火山：浅間山 3世紀後葉）

A s-Y P：浅間板鼻黄色テフラ（供給火山：浅間山 1万5000年前）

A s-O kp：浅間大窪沢テフラ（供給火山：浅間山 1万8000年前）

I 調査の経緯と経過

前橋市教育委員会（以下「市教委」という。）では、平成30年度に令和元年度工区（以下「B工区」という）を対象とした試掘・確認調査を実施した。試掘・確認調査結果と土地改良事業に伴う造成工事計画を基に、上細井中西部土地改良区、群馬県中部農業事務所と市教委で、B工区の発掘調査実施スケジュールについて協議を行い、上武国道（国道17号バイパス）以南に4か所の調査区を設定した。

令和元年5月22日付で、群馬県中部農業事務所長と「令和元年度埋蔵文化財発掘調査業務委託契約」を締結し、その後、現場事務所設置、発掘調査作業員任用、土木機械手配等の準備を進め、同年6月6日に現場での表土掘削作業を開始した。当該年度は、梅雨が長く続くなど天候不良によって、当初予定よりも遅れが生じたこと、また、調査面積の増加などから発掘調査補助業務の委託や発掘作業員の補充を行いつつ、令和2年1月17日をもって発掘調査は全て終了した。

また、B工区内の発掘調査成果については、現地説明会（12月15日）を開催し、地域への還元ができた。（別添現地説明会資料を参照）

令和元年度発掘調査成果の整理作業実施には至らなかったが、当該年度中に出土した遺物の洗浄作業および注記作業、遺構毎の仕分け整理を行った。出土遺物の接合・復元、実測作業、遺物写真撮影等の整理作業は、令和2年度以降に実施予定である。

II 遺跡の地理的・歴史的環境

群馬県の中央部にある前橋市は、北に赤城山、西は榛名山に囲まれ、南には関東平野が広がる。前橋市の地域を地形および地質の特徴から区分すると、北東部の「赤城南麓斜面」、南西部の洪積台地である「前橋台地」、前記両者の間に挟まれて地溝状をなす沖積低地である「広瀬川低地帯」に分けられる。

この赤城南麓斜面には、赤城白川、藤沢川、荒砥川、粕川などの河川が流下し、丘陵性地形を侵食することで、南北に長い起伏のある丘陵性台地を形成している。また、こうした河川や台地端部での湧水の影響で枝状の開析が進み、台地と谷地が複雑に入り組む地形となっている。遺跡は、標高約400mの旧富士見村大河原付近を扇頂として東端を藤沢川、西端を細ヶ沢川の広い範囲で緩斜面を形成している白川扇状地の扇端に所在する。扇端は標高130～120mで北西から南東に6kmで「広瀬川低地帯」と侵食崖で接している。

上細井中西部遺跡群No.2の所在する赤城南麓斜面には、一般国道17号線の渋滞混雑緩和のために計画された大規模バイパス道（上武道路）が建設された。当該工事に伴い埋蔵文化財発掘調査も数多く行われ、様々な時代の遺構や遺物が見つかっている。上武道路が通過する地域は、3万年前の旧石器時代以降、多くの遺跡が残されている。

旧石器時代は、新田上遺跡のAs-YP下から細石刃・細石刃核などが、上細井中島遺跡のAs-0kp下や上細井蟬山遺跡のAs-0kp含む層からは剥片等が出土している。上細井中西部遺跡群No.2の周辺では旧石器でも比較的新しい時代の遺物が発見されている。

縄文時代の遺跡は新田上遺跡から前期・中期の、上細井中島遺跡から早期と中期の、上細井蟬山遺跡から前期後半の、上細井五十嵐遺跡から前期中葉～後葉の竪穴住居跡が発見されている。

弥生時代の遺跡は非常に少ないが、新田上遺跡から弥生時代中期前半から後半にかけての竪穴住居跡が発見されている。

古墳時代では、山王・柴遺跡から後期の集落が発見されたほか、古墳や小石槨墓、畠跡といった生産域の遺構も見つかっている。

奈良・平安時代になると遺跡数が増加する。8世紀後半から10世紀中ごろまでの集落が展開しており、特に9世紀の遺構が多い。山王・柴遺跡や上細井五十嵐遺跡では拠点的な集落が営まれていた。

中・近世の遺跡として注目されるのは、南北朝期（延文5年：1360年）に書き記された「神鳳抄」^{じんほうしょう}にある青柳御厨と細井御厨の位置であるが、現在のところ相当する遺跡は発見されていない。

III 遺跡の概要

B工区（調査面積合計 12,050 m²）

- (1) 縄文時代：前期、中期の遺物を伴う竪穴住居跡、土坑
- (2) 古墳時代：5世紀～7世紀代の竪穴住居跡、古墳、古墳の周堀
- (3) 奈良・平安時代：8～10世紀代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、ピット

IV 調査の成果

4 区では縄文時代の前期の堅穴住居跡・落とし穴、古墳時代の堅穴住居跡、奈良・平安時代の堅穴住居跡と掘立柱建物跡が見つかっている。縄文時代の住居跡からは、深鉢。浅鉢などの縄文土器の他、石皿や台石などの遺物が見つかっている。古墳時代の住居跡は中期のものが中心となるが、高壙・手捏土器など祭祀に関わる遺物が出土している。古墳時代の住居跡は小型のものと大型のものがあり、土師器壺・壙、須恵器壙などの当時の生活の様子が垣間見えるような出土品を多く確認した。

5 区では縄文時代中期の堅穴住居跡、古墳時代の堅穴住居跡、奈良・平安時代の堅穴住居跡と掘立柱建物跡、溝跡が見つかっている。特に奈良・平安時代の住居跡は、調査区域に密に分布しており、比較的大きな集落が営まれていたことがわかる。住居跡の規模は、長軸約 4m の比較的小さな住居跡が多く検出されているが、調査区の中央よりやや南側には長軸約 7~8m の平安時代の大規模な住居も分布している。円面硯・高盤・平瓶や青銅製の丸鞆、鉈尾など官衙に関連するものや、羽口・鉄滓・鍛造剥片など鍛冶・製鉄に関わるもの、奈良・平安時代に日本で鋳造された銅錢である皇朝十二錢など、一般的な集落ではあまり見られない様な遺物や遺構が 5 区では見つかっている。

6 区では、特に遺構・遺物は検出されなかった。

7 区では、奈良・平安時代の住居跡、溝跡、掘立柱建物跡、古墳の周堀が見つかっている。住居跡は比較的残存状態が良好で、出土遺物も多い傾向にあった。住居跡の内一軒は焼失住居であった。

1 令和元年度工区（B工区）

(1) 4区

所在地 前橋市上細井町 1661 他

調査期間 令和元年 6月

調査面積 2,729 m²

調査概要 縄文時代の竪穴住居跡 4軒・土坑 25基（うち落とし穴 3基）、竪穴

状遺構 2軒、古墳時代の竪穴住居跡 3軒、奈良・平安時代の竪穴住居跡 6軒、掘立柱建物跡 1棟を検出した。調査区は現道を跨いで道上と道下に分かれ。各時代の竪穴住居跡は、縄文時代は調査区の南東から中央にかけて分布しており、古墳時代は調査区中央と南端に分布しており、奈良・平安時代は調査区北西にほとんどの遺構が分布していた。時代によって竪穴住居跡が分布する範囲が異なっているようである。



4区調査区1面目全景(上が東)

【旧石器・縄文時代】

調査区南に幅 1.2m 長さ 5.8m の南北方向のトレンチと幅 0.4m 長さ 7.6m の東西方向のトレンチを As-YP 含む層から入れたが、旧石器時代の遺物は検出されなかった。

縄文時代の竪穴住居跡は歪んだ方形をしている。J-1 号住居と J-2 号住居の床面からは大量の土器の破片と礫が出土した。縄文時代前期の遺構と考えられる。いずれの住居跡からも炉址は検出されなかった。また、落とし穴と考えられる土坑は、等高線上に並ぶといった規則的なものではなく、調査区東側に散漫に分布していた。



4区 J-1号住居跡全景(西から)

【古墳時代】

古墳時代の竪穴住居跡は、ほぼ正方形に近い形をしており、一辺 5m を越える比較的大きな住居である。古墳時代中期の遺構と考えられる 3 号住居跡からは高壙が 1 点と手捏ね土器が 1 点出土しており、10 号住居跡からは高壙が 3 点まとまって出土している。これらの遺物は祭祀遺構から発見されることが多いため、一般的な住居跡ではなく祭祀的な性格を持っていたと考えられる。



H-1号住居跡全景(西から)



H-10号住居跡全景(西から)



H-10号住居跡出土遺物(壙・高壙)



H-10号住居跡出土遺物(高壙)

【奈良・平安時代】

奈良・平安時代の住居跡はほとんどが長方形を呈していて、いずれの住居跡のカマドも東壁に構築されていた。長軸が 5m 以上ある大型の住居跡と 3m ほどの比較的小さな住居の二種に分けられる。

H-7 号住居跡は大半が調査区外にある大型住居で、カマドは両方の袖石が残るなど比較的残存状態が良好であったが、遺構の規模に対して遺物の出土が少なかった。

出土遺物で特筆すべき点は、H-2 号住居跡から墨書き土器が出土したことである。須恵器の壙の底面の表裏両面に「真」の字が書かれていた。同じ文字の書かれた墨書き土器が 5 区からも出土しており、4 区の奈良・平安時代の住居跡は 5 区の住居跡と一連の集落のものであると考えられる。

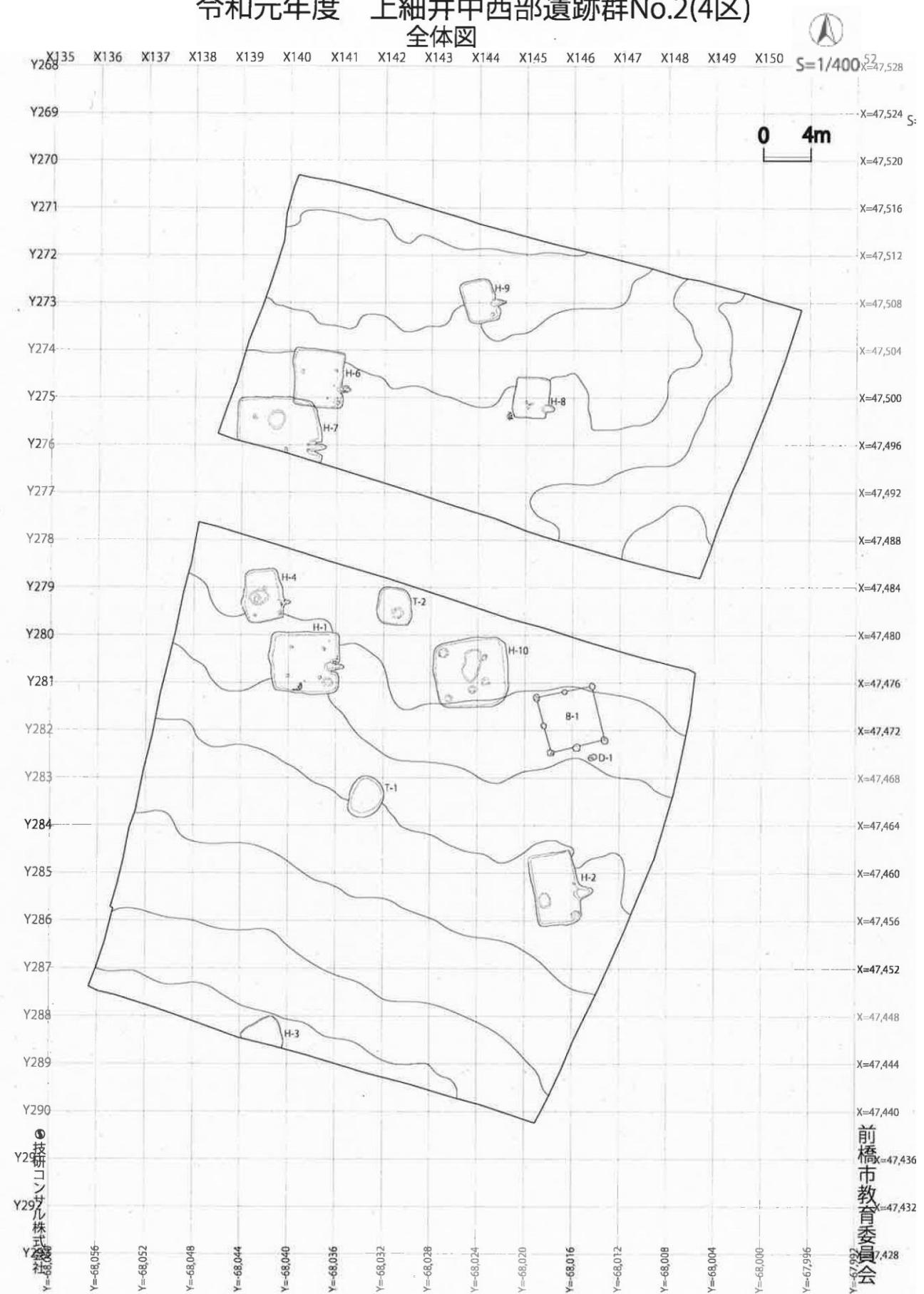


2号住居跡全景(西から)

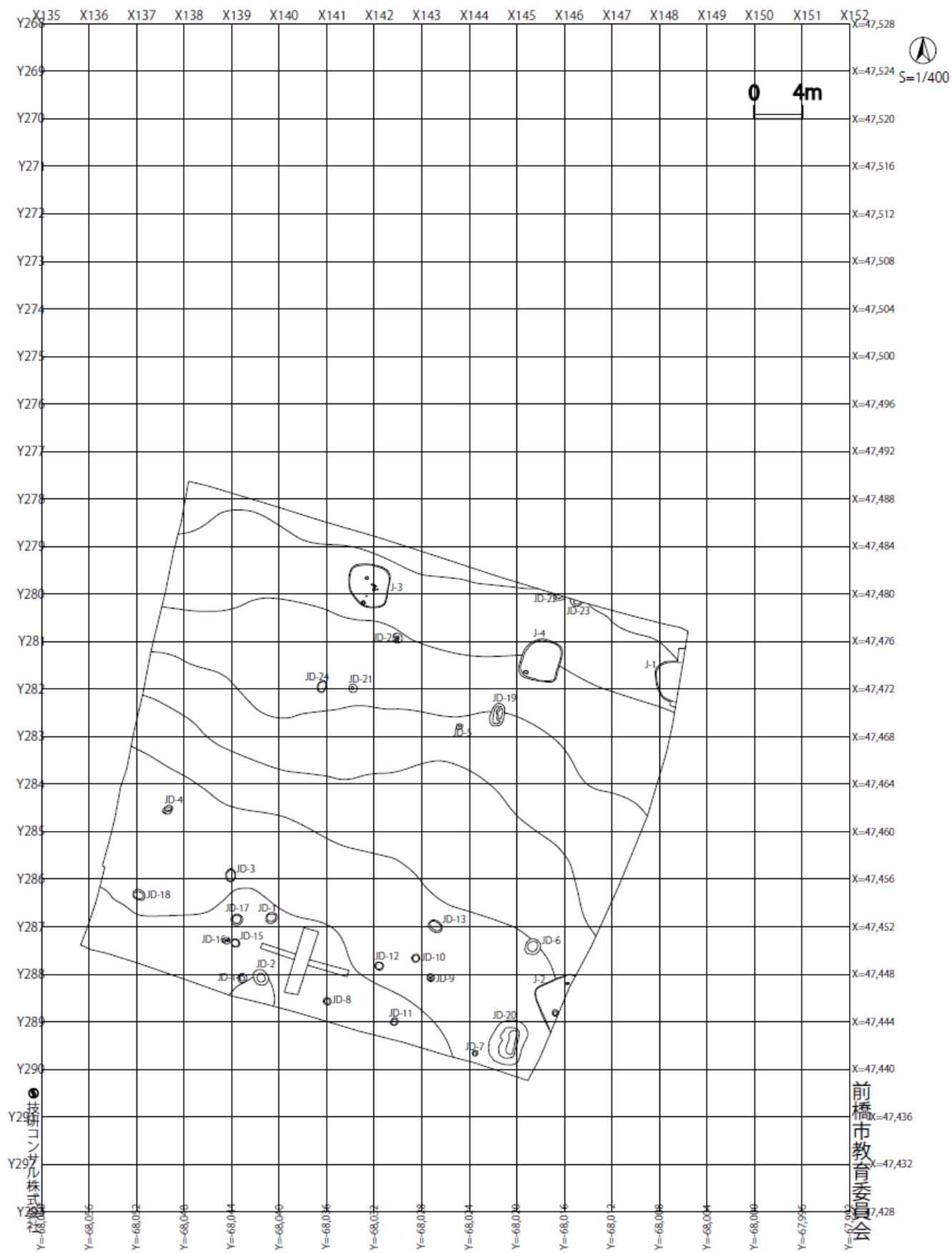


6号・7号住居跡全景(西から)

令和元年度 上細井中西部遺跡群No.2(4区) 全体図



令和元年度 上細井中西部遺跡群No.2(4区2面)
全体図



(2) 5区

所在地 前橋市上細井町 1650 他

調査期間 令和元年 6月 18 日～令和 2 年 1 月 17 日

調査面積 7,908 m²

調査概要 繩文時代中期の竪穴住居跡2軒、古墳時代～奈良・平安時代の竪穴住居跡78軒、掘立柱建物跡1棟、古代溝跡2条、土坑等を検出した。調査区は、平成30年度調査のB工区2区を囲むように設定した。4か所の調査区の中では最大の調査面積となる。赤城南麓斜面の台地上に位置し、居住に適した地であったことを証明するように、多くの遺構が検出され、縄文時代から連綿と集落が営まれてきたことが分かる。検出遺構の大半は竪穴住居跡であるが、製鉄・鍛冶遺構も見つかっている。特筆すべきは、9世紀代の集落を管理する役人の存在を窺わせる他の遺構とは明らかに趣を異にする規模の大きい住居跡が複数見つかっている。さらに出土遺物では、円面硯、水差し、多数の墨書き土器、青銅製帶飾りなどにその一端が窺える。その量は多く、縄文土器、土師器・須恵器などの土器片、鉄製品、銅製品、錢貨（皇朝十二銭）、石製品等 遺物収納箱（コンテナバット）91箱分に上る。本発掘調査成果を検証するにあたっては、遺跡所在地である上細井町や隣接する青柳町に、中世の「御厨」が存在していたことも考慮する必要があると思われる。



5区調査区全景赤城山を望む(南から)



5区調査区全景(上が西)

【縄文時代】

検出した2軒の竪穴住居跡は、いずれも調査区東端部にある。J-1号住居跡は、H-17号住居跡と一部重複、J-2号住居跡はW-1号溝跡に壊されているため、全容の把握には至らなかった。まず、J-1号住居跡については、H-17号住居跡北壁の精査中に、体部中位から底部を故意に壊されて埋められた深鉢が露になり、さらに炉を構成すると思われる石材も併せて確認された。遺構自体は、H-17号住居跡により約1/3程度が壊されてしまっている。炉の残存状況は約半分程度であったが、縄文土器片は多く出土している。住居跡の規模は、長軸4m短軸3.5mの方形を呈するものと思われる。



J-1号住居跡全景(南から)



J-1号住居跡炉断面図
深鉢含む(南から)

J-2号住居跡は、W-1号溝跡と重複する。形状は概ね方形を呈するものと思われる。規模も推定値であるが、4m×4m程度と考えられる。出土遺物は少なかったが、住居床面のほぼ中央部から浅鉢が出土した。また、住居南西隅に石材を小さな円を描くように配置した集石範囲が認められた。火を使用した痕跡や縄文土器片の出土も無かった。

【古墳時代】

本調査区内で検出した竪穴住居跡は、長方形を呈する傾向が強い。その中でも古墳時代に属する住居跡は、やや大きい正方形になる。その特徴が顕著に見られたのが、H-2号住居跡とH-39号住居跡である。H-2号住居跡は約6m四方の正方形、H-39号住居跡は約5m四方の正方形である。H-2号住居跡は、本調査区内で唯一西壁にカマドを持つ住居跡であった。カマドの残存状況は良好で、特に煙道部は際立っており、住居外1m先まで焼土が確認できるほどである。

H-39号住居跡は、覆土に特徴があった。他の住居跡は概ね白色軽石粒を含む黒褐色若しくは暗褐色土であるが、本遺構はほぼ黒褐色砂質土で埋まり、最下部には川砂が少量認められた。カマドは、東壁の中央に設置され両袖部も良く残っていた。北壁際の床面には、こも編み石が多く出土した。出土遺物は非常に少なかったが、カマド精査時に鬼高式の土師器壊が完形で出土している。



左:60号住居跡出土
土師器壊(鬼高式)



右:4号住居跡床直
こも編み石

【奈良・平安時代】

堅穴住居の規模はや形状については、大きく 3 分類できる。南北方向の長方形で長軸 4~5m のやや規模の大きい住居跡、約 3m 四方の方形を呈す小規模の住居跡、南北方向の長方形で長軸が 8~10m、短軸 6 m を測る規模の大きい住居跡である。規模の大きい住居跡は調査区南半分に集中している。平成 30 年度発掘調査済みの B 工区 2 区でも同規模の住居跡が多く検出されている。

1) 大型の堅穴住居について

本調査区では、H-59 号住居、H-61 号住居、H-69 号、3 軒の大型堅穴住居跡を検出した。H-59 号住居と H-61 号住居は重複関係にあり、H-59 が先行する。特筆すべきは、H-61 号住居は H-59 号住居が建替えられた遺構と思われる点である。この 2 軒の西壁ラインが同一線上にあり、H-59 号住居が北方向へスライドしたような形である。2 軒とも大きな住居であったと思われる。特に H-61 号住居では、6 か所の柱穴を確認している。また、カマドの作りも非常に丁寧で、H-59 号住居では粘土でしっかりと作られていたことが確認できた。カマドの大きさも他の住居跡とは比べ物にならないほどであった。

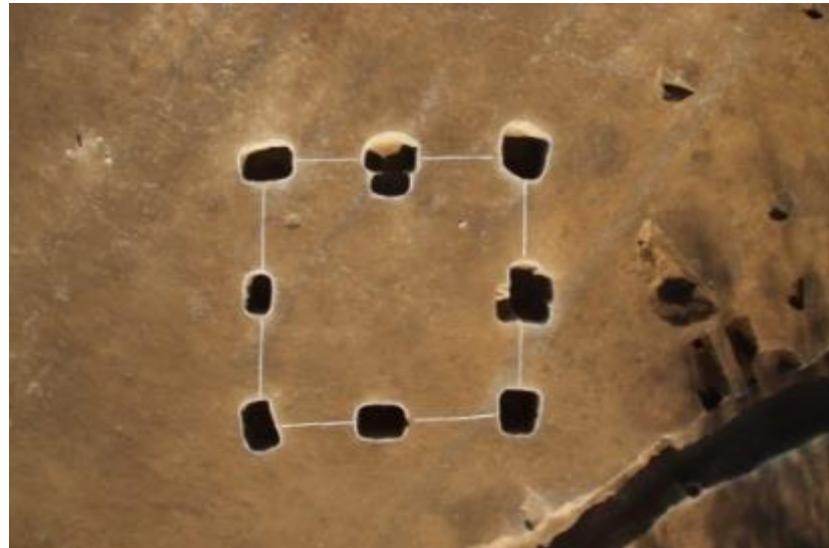
H-69 号住居は単独で検出された遺構で、本調査区の中で最も残存状態が良く、丁寧な作りであった。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、壁周溝が全周している。床面は全面に渡って驚くほど硬く締まっていた。移植ごてでは歯が立たず、床面を叩くと甲高い音が響くほどであった。こうした床面の作りは、H-59 号住居、H-61 号住居でも同様である。さらに、この 3 軒からは墨書き器が出土している。文字の正確な判別は今後の整理を待たねばならないが、現状では部首の「厂」と読める。



左:69号住居跡全景(西から)

2) 掘立柱建物跡について

本調査区では1棟検出した。先述したH-69号住居のすぐ東に位置し、建物の主軸方向もH-69号住居とほぼ同じである。2間×2間の正方形を呈す。柱穴はいずれも方形を成し、中に入りが入れるくらいの規模で丁寧な作りである。平成30年度調査の2区で検出された2間×3間の掘立柱建物跡よりも、柱穴は大きく規則性をもって作られていたと思われる。堅牢さを求められた建物であったことが窺える。H-69号住居の状況から、この掘立柱建物と一体で考える必要があると思われる。



1号掘立柱建物跡全景(上が北)

3) 製鉄・鍛冶遺構について

H-40号住居からは、椀型滓などを含む鐵滓が大量に出土した。また、H-48号住居では、赤く焼けた使用痕が認められる金床石が遺構中央部に設置され、その周囲では鍛造剥片や鐵滓が多く見つかった。羽口片も多く出土している。他の住居跡で、刀子、紡錘車、鎌などの鉄製品が見つかっていることから、この地で製鉄から製品作りまで行われていたことが窺える。



48号住居跡全景(西から)

4) 出土遺物について

出土遺物量は、全体的に多い傾向にあった。土師器、須恵器、陶器、鉄製品、青銅製品、錢貨、石製品など変化に富んでいる。中でも特徴的な事案について、以下に述べる。



3号住居跡力マド脇床直出土遺物(須恵器壊・土師器壊)

第一に墨書き土器が多く出土したことが挙げられる。土師器壊、高台椀の内外面に墨書きされているケースが多かった。「真」、「伴」などの墨書きは、細字で丁寧に書かれているもの、「厂」や「口」など部首と思われるもの、墨書きは薄く判別が難しいが、「位」、「舍」と読めるもの、中には記号のような墨書きも見られた。



17号土坑出土遺物(墨書き「真」)

第二に円面硯、水差し、高盤、青銅製の丸鞘や鉈尾といった帶飾りなど官衙関連遺物が出土したことである。先述した墨書き土器の出土を考慮すると、この集落には文字の読み書きができる役人（集落を管理する立場にある人）がいたと推察される。さらに、H-69号住居などの大型竪穴住居の存在を考えると、その可能性は高まると思われる。しかしながら、こうした貴重な遺物は、先に述べた大型の竪穴住居から出土したものは少なく、特にH-69号住居に関連する遺物の多くが、東に近接するW-1号溝から出土している。敢えて溝に廃棄した可能性も考えられる。



1号溝跡出土平瓶

左:61号住居跡出土
丸鞘(銅製)
右:27号住居跡出土
鉈尾(銅製)



33号住居跡出土高盤

33号住居跡出土円面硯

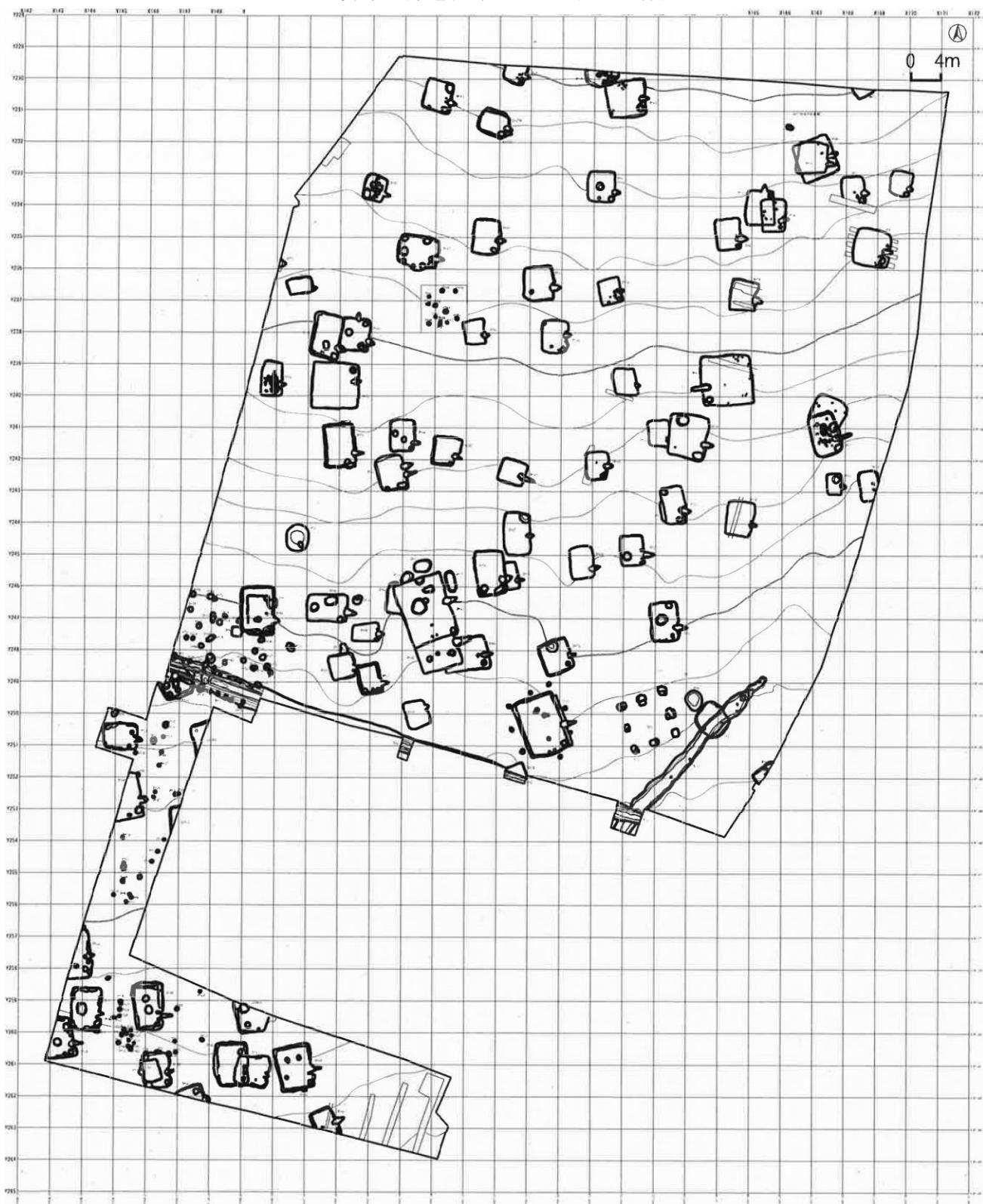


5) 溝跡について

本調査区では、2条の溝跡を検出した。W-1号溝跡は、調査区東側で走行は南北である。これに対し、W-2号溝跡は、5区と平成30年度調査の2区との境に位置し、ほぼ東西方向にまっすぐ延びる。W-1号溝跡は、底部から9世紀代の特徴を有する土師器壊が完形で出土している。また、先述したH-69号住居に関連する土器片が多く出土した。

W-2号溝跡については、上幅約3.5m、深さ約1.5mの規模を持つ。土層上位にはAS-B軽石を含む川砂層があり、7区で検出されたW-2号溝跡と近似する。溝断面はV字形で、溝の両肩部にピットが並ぶ。これらのピットが、土橋となるかどうかは今後の整理作業で検証することとする。仮に土橋となるようであれば、W-2号溝跡が区画溝の性格を有していた可能性も考えられる。

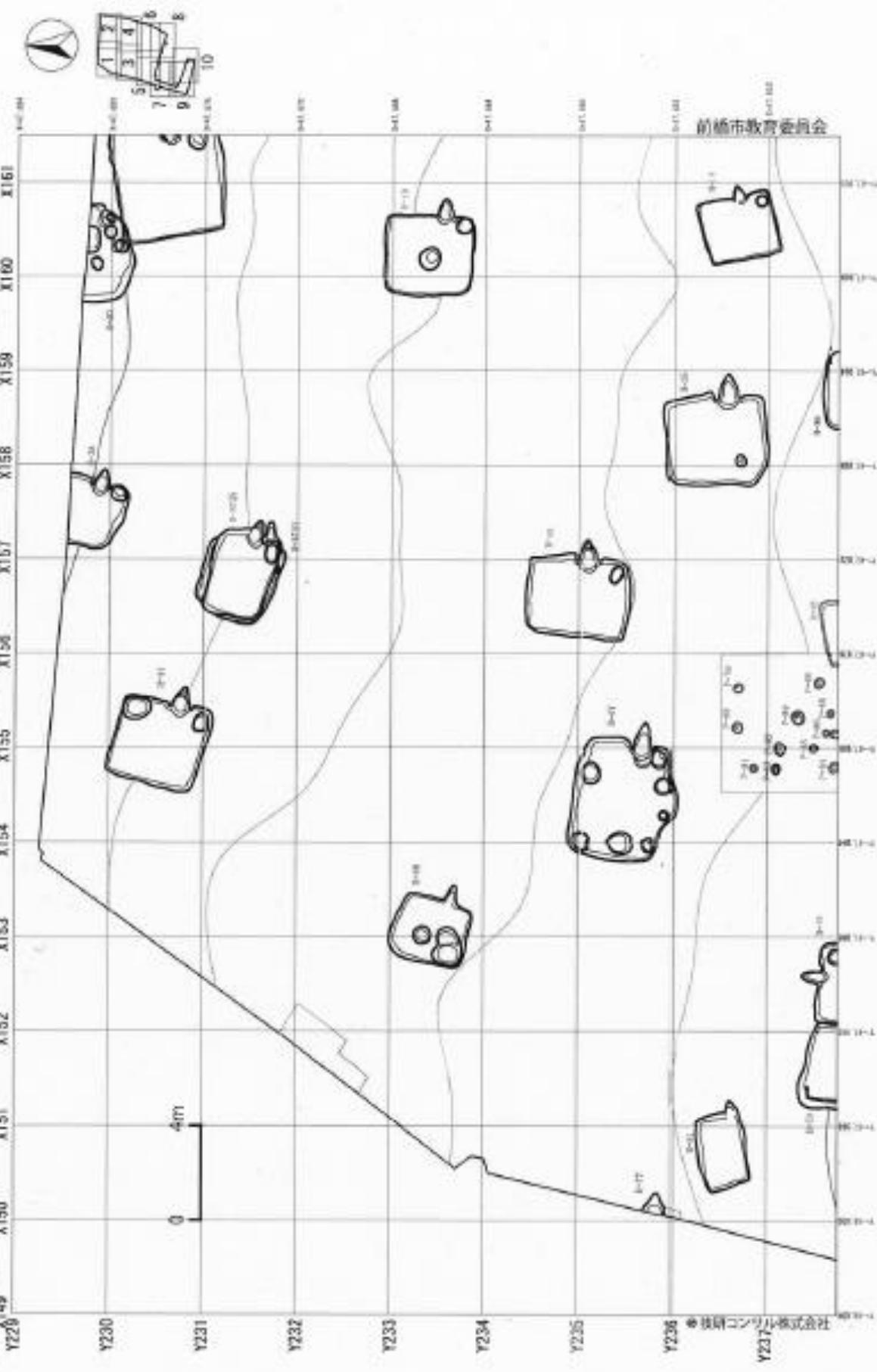
上細井中西部遺跡群No 2 5区 全体図



遺跡記号		遺跡名・位置	遺跡記号	遺跡名・位置	遺跡記号	遺跡名・位置															
Y226	X149	上細井中西部遺跡群No.25区 全体図1	Y230	X150	Y231	X151															
Y232	X152	Y233	X153	Y234	X154	Y235	X155	Y236	X156	Y237	X157	Y238	X158	Y239	X159	Y240	X160	Y241	X161		
Y231	X150	Y232	X151	Y233	X152	Y234	X153	Y235	X154	Y236	X155	Y237	X156	Y238	X157	Y239	X158	Y240	X159	Y241	X160

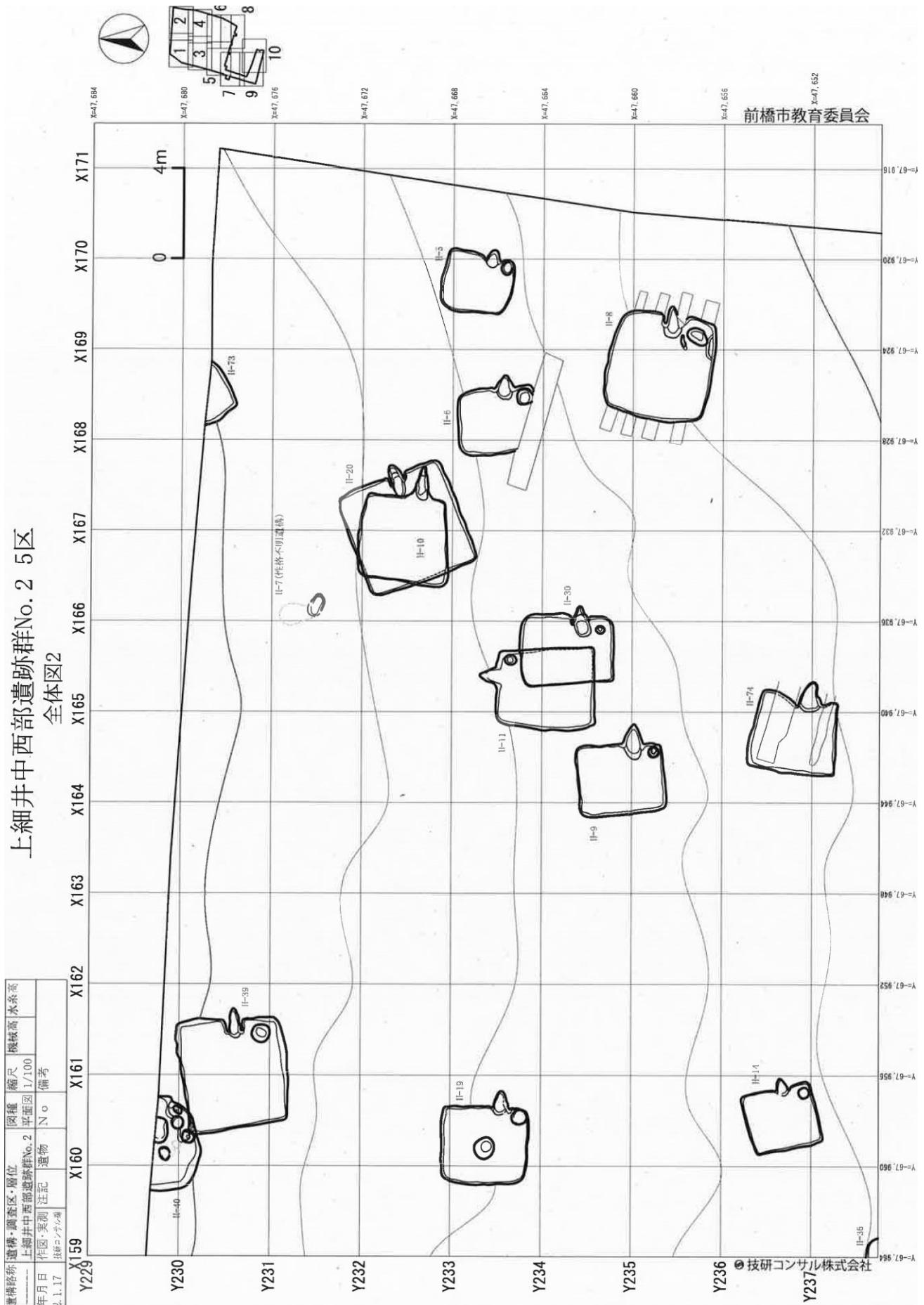
上細井中西部遺跡群No.25区

全体図1



上細井中西部遺跡群No.2 5区

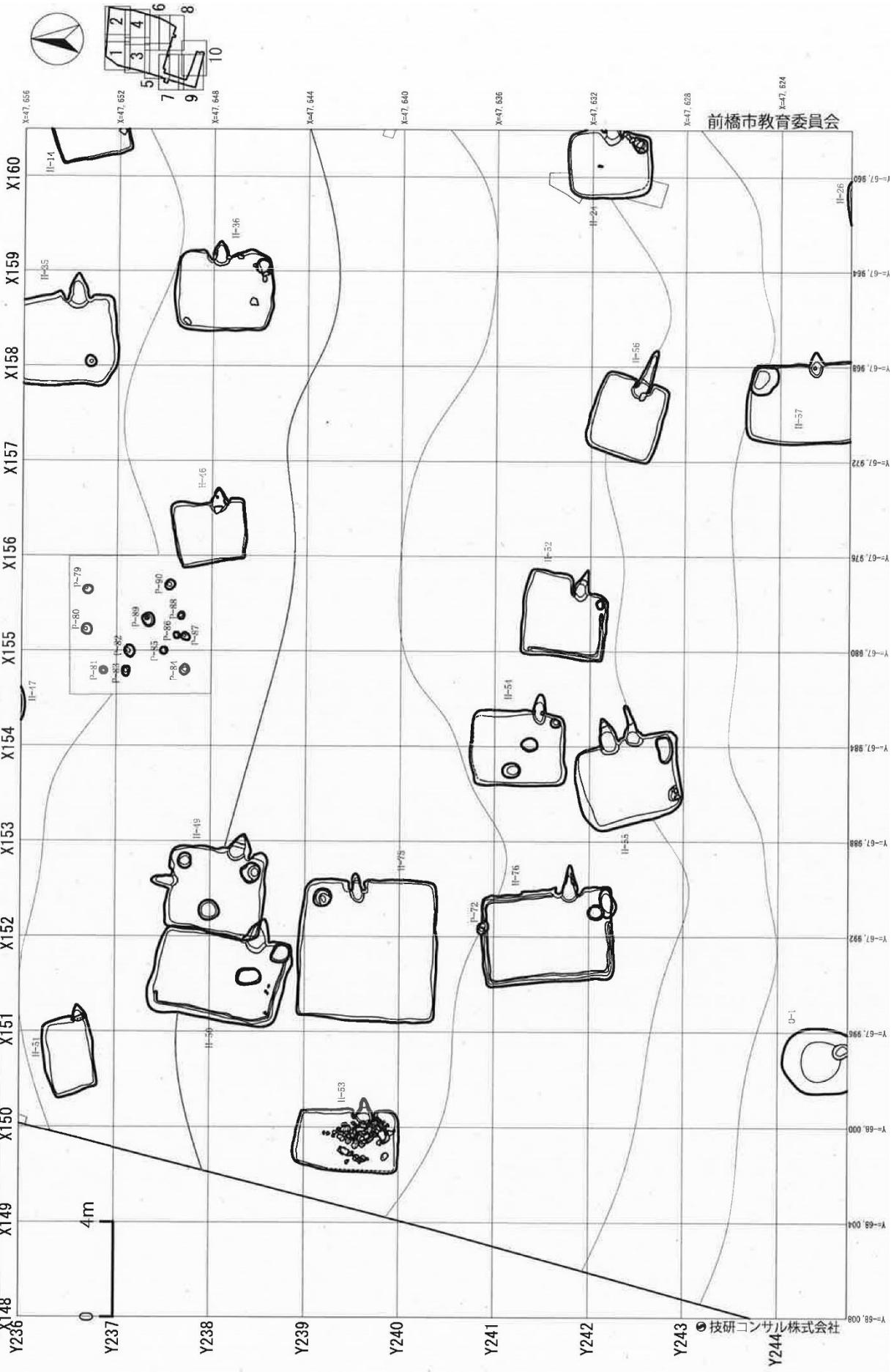
全体図2



遺跡名		遺跡区・位置		図種		縮尺	機械高	水系高
年月日	作成者	上細井中西部遺跡群No.2	記	平面図	N	1/100	備考	
2.1.17 桂川サト		遺物						

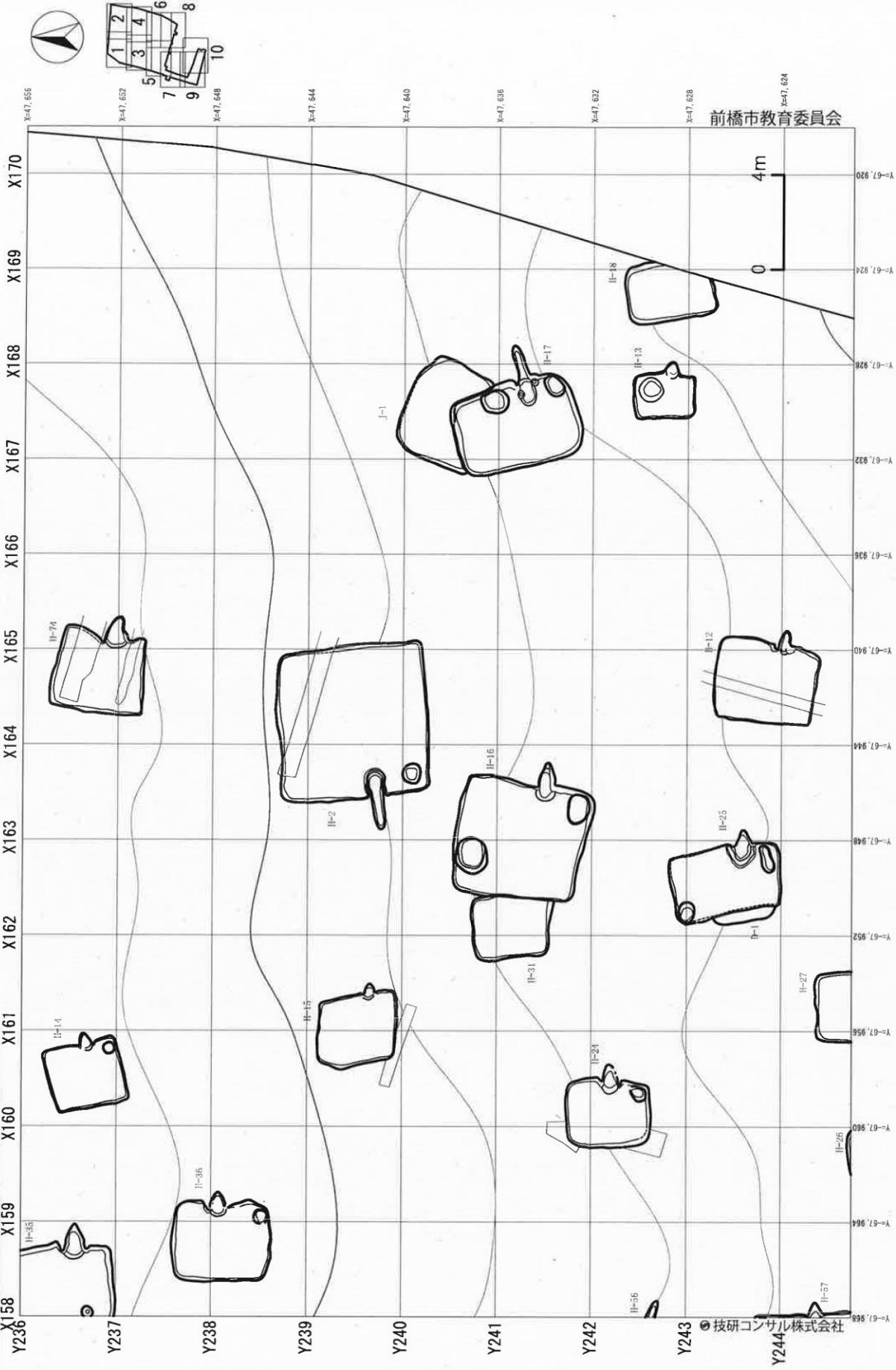
上細井中西部遺跡群No.2 5区

全体図3

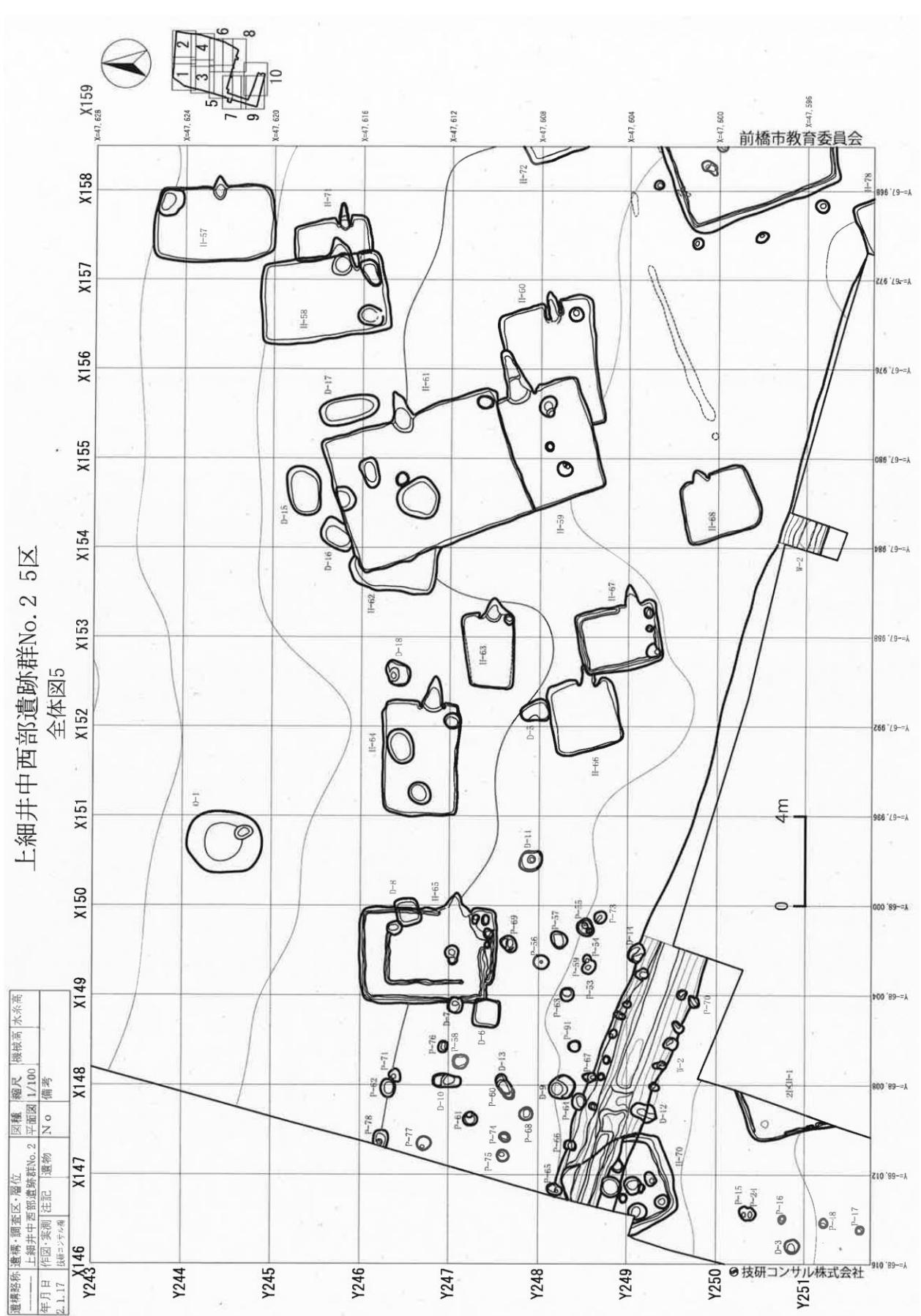


遺物名	遺物区・層位	図種	縮尺	機械高	水系高							
上細井中西部遺跡群No.2	上細井中西部遺跡群No.2	平面図	1/100									
年月日 2.1.17	作図・実測 技研コンサル株式会社	No.										
y236 X158	X159	X160	X161	X162	X163	X164	X165	X166	X167	X168	X169	X170

上細井中西部遺跡群No.2 5区
全体図4



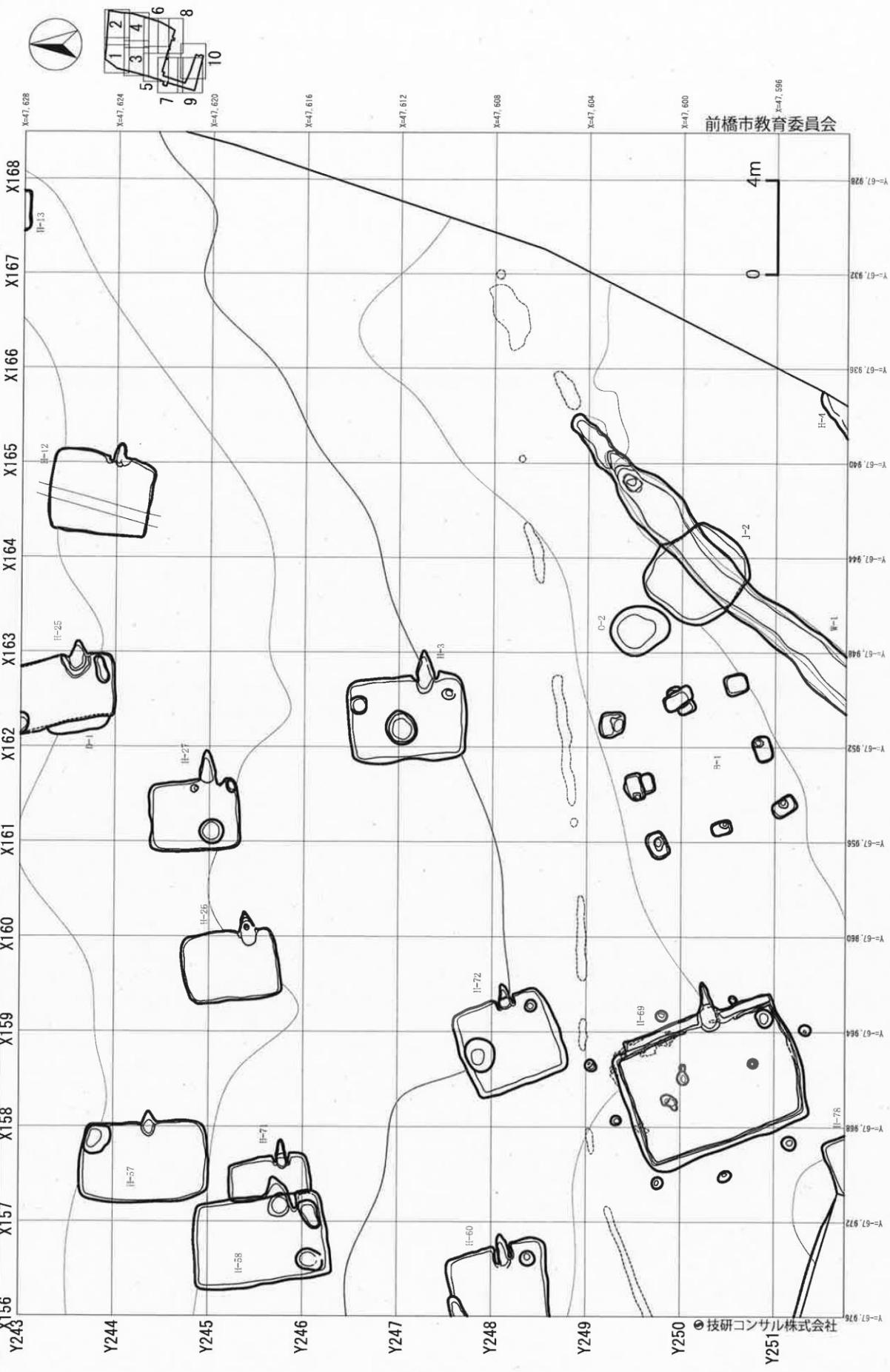
上細井中西部遺跡群No.2 5区
全体図5



遺跡名	遺跡・調査区・層位	遺物	図種	縮尺	機械高	水系高
上細井中西部遺跡群No.2	年月日	佐國実測	平面図	1/100		
Y244	2.1.17	長崎コマツル橋	N o			
Y245			備考			
Y246						
X146						
X147						
X148						
X149						
X150						
X151						
X152						
X153						
X154						
X155						
X156						
X157						
X158						
X159						

遺構終始位置	遺構・調査区・層位	図種	縮尺	機械高	水系高
年月日	上細井中西部遺跡群No. 2	平面図	1/100		
2.1.17 作図・実測 技研コンサル株 式会社	N o	調査			

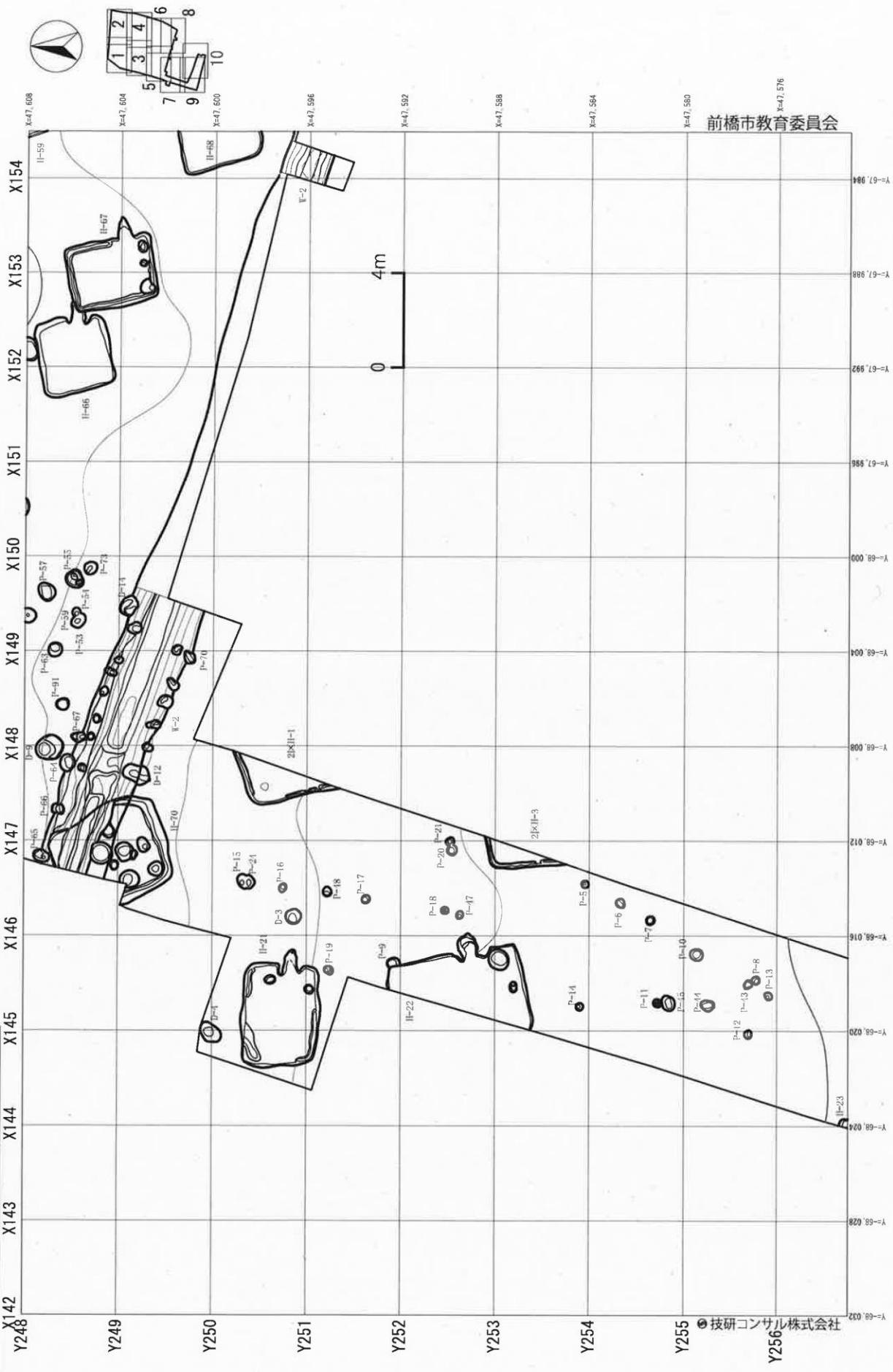
上細井中西部遺跡群No. 2 5区
全体図6



遺構名		遺構・調査区・層位		圖種		縮尺	機械高	水系高
年月日	作図・実測	注記	遺跡群No.2	平面図	1/100			
2.1.17 前橋シダモ				N O				

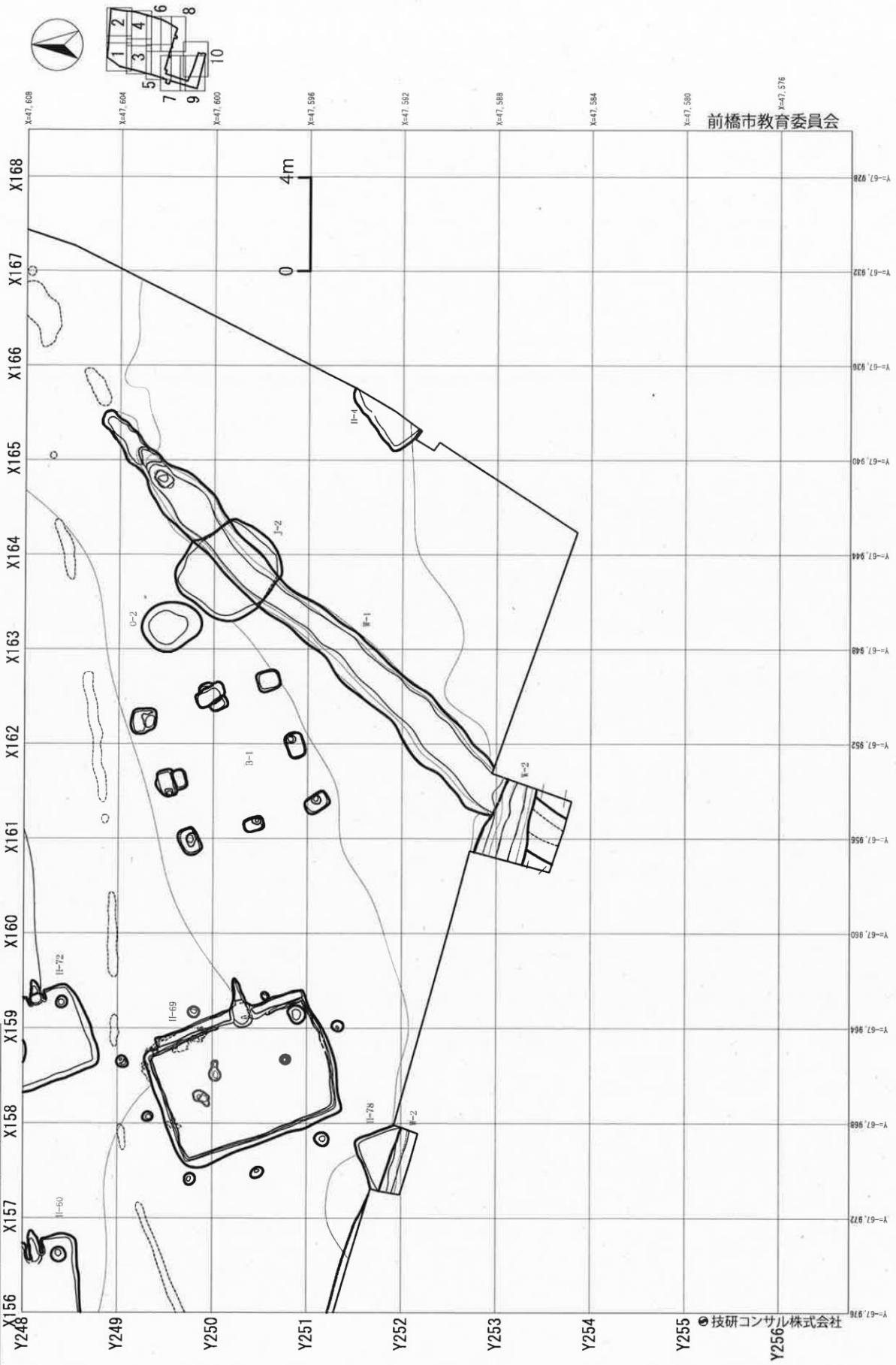
上細井中西部遺跡群No.2 5区

全体図7



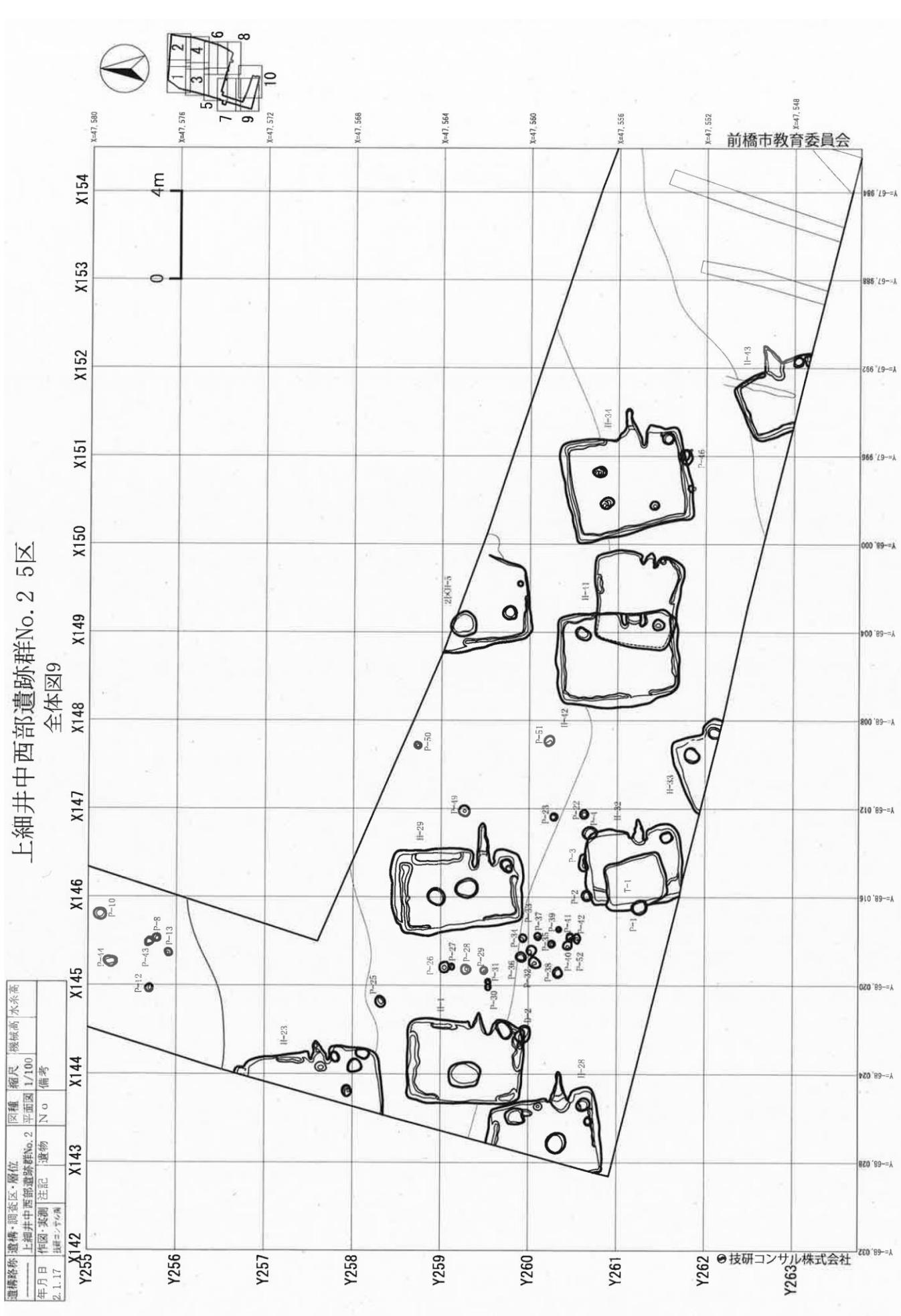
遺構・調査区・層位		上細井中西部遺跡群No.2		縦種		縮尺		機械高水系	
年月日	作成者	上細井中西部遺跡群No.2	注記	遺物	No.	平面図	1/100	備考	
2.1.17. 技研コンサル株	美鶴 氏								

上細井中西部遺跡群No.2 5区
全体図8



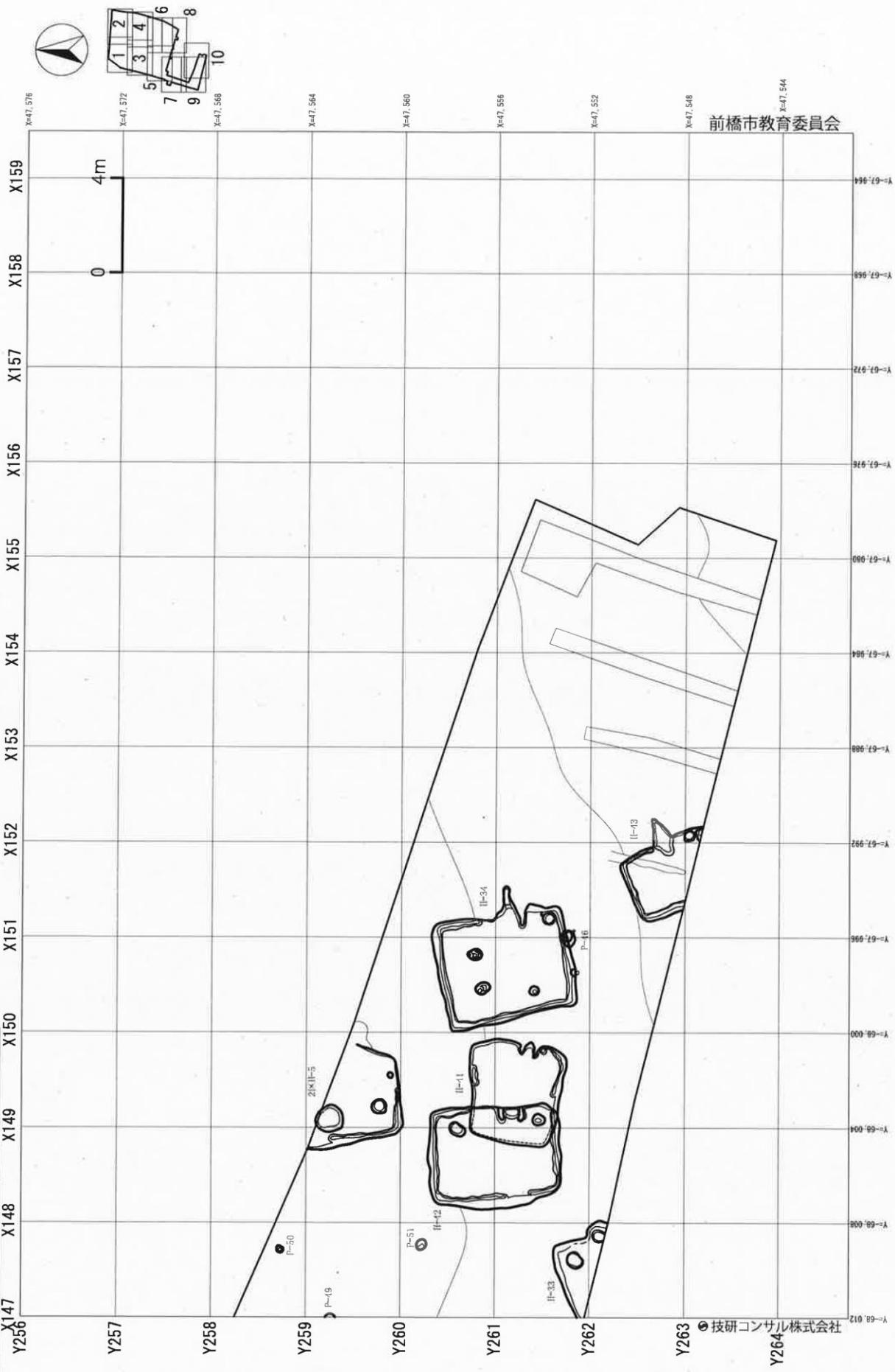
上細井中西部遺跡群No.2 5区

全体図9



遺構名	遺構、調査区、層位	面積	縮尺	機械高	水糸高
年月日	上細井中西部遺跡群No.2	N o.	平面図	1/100	備考
2.1.17 株式会社	前橋市立小学校				

上細井中西部遺跡群No.2 5区
全体図10



(3) 6区

所在地 前橋市上細井町 1642

調査期間 令和元年 7月 8日～10日、令和元年 8月 19日～22日

調査面積 233 m²

調査概要 人力でジョレンによる遺構プラン確認作業を実施したが、遺構及び遺物の検出には至らなかった。後世の削平を受けており、現耕作度直下に明黄褐色のローム層となる。AS-C を含む黒色土層は、部分的に確認できる程度であった。調査区全景写真撮影及び公共座標上での測量図化を行い、調査を終了した。



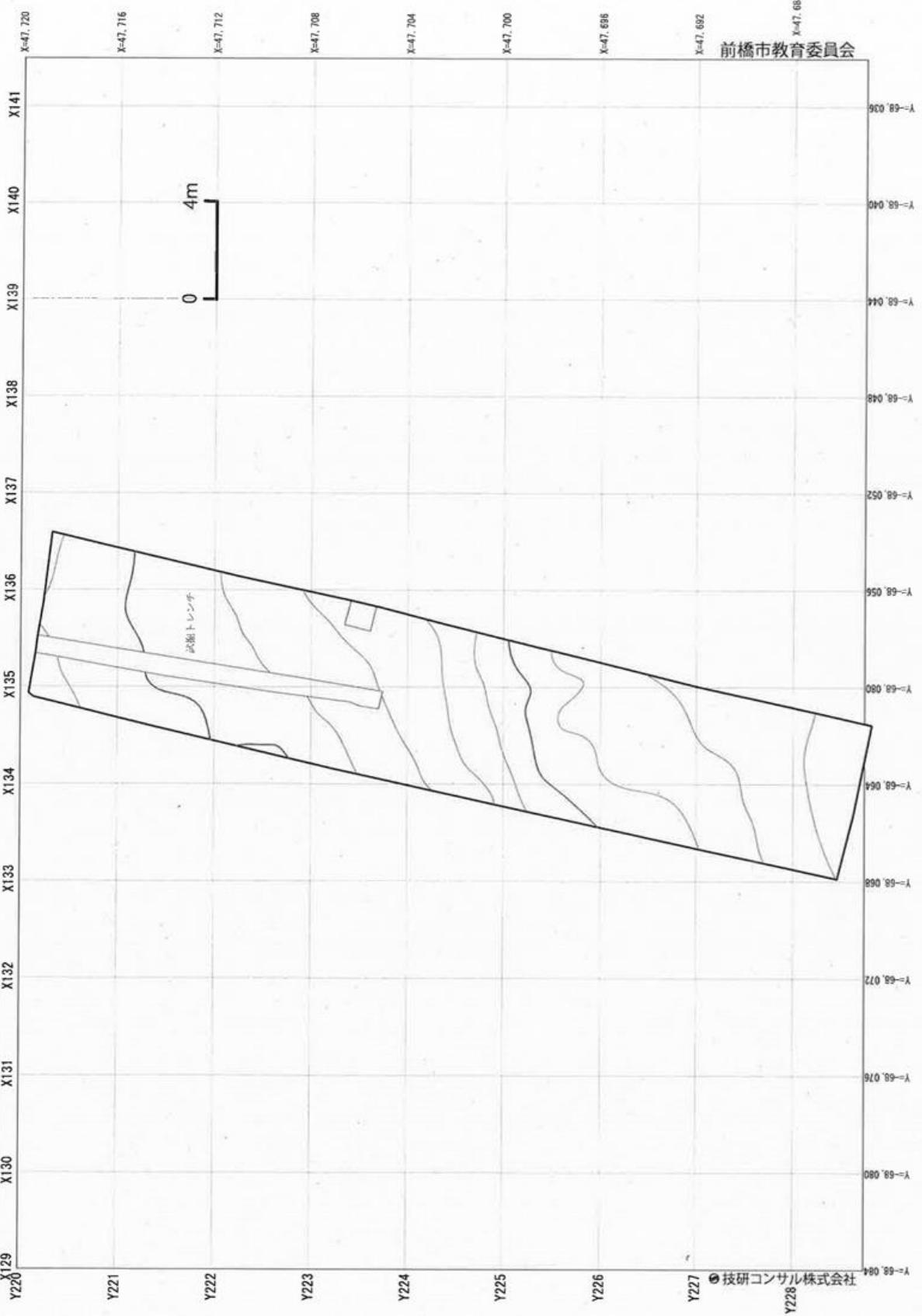
6区作業風景（群馬県庁方面を望む）



6区調査区遠景（南から）

上細井中西部遺跡群No.2 6区
全体図

遺跡名		遺跡・調査区・層位	年月日	作図・実測	測量	縮尺	測量高
上細井中西部遺跡群No.2		遺跡	1.8.22	長澤・シカノ	平成圖	1/100	水系高
Y229	X130	X131			N o		
Y221	X132	X133					
Y222	X134	X135					
Y223	X136	X137					
Y224	X138	X139					
Y225	X140	X141					
Y226							
Y227							
Y228							



(4) 7区

所 在 地 前橋市上細井町 1568-5 他

調査期間 令和元年 8 月 28 日～令和元年 10 月 16 日

調査面積 1,180 m²

調査概要 奈良・平安時代堅穴住居跡 9 軒、掘立柱建物跡 1 棟、古代溝跡 2 条、古墳 1 基（周堀のみ検出）を検出した。また、調査区外で上毛古墳総覧記載の「南橘 41 号墳」と推定される古墳の調査を実施した。遺構検出密度は高く、残存度も良好であった。4 区、5 区の調査結果、平成 30 年度の発掘調査結果等と合わせて考慮すると、本調査区の位置する台地上には、広範囲に集落が形成されていたと推察される。



7区調査区全景赤城山を望む(南から)



7区調査区全景(上が北)

【古墳時代】

7 区西方の調査区外で、古墳の石室が見つかった。古墳は、南橘 41 号墳の石室であると推定される。残存部分は、石室の最下段に相当する部分である。羨道部分と玄室部分に分かれ。石室周辺では、裏込めの石材と思われるこぶし大の石が大量に確認された。石室内から副葬品などの出土は無かった。全景写真撮影、石室平面図及び立面図の作成を行い、調査終了とした。

南橘村
41号墳石室
(南から)



7区調査区内で検出した古墳は、円墳と推定される。主体部は調査区外の南側に位置していたと考えられるが、削平されており本調査では周堀のみの検出に止まる。最大幅は、一部攪乱されているため推定値で5mと考えられる。遺構確認面からの深さは約1mで、土層観察した結果、中位でHr-FAの堆積がレンズ状に認められた。埴輪片等の出土遺物は無かった。

【奈良・平安時代】

検出した9軒とも主軸方向はほぼ正方位にある。1~2号住居及び9号住居は小規模で約4m四方の正方形、6号住居ではやや大きくなり約5m四方の正方形を呈す。3~5号住居、7号、8号住居は南北方向の長方形を呈す。住居規模は、やや大きく長軸5~7m×短軸4~6mとなる。遺構残存度も全体的に良好で、特に7号住居は壁高60~70cmを測る。本調査区内では最大規模で、出土遺物量も最も多い。

カマドは、全て東壁中央やや南寄りに設置されており、7号住居のものは非良好で、袖部も確認できた。ただし、本遺跡地でよく見られる石材を多く使用したカマドは検出されなかった。

特記事項として、5号住居が挙げられる。本遺構は、7号住居と同規模の大きさを有し、壁周溝や4か所の柱穴も検出されるなど、遺構残存度は良好である。さらに、本遺構は、焼失住居であったことがその特徴を際立たせている。床面全体が煤を帶びていて黒ずんでおり、特にカマド前の一帯は非常に強く焼けた影響で、床面は赤褐色に変色して、あたかも土器のように硬化している状況であった。また、住居北壁に近い床面直上に、ストロー状の植物が炭化したものや建物の建材が炭化したものも見つかった。出土遺物では、土師器、須恵器の甕、壺など煤が付着した状態で見つかった。紡錘車も1点出土している。

住居跡の検出範囲は、調査区西側で南北に走る2号溝より東側に集中している。3軒重複の遺構もあり、長期間集落が営まれていたことが窺える。また、2号溝の覆土は、5区で検出した2号溝に近似していた。土層上位は、川砂のような細かい砂質土主体でAs-B軽石が少量混入している。5区の2号溝との関連は、今後の課題である。

5号住居跡全景
(西から)





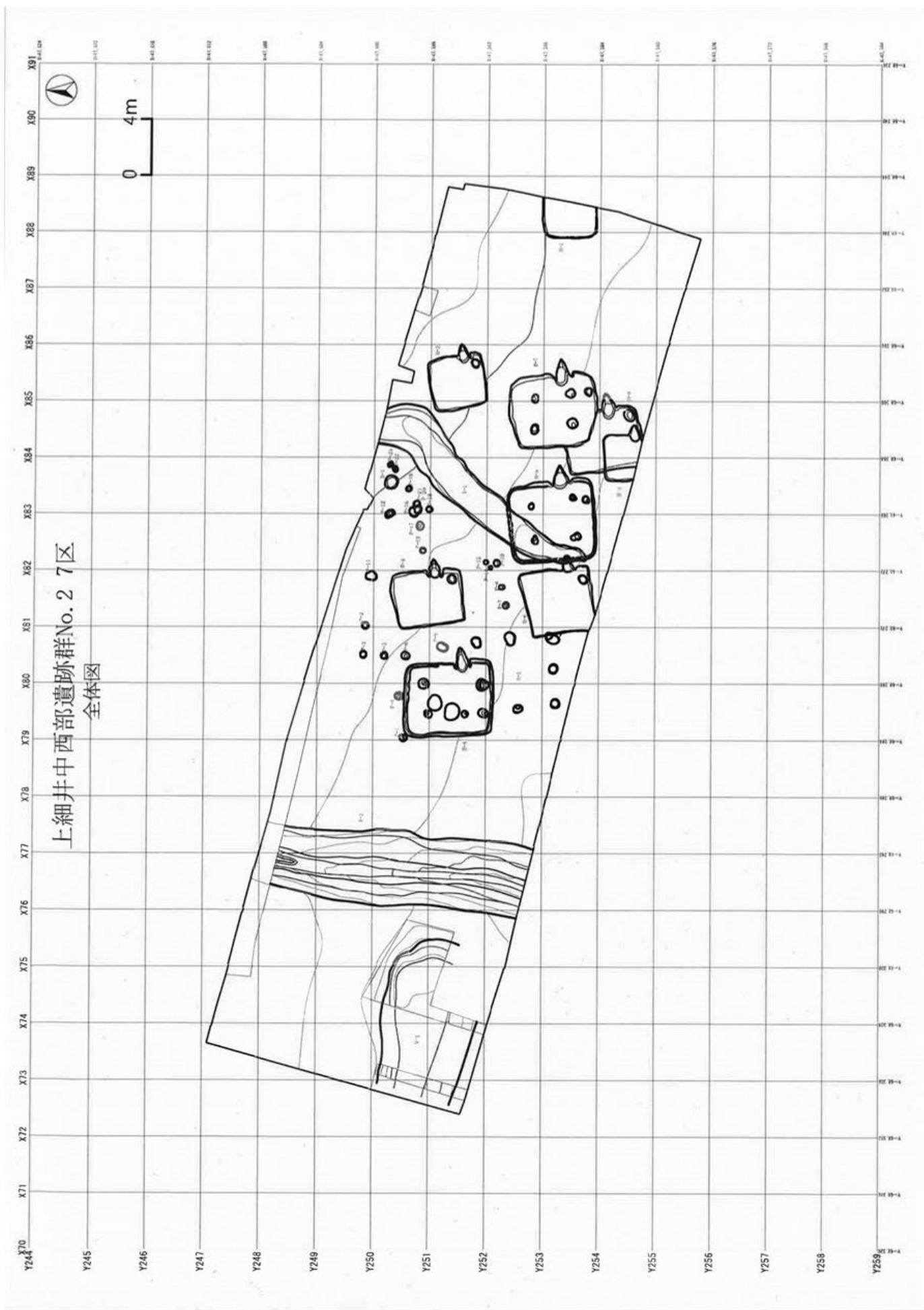
7号住居跡出土遺物(土師器壊)



5号住居跡出土遺物(須恵器壊)

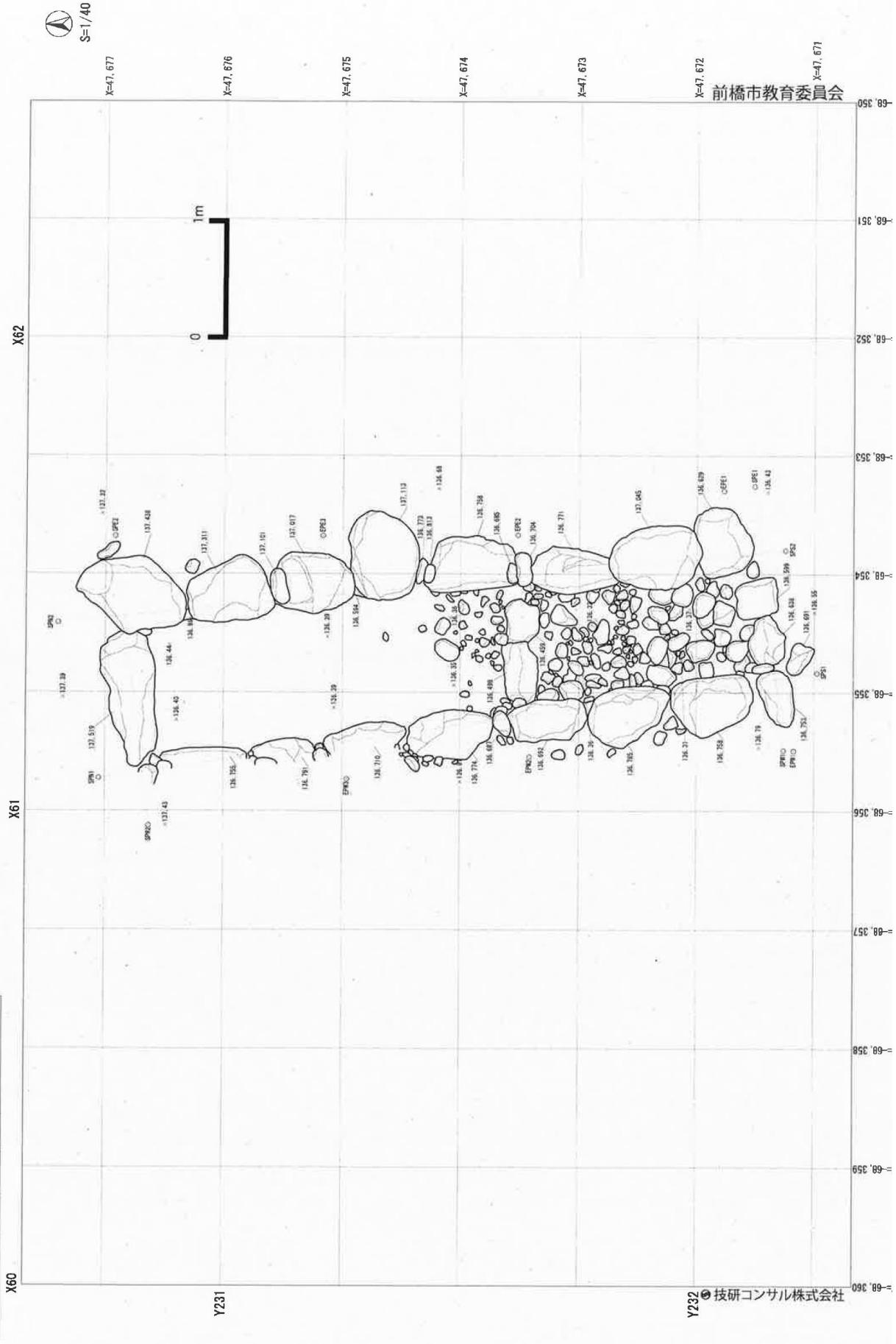


7号住居跡全景(南西から)



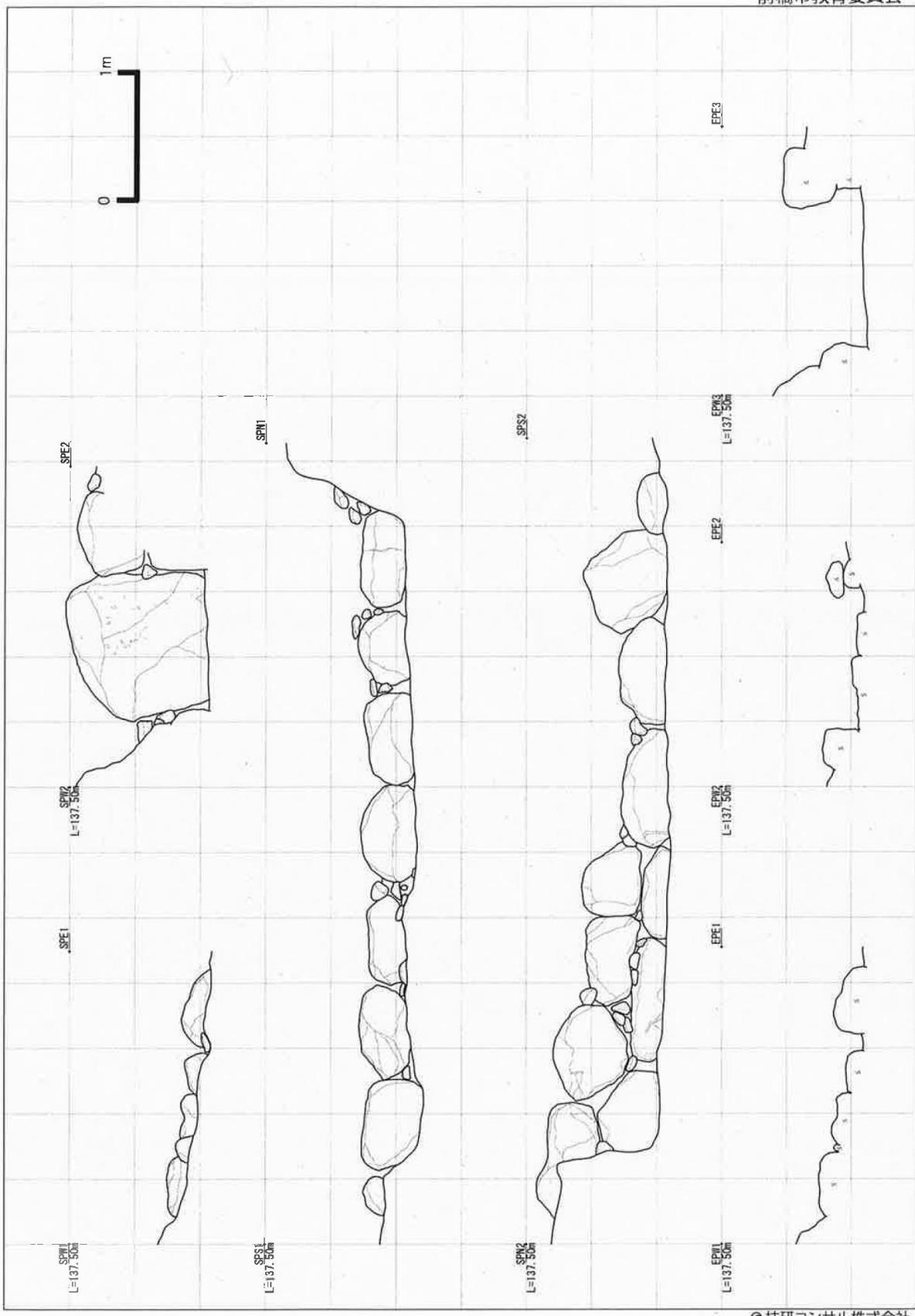
遺構名	遺構・調査区・層位	面図	縦・横	縮尺	機械高	水系高
年月日	上総井中西部遺跡群No.2	平面図	1/40			
1.10.14 技研コンサル株 式会社	遺物 注記	No.				

上総井中西部遺跡群No.2 7区
石室出土状況



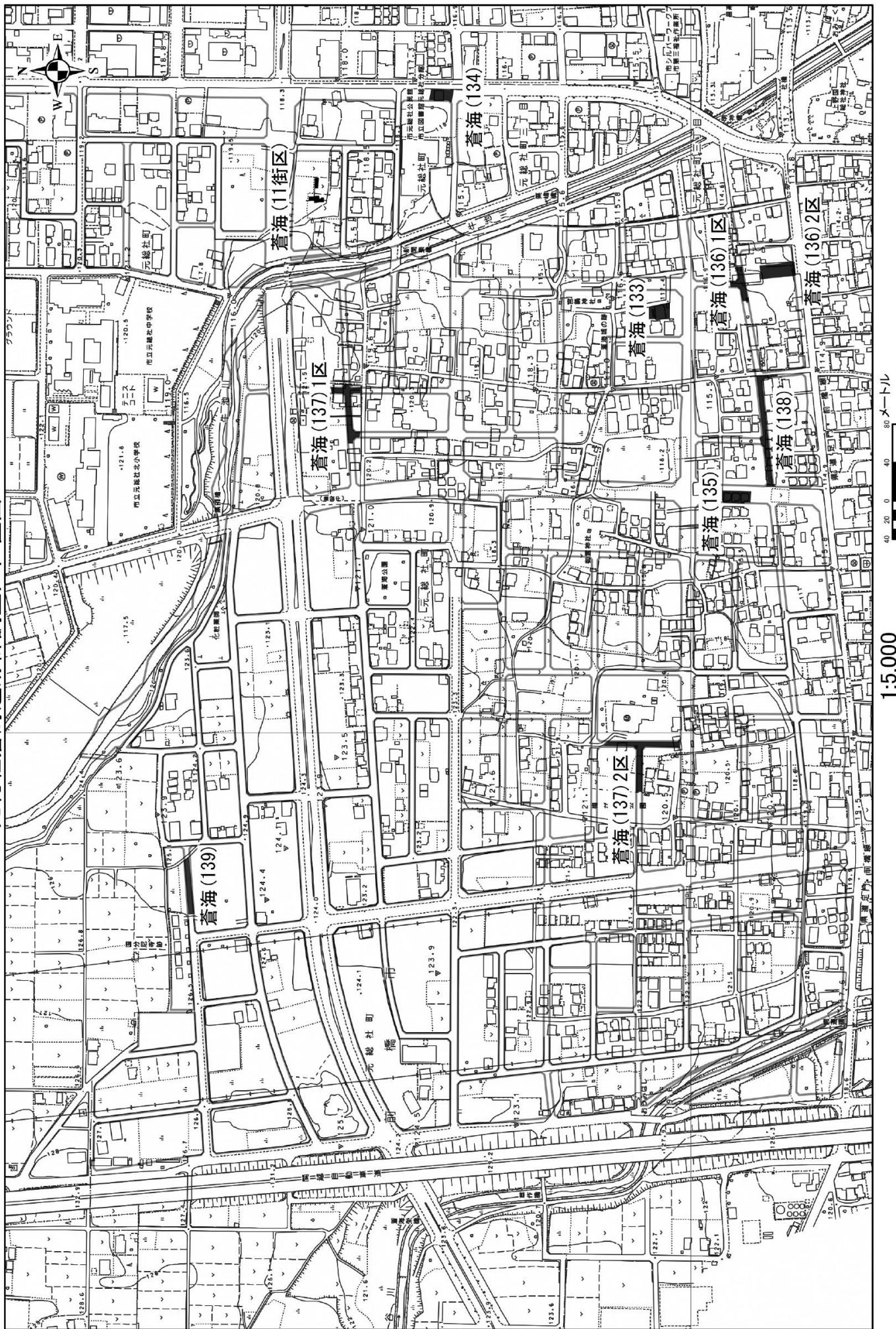
上細井中西部遺跡群No.2 7区
石室立面・エレベーション図

遺構名	遺構・調査区・層位	断面図No.2	図種	縮尺	標高	水系高
年月日	上細井中西部遺跡群		断面図	1/40		
	作図・実測	注記	遺物	No.	備考	
1.10.14	地盤・シルト					



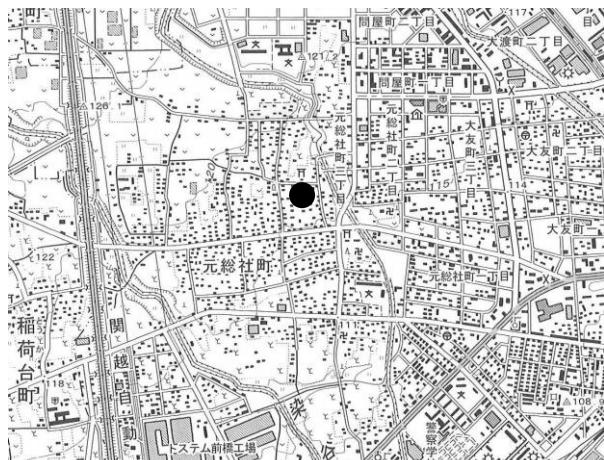
© 技研コンサル株式会社

元総社蒼海遺跡群調査区位置図



③元総社蒼海遺跡群(133)

調査地 前橋市元総社町 2107-6 ほか
調査期間 2019. 6. 14～2019. 12. 20
調査面積 203 m²
調査担当 阿久澤智和・齋藤 鳩・梅澤克典



調査区位置図

(1) 調査の経緯

令和元年6月3日付で、前橋市都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市から前橋市教育委員会へ提出された。協議の結果、市教委直営での発掘調査を行うことが決定し、6月14日より現地での調査を開始した。

(2) 調査成果

調査の結果、古墳時代から平安時代にかけての竪穴住居跡12軒、古代の礎石建物跡1棟、古代の掘立柱建物跡の桁行2間分の柱穴と考えられるピットが3基、古代の溝跡2条等が検出された。

礎石建物跡は、約13m四方の総地業であり、土層断面より黒色土と黄褐色の砂層土を含む暗褐色土とが互層になっている版築構造を持つことが確認できた。また、東へ2°程度傾いている。平成30年度に調査した元総社蒼海遺跡群(127)において、礎石建物跡の南限が確認されており、本調査によってその全景をとらえることができた。

この建物跡は7世紀頃の住居跡の上に作られており、総地業上部は10世紀～11世紀の住居跡によって壊されている。礎石や根石等も検出されて

いないことから、礎石の据え付け痕や柱穴等も既に失われてしまっているものと考えられる。



元総社蒼海遺跡群(133)全景（上が北）

また、礎石建物跡の北辺と平行するように走行する溝跡が1条検出された。東側には元総社蒼海遺跡群(113)で、南側には元総社蒼海遺跡群(127)で、同様に各辺と平行する溝跡が検出されており、これらは建物跡に伴う遺構である可能性がある。

さらに、調査区の対角線上を通り北東・南西方向へ走行する溝跡も検出された。幅は約2m、土層断面には硬化面が見られ、出土遺物等から6世紀頃の道路状遺構であると考えられる。溝跡の終息部は確認できなかったが、平成24年度の上野国府等範囲内容確認調査11トレンチにおいて延伸と考えられる溝跡が検出されており、少なくとも南西方向に続くものと見られる。



元総社蒼海遺跡群(133)全景（北西から）

④元総社蒼海遺跡群(134)

調査地 前橋市総社町総社 3588-3 ほか

調査期間 2019.7.16～9.26

調査面積 259 m²

調査原因 土地区画整理事業

調査担当 瀧澤典雄（スナガ環境測設株式会社）

調査の概要

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に係る道路工事（西部環状線）にあたり、前橋市（区画整理課）と埋蔵文化財の取扱いについて協議を行った。協議の結果、市教育委員会では既に直営の発掘調査を実施中であるため、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意した。

令和元年6月26日付けで前橋市とスナガ環境測設株式会社との間で発掘調査業務委託契約を締結し、7月16日より発掘調査を開始した。

調査地は区画整理区域東部の元総社公民館東側に位置し、周辺ではこれまでの調査で、古墳時代後期の集落が確認されている。



調査区全景（左が北）

今回の調査では、竪穴住居跡14軒、溝跡3条、土坑5基が検出された。竪穴住居跡のうち、11軒は5世紀後半から6世紀後半に帰属し、一辺約7.5mの大型竪穴住居跡(H-11)も検出された。遺物も内斜口縁の土師器壺や高壺、須恵器模倣壺等が出土しており、周辺の調査結果と同様に、和泉、鬼高郡の集落が広がる様相を見せる。



調査区遠景（東から）

古墳時代の集落が廃された後には、調査区中央を東西に横断する上幅7.5m、下幅3.1m、深さ2.34m、断面逆台形の古代の大溝(W-1)が開削される。開削や埋没時期は不明であるが、覆土は類似した土層で短期間のうちに埋没しており、10世紀後半には竪穴住居跡が重複して造られているので、それまでにほぼ埋没し、覆土最上部にAs-Bが堆積していることから、12世紀初頭には完全に埋没していたものと考えられる。この大溝は、これまで実施した元総社蒼海遺跡群(7)、同(9)、閑泉塙遺跡、閑泉明神北遺跡の調査でも検出されており、官衙に関連する区画溝と考えられる。



1号溝跡全景（東から）

⑤元総社蒼海遺跡群(135)

調査地 前橋市元総社町 2149-2 ほか
調査期間 2019. 9. 5～9. 24
調査面積 304 m²
調査原因 土地区画整理事業
調査担当 山田誠司（技研コンサル株式会社）

調査の概要

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に係る道路工事（元総社線）にあたり、試掘調査を実施した結果、蒼海城堀跡等を確認した。工事計画から遺構の現状保存は困難であると判断し、記録保存のための発掘調査実施について前橋市と協議を行った。協議の結果、市教育委員会では既に直営の発掘調査を実施中であるため、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意した。

令和元年8月30日付けで前橋市と技研コンサル株式会社との間で発掘調査業務委託契約を締結し、9月5日より発掘調査を開始した。

調査地は区画整理区域南東部の県道足門・前橋線の北側に位置し、蒼海城本丸の南西、二の丸西部にあたり「松井屋敷」とされる廓に該当する。



調査区全景（左が北）

調査の結果、溝跡3条、井戸跡6基、ピット21基を検出した。検出した溝跡はすべて中世蒼海城の堀跡と考えられ、南北方向に走行する1号溝跡は、本丸・二の丸と松井屋敷の間を走る堀にあたり、同一遺構は、本調査区北側の元総社蒼海遺跡群(23)(36)(124)(126)、南側の同遺跡群(47)(105)でも確認されている。



調査区遠景（南から）

また、この1号溝跡と直交する東西方向の堀跡2条が確認された。2号・3号溝跡は調査区の南側を並走しており、蒼海城絵図等に描かれた松井屋敷の南の堀跡が初めて確認されることになる。南側の2号溝跡は、南側が調査区外となるが、上幅が、5.23m、3号溝跡は3.55mと、2号溝跡の方が広いが、深さはともに1.6m程度である。

3条の堀跡の新旧関係は、1号溝跡が最も新しく掘り込まれていたが、同堀跡はこれまでの調査で4時期が確認されているため、蒼海城段階では逆転することも考えられる。2号・3号溝跡は、直接の切り合いではなく、間隔が極めて狭いため、併存していた可能性は低いと考えられる。

⑥元総社蒼海遺跡群(136)

調査地 前橋市元総社町 2124 ほか

調査期間 2019. 10. 15～11. 29

調査面積 696 m²

調査原因 土地区画整理事業

調査担当 山田誠司（技研コンサル株式会社）

調査の概要

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に係る道路工事（区画道路）及び宅地造成にあたり、前橋市（区画整理課）と埋蔵文化財の取扱いについて協議を行った。周辺の発掘調査結果から、工事予定地には遺跡が存在することが想定され、工事計画から遺構の現状保存は困難であると判断し、記録保存のための発掘調査実施について協議を行った。協議の結果、市教育委員会では既に直営の発掘調査を実施中であるため、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意した。

令和元年10月11日付けで前橋市と技研コンサル株式会社との間で発掘調査業務委託契約を締結し、10月15日より発掘調査を開始した。

調査地は区画整理区域南東部の県道足門・前橋線の北側に位置し、北側の道路工事部分をA区、南側の宅地造成部分をB区とした。

調査の結果、A区からは、総地業および布地業の礎石建物跡各1棟、掘立柱建物跡1棟、竪穴住居跡8軒、溝跡1条等が検出されたが、B区は地



基壇状遺構全景（西から）

形の傾斜に加えて削平が著しく土坑5基とピット11基が検出されただけであった。

A区で検出された総地業の建物跡は、地業範囲が一辺11mを超えるものと推定され、版築された総地業を伴う遺構は元総社蒼海遺跡群(99)、(127・133)でも確認されており、本遺跡で3例目となる。

布地業の建物跡は、外周部および南北に地業が行われ、規模は東西約13m×南北約8m、桁行5間（柱心々間約2.3m）、梁行推定3間を測る。

掘立柱建物跡は、総地業の建物跡の下から検出され、現状の規模で桁行3間、梁行2間、柱間寸法で桁行総長6.0m、梁行総長4.0mを測る。

検出された3棟の建物跡は、それぞれ西へ10°程度傾くものと推定され、A区の周辺で調査を実施した元総社蒼海遺跡群(99)の総地業や同遺跡群(95)の東西区画溝ともほぼ同じ傾きとなる可能性がある。



調査区全景（左が北）



1号建物跡全景（西から）

⑦元総社蒼海遺跡群(137)

調査地 前橋市元総社町 1986 ほか

調査期間 2019. 12. 5～2. 13

調査面積 1, 459 m²

調査原因 土地区画整理事業

調査担当 山田誠司（技研コンサル株式会社）

調査の概要

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に係る道路工事（区画道路）にあたり、試掘調査を実施した結果、堅穴住居跡、蒼海城堀跡等を確認した。工事計画から遺構の現状保存は困難であると判断し、記録保存のための発掘調査実施について前橋市（区画整理課）と協議を行った。協議の結果、市教育委員会では既に直営の発掘調査を実施中であるため、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意した。

令和元年 11 月 26 日付けで前橋市と技研コンサル株式会社との間で発掘調査業務委託契約を締結し、12 月 5 日より発掘調査を開始した。

調査地は区画整理区域北部の中央大橋線南側の1 区と中央部の元総社幼稚園西側の2 区に分かれている。

調査の結果、1 区からは、6 世紀後半から 7 世紀前半頃にかけての堅穴住居跡 4 軒、10 世紀前半から中頃にかけての堅穴住居跡 4 軒のほか溝跡 1 条、井戸跡 2 基、土坑 19 基、ピット 27 基が検出された。2 区からは、7 世紀末から 11 世紀にわた



2 区調査区遠景（上が北）

る堅穴住居跡 37 軒、溝跡 5 条、堅穴状遺構 1 基、井戸跡 1 基、土坑 19 基、ピット 27 基が検出された。

特筆すべき遺物として 2 区の 26 号堅穴住居跡から、瑞花双鳥（鳳）文で、鈕座縁辺に連珠文が巡る八稜鏡が、床面直上から境背面を上にして出土した。また、8 号土坑からは、鉄鐸、鉄滓、鈴、4 本の雁又鏃とともに、五花鏡と素文鏡が重なった状態で出土した。五花鏡は鉄鐸が鏃により付着していた。



1 区調査区全景（上が北）



2 区出土の八稜鏡（左）と五花鏡

⑧元総社蒼海遺跡群(138)

調査地 前橋市元総社町 2140 ほか

調査期間 2019.12.16～2020.1.6

調査面積 702 m²

調査原因 土地区画整理事業

調査担当 前田和昭（技研コンサル株式会社）

調査の概要

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に係る道路工事（区画道路）にあたり、試掘調査を実施した結果、蒼海城の堀跡等を確認した。工事計画から遺構の現状保存は困難であると判断し、記録保存のための発掘調査実施について前橋市と協議を行った。協議の結果、市教育委員会では既に直営の発掘調査を実施中であるため、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意した。

令和元年 12 月 6 日付けで前橋市と技研コンサル株式会社との間で発掘調査業務委託契約を締結し、12 月 16 日より発掘調査を開始した。

調査地は区画整理区域南東部の県道足門・前橋線の北側に位置し、中世蒼海城の二の丸南面付近に該当する。

調査の結果、蒼海城堀跡 3 条を含む溝跡 5 条、ピット 37 基が確認された。

今回検出された 1 号溝跡は、蒼海城二の丸南面を東西に区画する堀跡で、蒼海城絵図等に描かれた二の丸南面の堀跡が初めて確認された。調査区内では北側の立ち上がり部の検出に留まり、南側は調査区外となるが、試掘結果から幅 13m 以上に



調査区全景（上が北）



1号溝跡全景（東から）

なると推定される。1号溝跡は、西側で蒼海城本丸の西を南北に走行する堀跡に接続すると想定される。また、さらにその西側は、蒼海城絵図から松井屋敷の南面を区画する堀跡へ直線的に伸びることが想定されたが、今回、二の丸が南側に張り出す形状であることが判明した。なお、東側は調



調査区東側全景（西から）

査区外となる。

2・3・4号溝跡は、南北に走行する。3号溝跡は、城の主郭当面を区画している堀跡で、元総社蒼海遺跡群(29) 1 区 2 号溝跡と同一遺構で、推定幅 10m 以上、深さ 4m 程度とされている。2号溝跡は、蒼海城絵図には該当がないが、元総社蒼海遺跡群(21) 27 地点 2 号溝跡と同一遺構となる。同一方向を示し、重複して先行する 4 号溝跡は、蒼海城の築城に関連する可能性がある。

⑨元総社蒼海遺跡群(139)

調査地 前橋市元総社町 1734 ほか

調査期間 2019. 12. 10～12. 24

調査面積 313 m²

調査原因 土地区画整理事業

調査担当 前田和昭（技研コンサル株式会社）

調査の概要

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に係る道路工事（区画道路）にあたり、試掘調査を実施した結果、堅穴住居跡等を確認した。工事計画から遺構の現状保存は困難であると判断し、記録保存のための発掘調査実施について前橋市（区画整理課）と協議を行った。協議の結果、市教育委員会では既に直営の発掘調査を実施中であるため、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意した。

令和元年 12 月 6 日付で前橋市と技研コンサル株式会社との間で発掘調査業務委託契約を締結し、12 月 10 日より発掘調査を開始した。

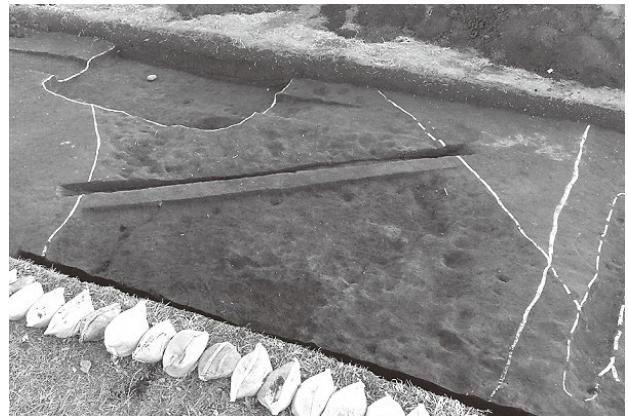
調査地は区画整理区域の北西部、国分尼寺跡の南東に位置する。

調査の結果、堅穴住居跡 5 軒、道路状遺構 1 条、溝跡 1 条、粘土採掘坑 1 基、土坑 2 基を検出した。

本調査区は、国分尼寺跡に近接するため、尼寺に関連する遺構の検出や西側に隣接する元総社蒼海遺跡群(20)で検出した瓦敷遺構の延伸等、関連



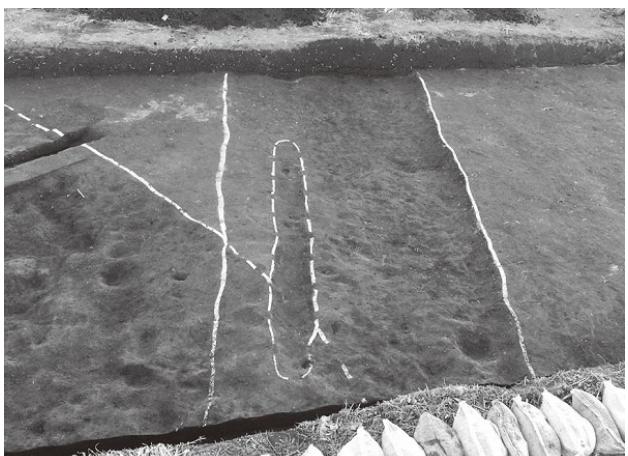
調査区全景（上が北）



1号道路状遺構全景（北西から）

遺構の検出が期待されたが、直接尼寺に関連する遺構は検出されなかった。

今回検出された堅穴住居跡は、8世紀前半 1軒、9世紀後半 2軒、11世紀前半 1軒、時期不明 1軒であった。このうち9世紀後半の4号堅穴住居跡から、凸面に「吉」とヘラ書きされた平瓦が出土している。また、11世紀前半の5号堅穴住居跡は、



1号溝跡全景（北から）

1号道路状遺構を切っていることから、道路状遺構はこれ以前の所産と想定される。なお、道路状遺構は、36° 西へ傾いて走行するが、この延伸は、調査区南側で調査を実施した元総社小見内VII遺跡では検出されていない。

また、南北に走行する1号溝跡は、1号道路状遺構に切られ、これより古くなるが、この延伸も元総社小見内VII遺跡では検出されていない。

⑩元総社蒼海遺跡群(11街区)

調査地 前橋市元総社町 3605-2 ほか
調査期間 2019.11.14～11.19
調査面積 143 m²
調査原因 診療所建築
調査担当 神宮聰・岩丸展久・松村輝敏・
並木史一・寺内勝彦

(1)調査の経緯

令和元年 9 月 10 日付で提出された試掘確認調査依頼に基づき、同年 10 月 11 日に確認調査を実施した結果、竪穴住居跡等を確認した。遺跡の現状保存に向けて協議を行い、開発者の設計変更が行われたが、一部に掘削が深くなる部分が残ることとなつた。当該部分は、当初の確認調査実施部分とは異なる箇所であったため、当該部分について同年 11 月 13 日に再度試掘を実施したところ、竪穴住居跡等が確認された。速やかに協議を行い、これ以上の計画変更は困難であることから、工事により現状保存の困難な部分について、記録保存を目的とした発掘調査を実施することで合意した。

発掘調査は市教委直営で行い、調査に要する重機、測量等の経費は開発者が負担することとし、11 月 14 日より発掘調査を開始した。

(2)調査結果

調査地は前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業区域内にあり、近年開通した県道足門・前橋線（中央大橋線）の南側に面し、牛池川の左岸に位置する。周辺は、区画整理事業に伴い、住宅の新築、移転や商業施設の建設が進む地域で、同事業に伴った発掘調査も多数行われ、時期は縄文から近代に至り、遺跡内容も集落遺構から官衙、城館等幅広く検出されている地域である。

調査の結果、竪穴住居跡 6 軒、鍛冶工房 1 軒、溝跡 1 条が確認された。

1号住居跡

位置 : X261、Y117・118 グリッド 規模等 : 東西 2.8 m、南北 3.7 m、壁現高 18cm 床面 : 地山黒色土を用いた貼床で、締まりやや弱い。竈 : 東壁やや南寄りに位置する。全長 100 cm、最大幅 70 cm、焚口部幅 70 cm。貯蔵穴等 : 南東部に柱穴 1 基が確認された。他に竈手前に 1 基検出されたが、住居に伴うものか不明。貯蔵穴は検出されなかつた。周溝 : なし 重複 : なし 時期 : 出土遺物と覆土の状況から 8 世紀と考えられる

2号住居跡 欠番

3号住居跡

位置 : X261、Y114 グリッド 規模等 : 東西 (1.5) m、南北 (0.9) m、壁現高 17cm 床面 : 総社砂層を掘り込んだ地山床。一部は周溝墓覆土を床とする。竈 : 検出されなかつた。貯蔵穴等 : 検出されなかつた。周溝 : なし 重複 : W-1 と重複し、本遺構が新しい 時期 : 不明

4号住居跡

位置 : X264・265、Y115・116 グリッド 規模等 : 東西 3.1 m、南北 (2.8) m、壁現高 27cm 床面 : 地山黒色土を用いた貼床。竈 : 東壁中央に位置する。全長 81 cm、最大幅 70 cm、焚口部幅 70 cm。貯蔵穴等 : 竈右側となる住居南東隅に楕円形の貯蔵穴が設置される。柱穴は確認されなかつた。周溝 : なし 重複 : 7 号住居跡と重複し、本遺構が古い 時期 : 重複関係と出土遺物から 10 世紀以前と推定される。

5号住居跡

位置 : X266・267、Y115・116 グリッド 規模等 : 東西 (5.0) m、南北 (3.2) m、壁現高 18cm 床面 : 地山黒色土を用いた貼床 竈 : 検出されなかつた。貯蔵穴等 : 検出されなかつた。周溝 : なし 重複 : 6 号住居跡と重複し、本遺構が古い 時期 : 古

墳時代と推定されるが、詳細は不明

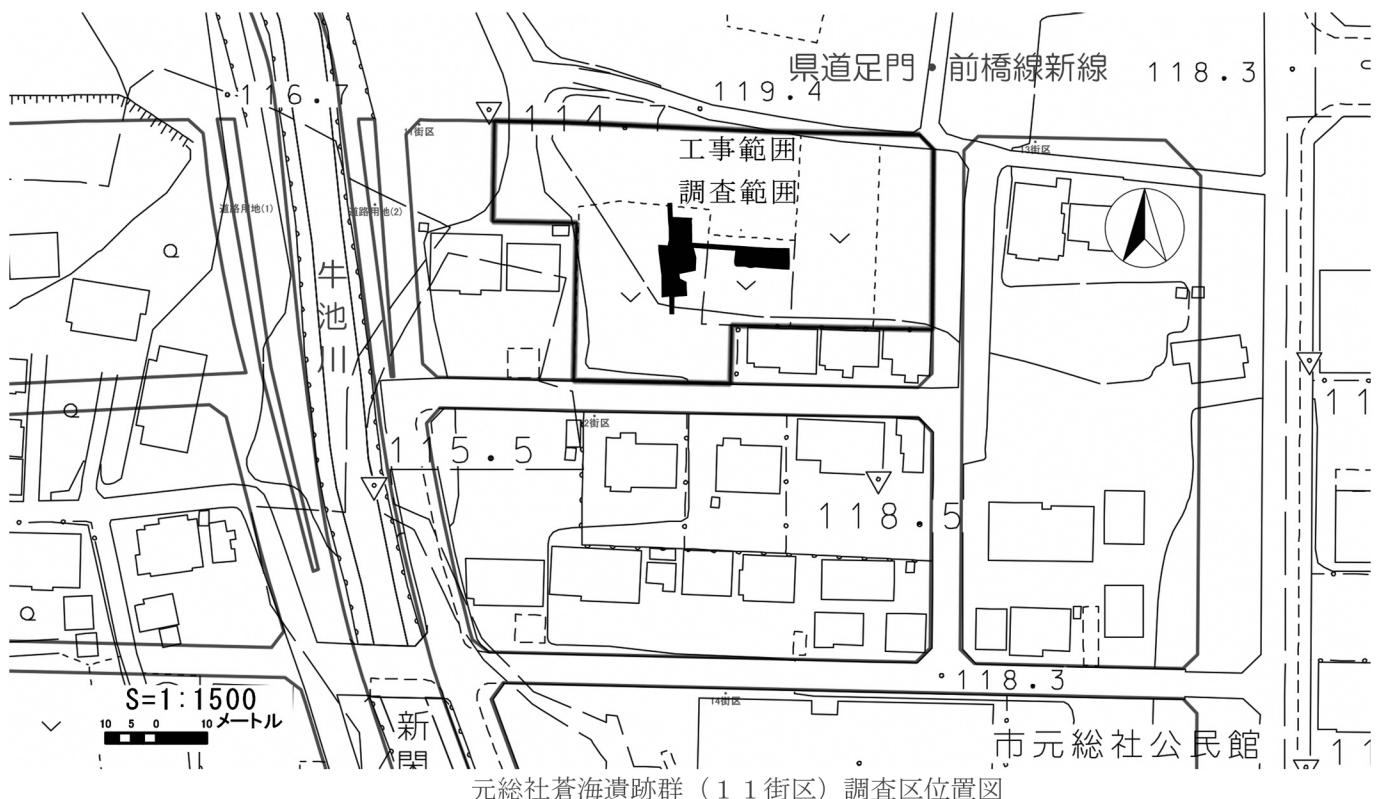
6号住居跡

位置：X266・267、Y115・116 グリッド **規模等**：東西(4.2)m、南北(3.1)m、壁現高 41cm **床面**：地山黒色土を用いた貼床 **竈**：検出されなかった。
貯蔵穴等：北側に床下土坑が検出された。南側で柱穴 2 基が確認された。貯蔵穴は検出されなかった。**周溝**：なし **重複**：5号住居跡と重複し、本遺構が新しい **時期**：古代と推定される。

7号住居跡

位置：X264・265、Y116 グリッド **規模等**：東西 2.4 m、南北(2.5)m、壁現高 26cm **床面**：地山黒色土を用いた貼床 **竈**：東壁南隅に位置する。全長 100 cm、最大幅 53 cm、焚口部幅 53 cm。
貯蔵穴等：検出されなかった。**周溝**：なし **重複**：4号住居跡と重複し、本遺構が新しい **時期**：出土遺物と遺構の形状から 10 世紀代と推定される。

1号鍛冶工房跡

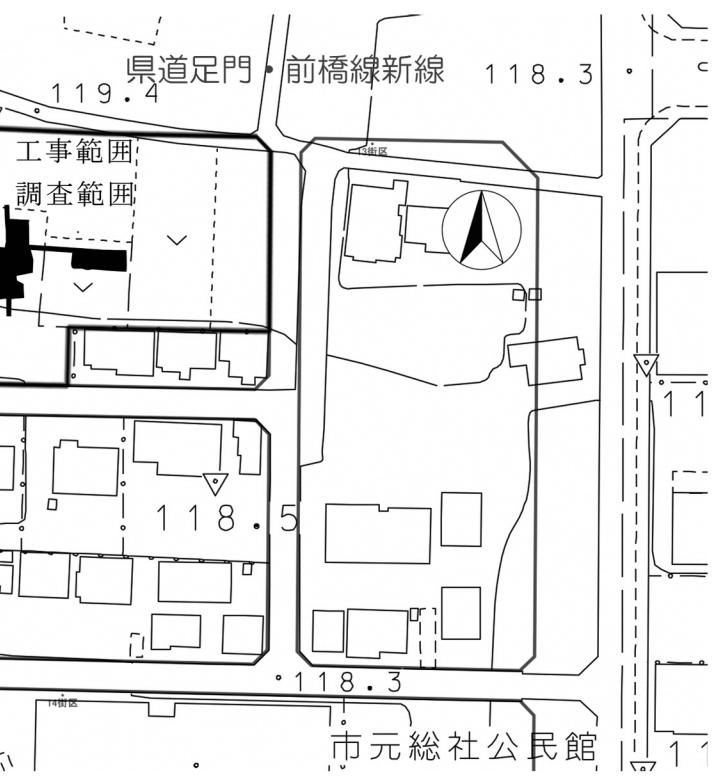


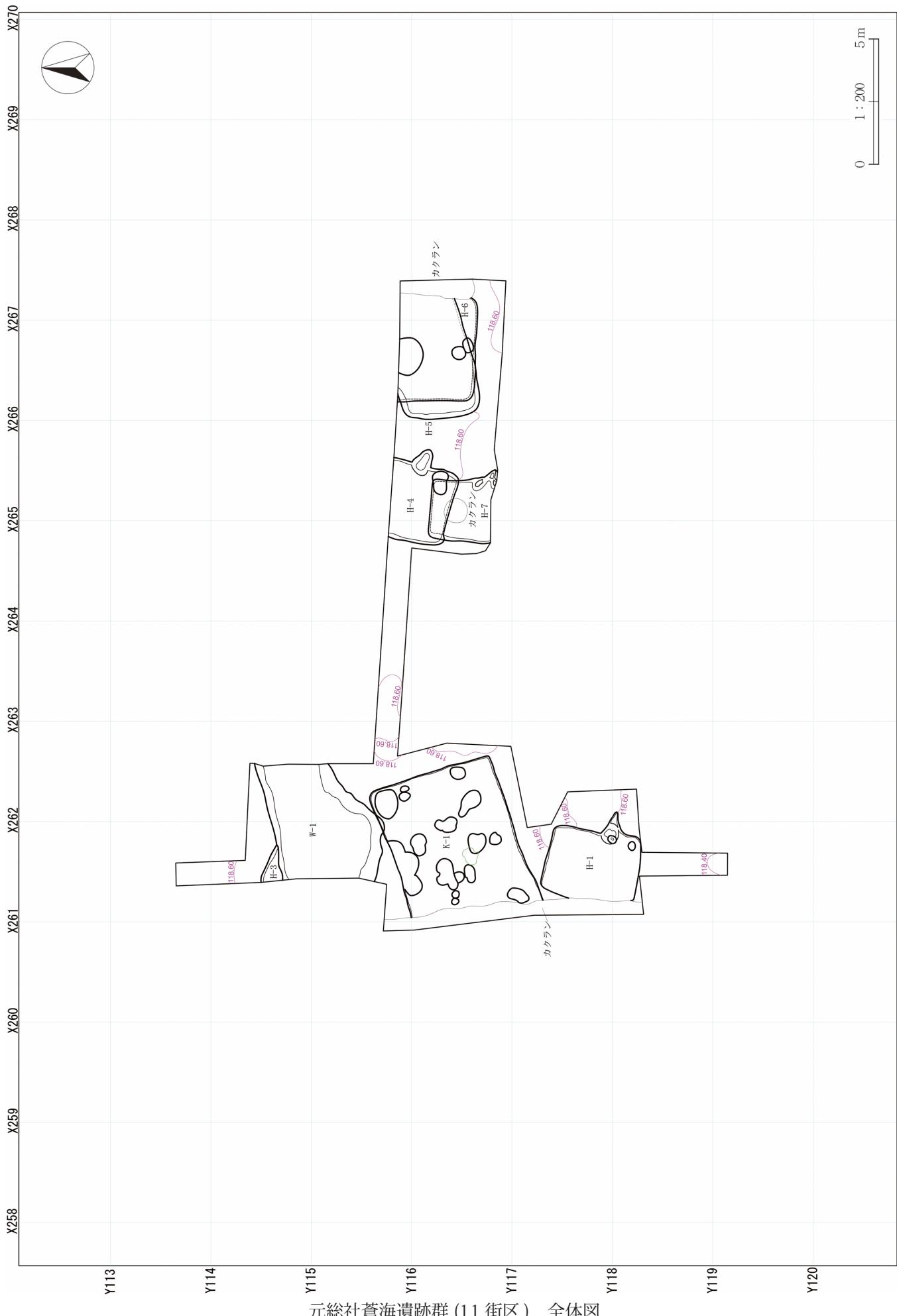
位置：X261・262、Y115～117 グリッド **形状・規**

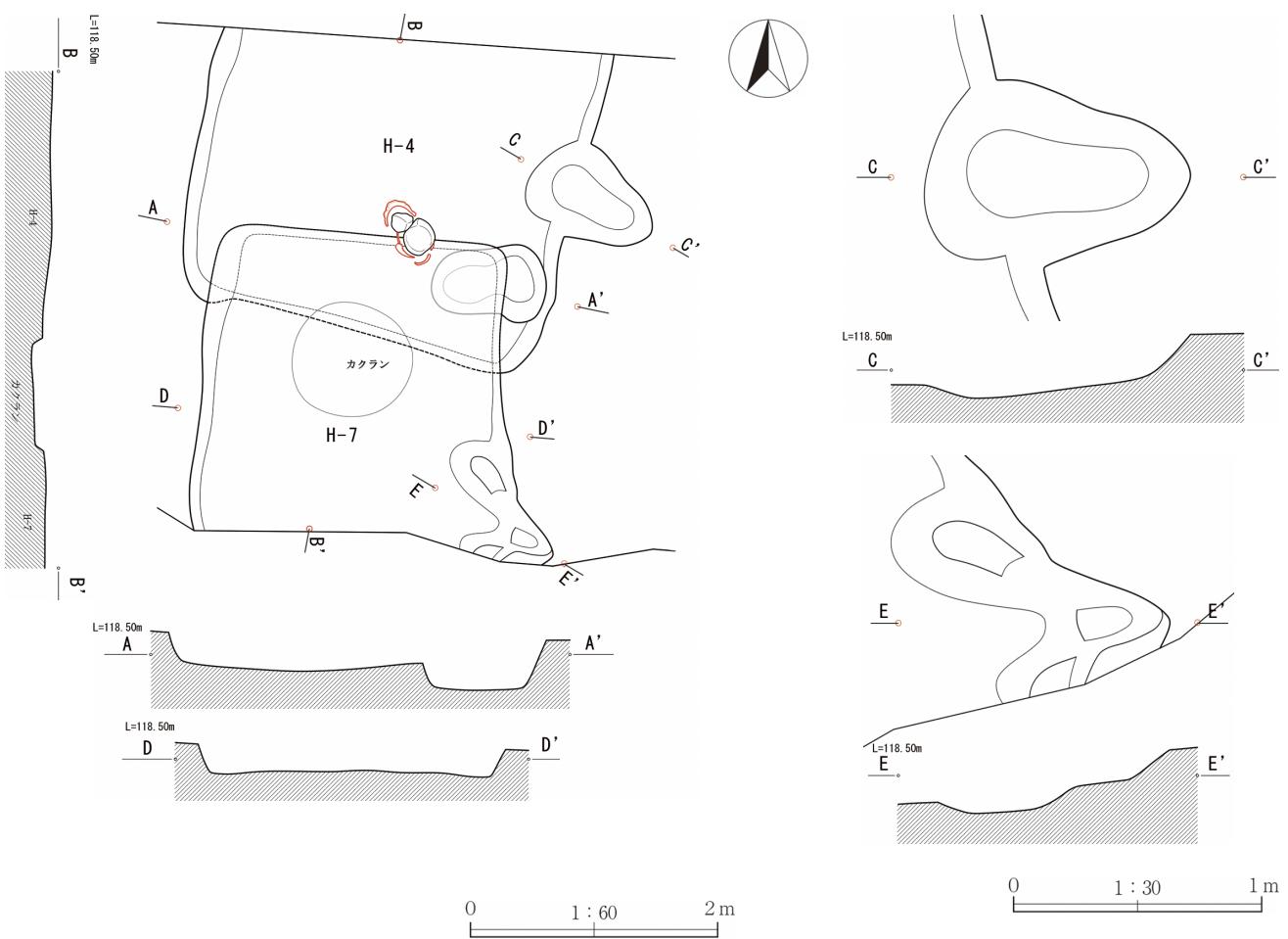
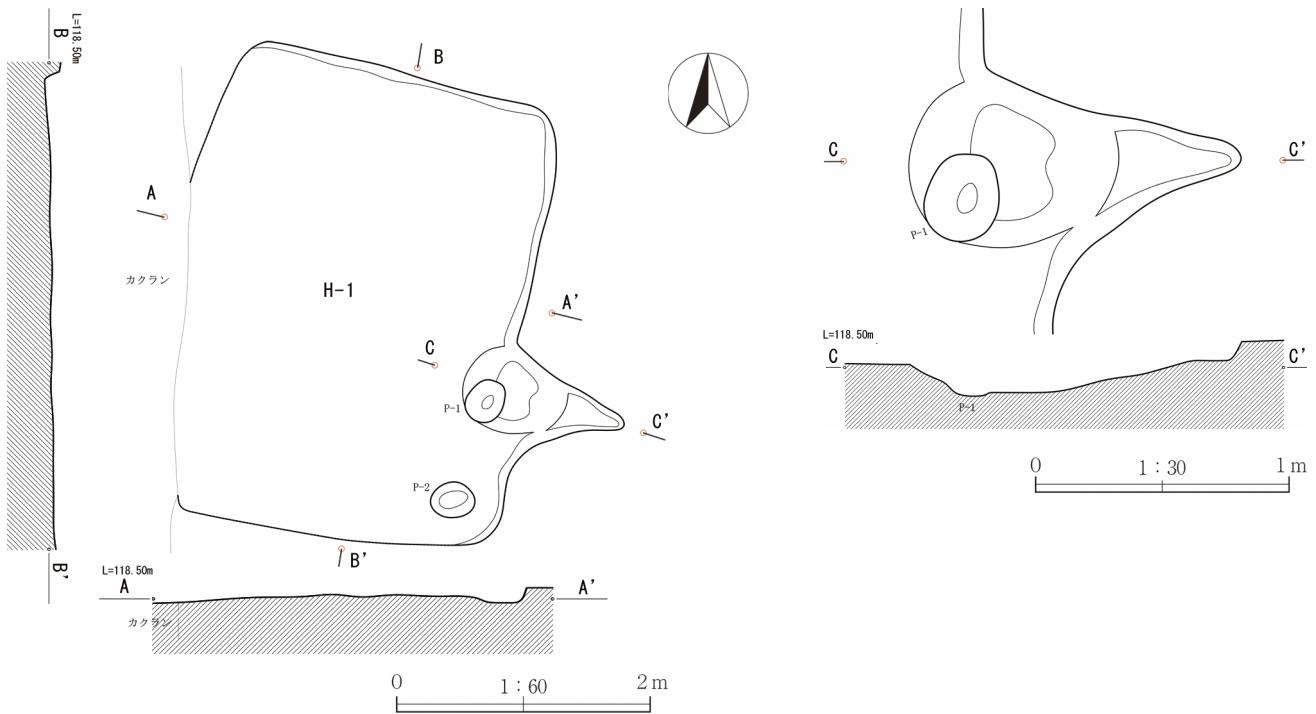
模等：西側は調査区外となるが、東西に長い長方形を呈すると思われる。東西(6.2)m、南北 5.1m、壁現高 12cm **床面**：地山黒色土を用いた貼床。中央やや南寄りの P13 と P16 の間に硬化面が確認された **竈**：検出されなかった。**炉跡**：21 基確認された。P20・21 の柱穴中に金床石が検出された。
貯蔵穴等：検出されなかった。**周溝**：なし **重複**：1号周溝墓と重複し、本遺構が新しい **時期**：覆土の状況から 10 世紀と考えられる

1号溝跡

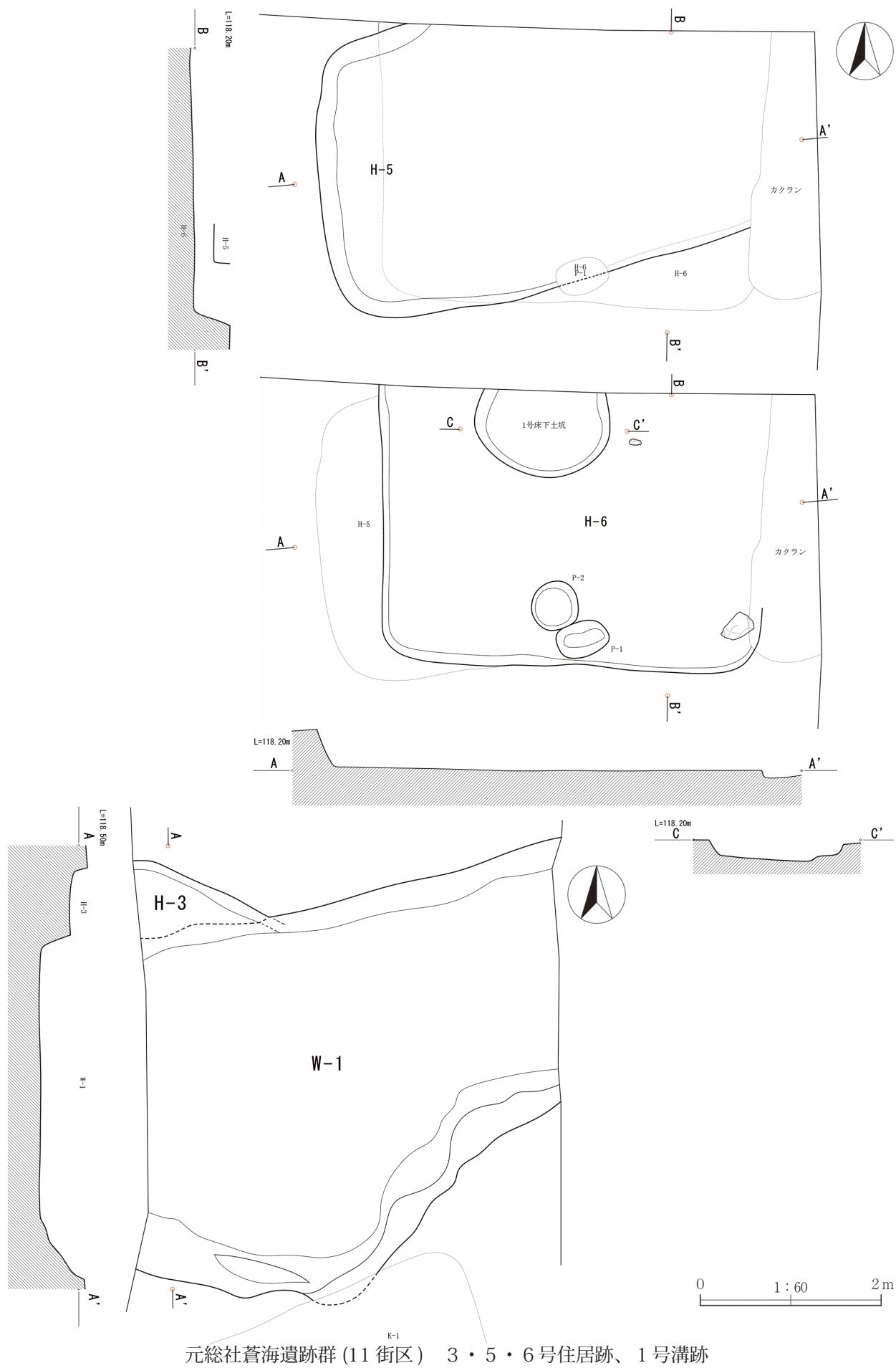
位置：X261・262、Y114・115 グリッド **形状・規**
模等：南壁は X262 グリッド付近で膨らみを帯びる。長さ(5.0)m、最大上幅(4.2)m、深さ 0.5m を測り、断面形状は逆台形を呈する。
重複：3号住居跡、1号鍛冶工房跡と重複し、本遺構が最も古い **時期**：覆土は上部に Hr-FA と共に伴う泥流が、下部には As-C を含む黒色土が堆積する。覆土の状況から 4 世紀頃と推定され、6 世紀初頭には上部まで埋没していた。形状および覆土の堆積から周溝墓である可能性が考えられる。







元総社蒼海遺跡群(11街区) 1・4・7号住居跡





元総社蒼海遺跡群(11街区) 1号工房跡

⑪西部第一落合遺跡群(1)

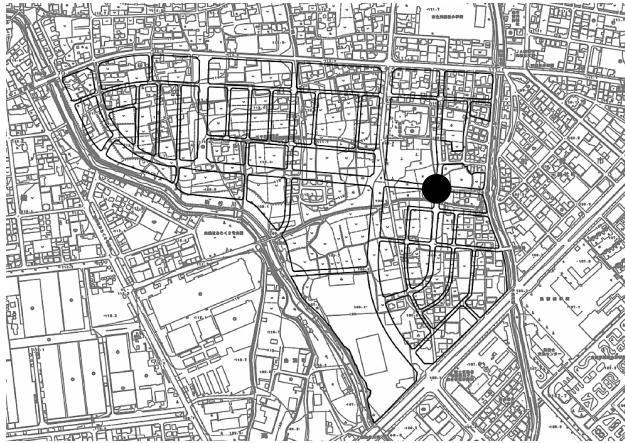
調査地 前橋市元総社町 750-1 ほか

調査期間 2019. 12. 18～2020. 3. 24

調査面積 2,524 m²

調査原因 土地区画整理事業

調査担当 佐野良平（技研コンサル株式会社）



調査区位置図

調査の概要

前橋都市計画事業西部第一落合土地区画整理事業に係る道路工事にあたり、試掘調査を実施した結果、竪穴住居跡等を確認した。工事計画から遺構の現状保存は困難であると判断し、記録保存のための発掘調査実施について前橋市（区画整理課）と協議を行った。協議の結果、市教育委員会では既に直営の発掘調査を実施中であるため、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意した。

令和元年 12 月 6 日付で前橋市と技研コンサル株式会社との間で発掘調査業務委託契約を締結し、12 月 18 日より発掘調査を開始した。なお、現場調査までの委託とし、整理作業については翌年度以降行うこととした。

調査地は、主要地方道前橋・安中・富岡線の南側で牛池川の西側に位置し、上野国府推定域に近接する。北側は前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴って多数の発掘調査実績があり、縄文から近代まで濃密な遺跡地であることが知られている。



調査区全景（上が北）

調査の結果、竪穴住居跡 36、溝・堀跡 18 条、井戸 12 基、畠跡 1 面、土坑 40 基、ピット 52 基、性格不明遺構 2 基が検出された。

調査区は、中央に用水路が東西に流れており、この北側と南側で遺跡の様相は大きく異なっていた。

用水路の北側で検出された東西に走行する 1 号溝跡は、断面逆台形で上幅約 18m を測る大型の溝である。覆土の状況から古代には既に存在し、10 世紀頃までは底面付近まで流水し、As-B 降下時までに中位程度まで埋没し、中世には蒼海城南端部の外堀として利用され、近世以降に人為的に埋め戻されたと想定される。また、東側部分には、Hr-FA 泥流を掘り込んだ畠跡が確認されている。

用水路の南側は、調査区内で検出されたすべての竪穴住居跡が集中し、9 世紀から 11 世紀にかけての集落域であったことがわかった。

⑫前橋城（市役所西地点）

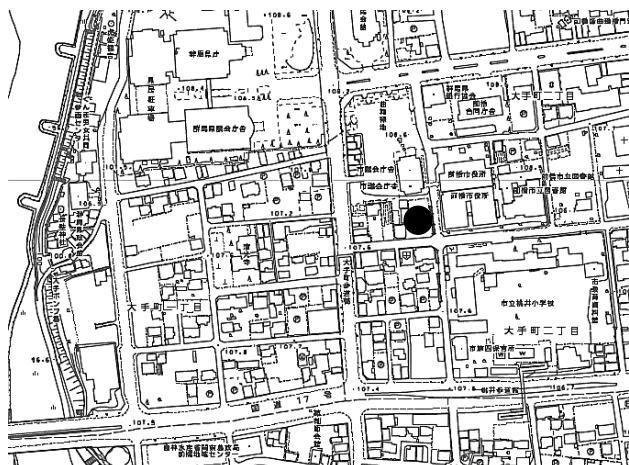
調査地 前橋市大手町二丁目 33 番地 1 ほか

調査期間 2019. 11. 5～11. 26

調査面積 668. 57 m²

調査原因 新議会棟建築

調査担当 佐野良平（技研コンサル株式会社）



調査区位置図

調査の概要

新議会棟建築工事にあたり試掘調査を実施した結果、中近世の溝跡、柱穴等を確認した。工事計画から遺構の現状保存は困難であると判断し、記録保存のための発掘調査実施について前橋市（資産経営課）と協議を行った。協議の結果、市教育委員会では既に直営の発掘調査を実施中であるため、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意した。

令和元年 10 月 21 日付で前橋市と技研コンサル株式会社との間で発掘調査業務委託契約を締結し、11 月 5 日より発掘調査を開始した。

調査地は、前橋市役本庁舎の西側に位置し、既存議会棟南側の新議会棟建築予定地となる。調査範囲は開発により遺跡が壊されることが想定される建物建築部分とした。当該地は市役所駐車場として使用する以前に民家等があったことに加え、市役所車庫跡などの関係で、攪乱の範囲が広かつた。

調査の結果、8世紀末から9世紀初頭と想定される堅穴住居跡 1 軒、堅穴状遺構 1 軒、堀・溝跡



調査区全景（上が北）

16 条、井戸跡 14 基、土坑 6 基、ピット 84 基が確認された。

調査区南端を東西に走行する 15 号溝跡は、再築後の前橋城を描いた絵図では、周辺に堀は描かれていないことから、再築以前に存在していた堀の可能性が高く、現存する最古の「前橋城絵図」（酒井 1－9）と照合すると、石川口の東側に位置する水曲輪の堀であると想定される。今回の調査では、北側の肩部のみの検出であるため規模は不明であるが、調査区南側の道路幅（約 14m）位までは拡がると想定される。また、この堀跡の北側は、前述の絵図では、「亀山辰ノ助」と読める屋敷地内と考えられ、検出された多数のピットの中には、礎石を据えているピットも数基確認されおり、複数の建物があったものと考えられる。



15 号溝跡全景（西から）

⑬天神風呂N地点遺跡

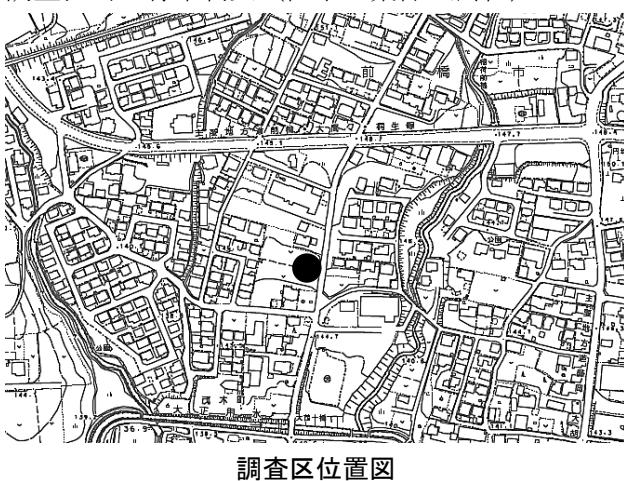
調査地 前橋市茂木町 242-1 ほか

調査期間 2019. 9. 20～10. 10

調査面積 93 m²

調査原因 市道 00-360 号線（大胡 110 号線）道路
築造

調査担当 青木利文（山下工業株式会社）



調査の概要

市道 00 - 360 号線（大胡 110 号線）道路築造にあたり試掘調査を実施した結果、竪穴住居跡等を確認した。工事計画から遺構の現状保存は困難であると判断し、記録保存のための発掘調査実施について前橋市（東部建設事務所）と協議を行った。協議の結果、市教育委員会では既に直営の発掘調査を実施中であるため、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意した。

令和元年 9 月 17 日付で前橋市と山下工業株式会社との間で発掘調査業務委託契約を締結し、9 月 20 日より発掘調査を開始した。

調査地は、主要地方道前橋・大間々・桐生線の南側に位置し、同線は天神風呂遺跡として縄文時代、古墳時代の集落が確認されているほか、周辺台地全面に遺跡が広がっている。

調査の結果、奈良時代を中心に 7 世紀後半から 10 世紀の竪穴住居跡 6 軒、溝跡 1 条、土坑 14 基、ピット 1 基が確認された。

東西幅の狭い調査区であったため、確認された



調査区全景（南から）

竪穴住居跡はいずれも調査区外へ広がり、完全な状態では確認できなかつたが、このうち 3 号・6 号竪穴住居跡は、共に 8 世紀代で、6 m 以上の大型のものとなる。周辺台地上の天神風呂遺跡群では、縄文時代を除けば 5 m 以上のものは大型建物となり、8～9 世紀にかけての大型建物は、本調査区と道を挟んだ東側の天神風呂 H 地点遺跡、同 I 地点遺跡に限られ、南東部に集中している。本調査区で確認された 3 号・6 号竪穴住居跡は、南東部に分布する大型竪穴住居群の一角であったとみられ、本調査地とその周辺が 8～9 世紀頃の集落の主要な位置であったと考えられる。

また、縄文時代の遺構は土坑 3 基のみであったが、前期の土器が出土している。周辺の天神風呂遺跡群では、竪穴住居跡も確認されていることから、縄文時代前期の集落に該当するものとみられる。

⑭西大室上縄引Ⅱ遺跡

調査地 前橋市西大室町 2241 番 1

調査期間 2019. 10. 15～11. 2

調査面積 300 m²

調査原因 変電所建設

調査担当 青木利文（山下工業株式会社）



調査区位置図

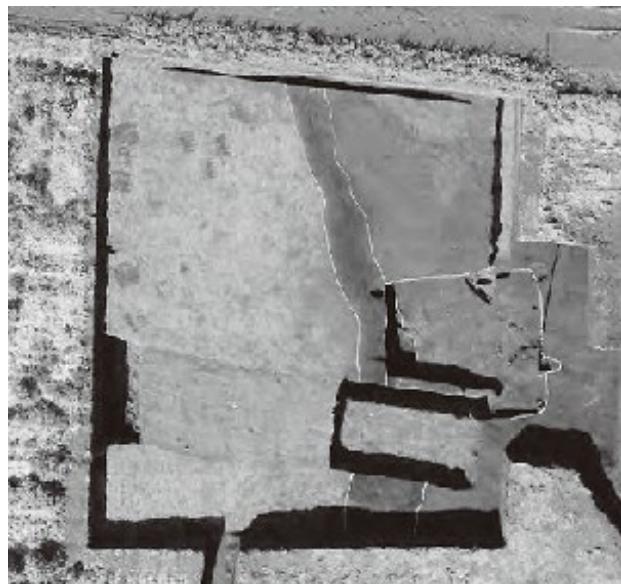
調査の概要

変電所建設工事にあたり、試掘調査を実施した結果、堅穴住居跡等を確認した。工事計画から遺構の現状保存は困難であると判断し、記録保存のための発掘調査実施について開発者と協議を行った。協議の結果、市教育委員会では既に直営の発掘調査を実施中であるため、開発者が民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意した。

令和元年9月24日付で開発者と山下工業株式会社との間で発掘調査業務委託契約が締結され、10月15日より発掘調査を開始した。

調査地は、大室公園北側の県道深津・伊勢崎線沿いに位置し、大室公園内には大室古墳群を中心とした内堀遺跡群が存在する。また、調査地西側の上縄引遺跡では古墳時代前期の大規模な周溝墓群、東側の下縄引遺跡では同時期の集落が確認されている。なお、今回の調査範囲は、試掘調査で遺構が検出された箇所のうち開発により遺跡が壊されることが想定される新設鉄塔建設部分とした。

調査の結果、堅穴住居跡1軒、地割れ痕跡、近



調査区全景（上が北）

現代の溝跡1条・土坑6基が確認された。

地割れは南北に走行し、6世紀後半～7世紀初頭の堅穴住居跡の床面および覆土が破壊されていることから、堅穴住居跡埋没後に発生したことがわかる。このような地割れは南東にある下縄引Ⅱ遺跡でも確認されており、弘仁9(818)年に発生した地震の影響と考えられる。これらの地割れの特徴としては、丘陵地の裾付近にあり、等高線に沿って発生している点が挙げられる。

本遺跡を含む上縄引遺跡群は古墳時代前期の周溝墓や6～7世紀の古墳などからなる墓域と想定される地帯であり、堅穴住居跡は本遺跡を含めわずか2軒である。一方、南東に位置する下縄引Ⅱ遺跡では、4世紀中ごろから6世紀後半代を中心とした145軒の堅穴住居跡が確認されている。

集落の分布は、4世紀代の集落は標高の高い丘陵部にあるが、5～6世紀代になると現在の五料沼周辺の低地部に移っている。本遺跡で確認された堅穴住居跡は、同時代の集落と離れた場所にある。また、墓域となる上縄引遺跡群の丘陵地にある点では、集落の堅穴住居跡は一線を画す特殊な目的を持ったものと考えられる。

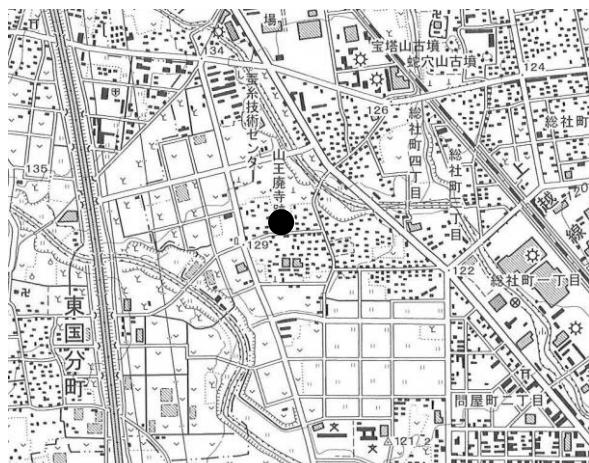
⑯令和元年度山王廃寺範囲内容確認調査

調査地 前橋市総社町総社 2408 ほか

調査期間 2020. 3. 23～2020. 3. 25

調査面積 4 m²

調査担当 阿久澤智和、齋藤颯、村越純子



遺跡位置図

(1) 調査の経緯

山王廃寺跡は、昭和の調査、下水道埋設とともに調査を経て平成 18 年度から前橋市教育委員会により範囲内容確認調査を実施している。その塔跡には日枝神社が鎮座し境内には根巻石等が保管されているが、日枝神社社殿の老朽化による改築にともない、社殿建築予定地の調査を行った。

(2) 調査成果



調査トレンチ全景（北から）

日枝神社拝殿の範囲内において、南北方向に長さ 4 m、幅 1 m の規模でトレンチを設定し調査を行った。調査は表土層の掘削にとどめ、塔基壇の掘り下げは行わなかった。

表土掘削を行ったところ、濃密な瓦片の分布が検出された。瓦片の分布が検出された位置や、検出状態から、これは塔基壇外装の瓦積みの一部と考えられ、この瓦片の分布から南が塔基壇の範囲と考えられる。この基壇外装よりも北では、基壇外装の瓦積みが検出された高さよりも低い位置で瓦片と小円礫が検出され、その下位では粘質土の分布が認められた。この小円礫および粘質土の分布は、過去の調査で検出されている塔基壇外周部に分布する塔修造時の整地面と考えられる。



基壇外装の瓦積検出状態（南西から）

この基壇外装の瓦積の南で後世の掘り込みが確認されたが、その掘り込み内で大きさが 1 m 程度の石が検出された。この石は平らな面を横に向いた状態で検出された。この石は、その大きさや形状から礎石と推定され、検出状態から、旧社殿が建てられる前の段階で、穴を掘ってその中に石を転落させて埋めたものと推定された。なお、この石が検出された掘り込み内で塔基壇の版築が確認された。



礎石と推定される石検出状態（東から）

⑯小島田八日市古墳

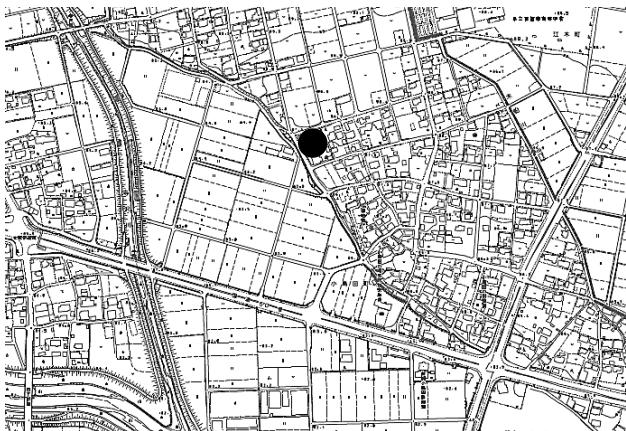
調査地 前橋市小島田町 649-1 ほか

調査期間 2019.5.8～2019.6.1

調査面積 165 m²

調査原因 個人住宅

調査担当 前原豊・小島純一・並木史一



調査区位置図

(1) 調査の経緯

平成30年5月30日付で自宅敷地内である本調査地に個人が自己の用に供する建物を建築する旨の文化財保護法第93条第1項の届出が前橋市教育委員会に提出された。当該地には丘状小山が存在するため、試掘確認調査依頼を受けて、平成30年6月25日に確認調査を実施し、古墳と判断したため、平成30年7月3日に保護措置を求める回答を行った。工事計画から遺構の現状保存は困難であると判断したため、記録保存を目的とした発掘調査実施に向けて協議を進めた。

平成31年4月15日付け発掘調査依頼を受けて、市教委直営による発掘調査に着手した。

(2) 調査結果

調査地は、前橋市街地から国道50号線で東に約6kmの地点に位置し、赤城山麓南端で、これより北側は赤城南麓の北から南に下る緩やかな斜面である。南側は、広瀬川低地帯となるため、高低差がある。この低地部を挟んだ約3km南は、前橋台地であり、台地上には前期古墳を含む150基以上が存在した古墳群がある。

調査の結果、古墳1基が確認された。

1号古墳

墳形・規模: 不明。 **墳丘:** 墳丘は3世紀末降下のAs-Cの上に構築されている。純層の上に4cm程度の黒色土の間層を挟むことから、As-C降下後、一定年数を経過している。墳丘の構築は、墳丘外周部から土手状盛土を行っており、西日本における前期古墳構築技法を採用している。調査した範囲で、土手状盛土は大きく8つの単位で構成されていた。東西方向では1工程から7工程まで残存していた。1はローム層が主体をなす。2は水性堆積ローム層、3はローム土と黒色土の互層、4以降はローム土及び水性堆積土と黒色土の互層による版築で形成されていた。今回の土手状盛土は、東西は西→東、南北は北→南と一方向で、これに対する東→西、南→北が検出されなかったことから、調査した墳丘は北西の一部分であると考えられる。

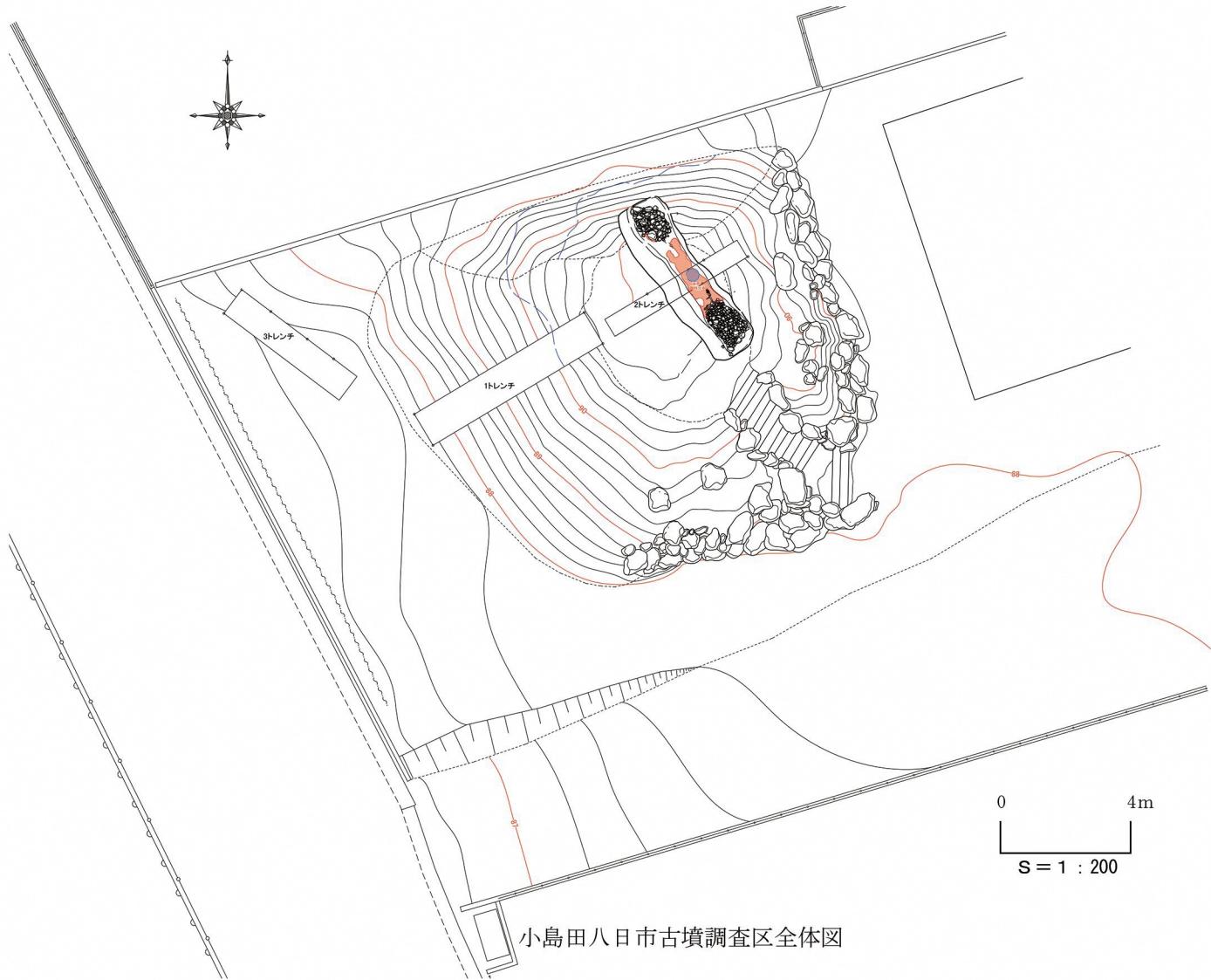
主体部: 現存した墳丘の墳頂部に堅穴式の埋葬施設1基を確認した。墳丘面を後から掘り込んで造られており、構築後に追葬のために掘り込まれた主体部であると考えられる。土手状盛土の堆積から、墳丘北西部に位置したと推定される。埋葬施設は墓壙を掘り込み、木棺を直葬したと想定する。棺設置のための墓壙は、主軸方位が30°西へ傾き、墓壙短辺小口（頭部と足部側）に礫積みがなされていた。断面形状は非常に扁平なU字形である。棺床には赤色顔料が塗布されていた。礫積みの間の長さは2.4mを測るが、副葬品の出土が礫の下に一部入り込んでいたことから、棺全長は、これより長いものと考えられる。棺幅は0.9mを測り、墓壙幅は1.5mを測る。

出土遺物: 追葬主体部から重圓文鏡、ガラス小玉、鉄器が出土した。重圓文鏡は鏡背面を上にして1面が出土した。面径6.8cm、鏡面の厚さ1mm弱の青銅製で、鏡背文様は直行櫛歯文帶および三重円圏文で構成される。色調が淡青色透明のガラス小玉は、完形11点が出土した。鉄器は、剣1点、槍1点、槍鉤1点と推定される。

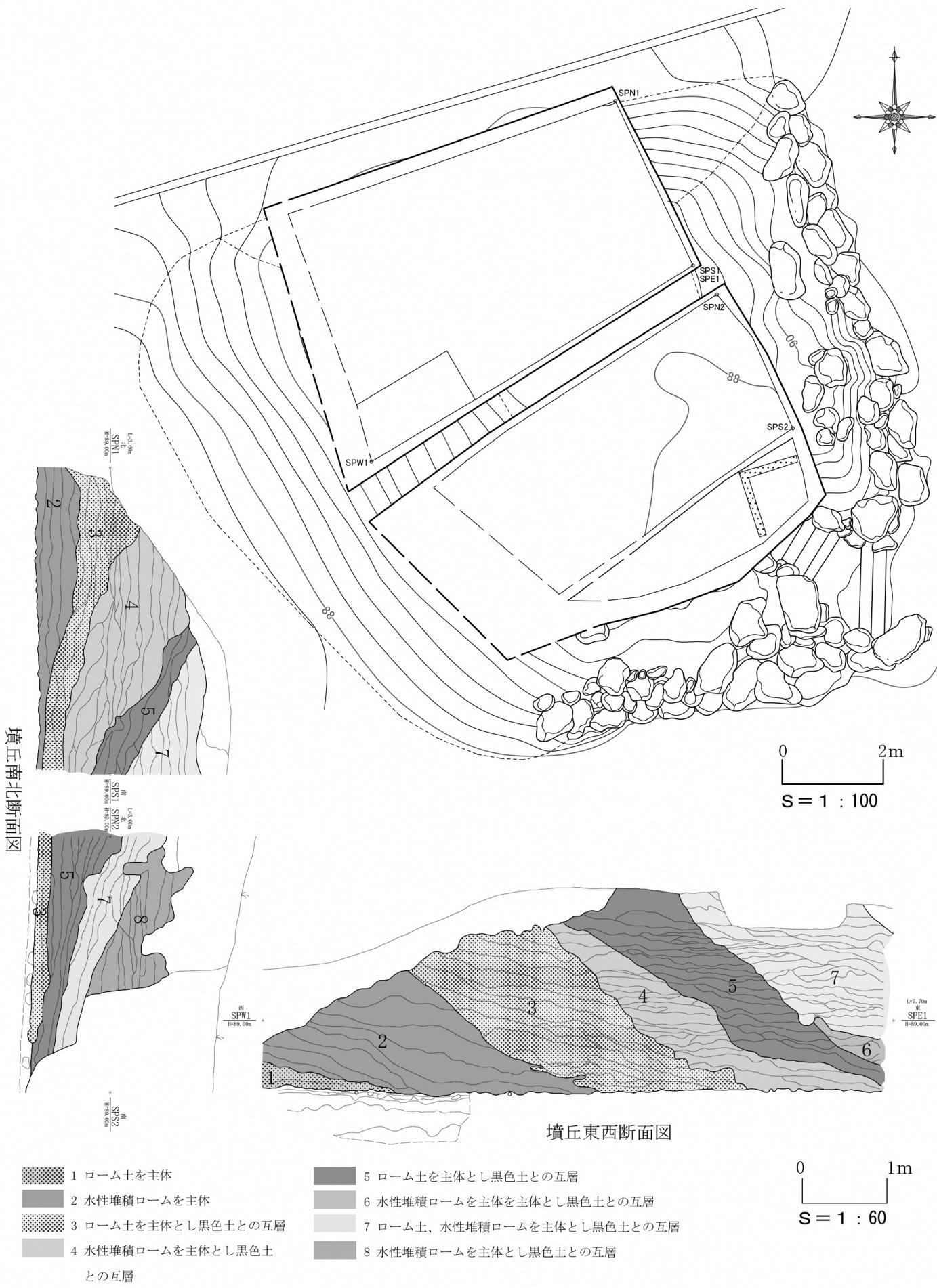
時期: 4世紀前半と推定される。

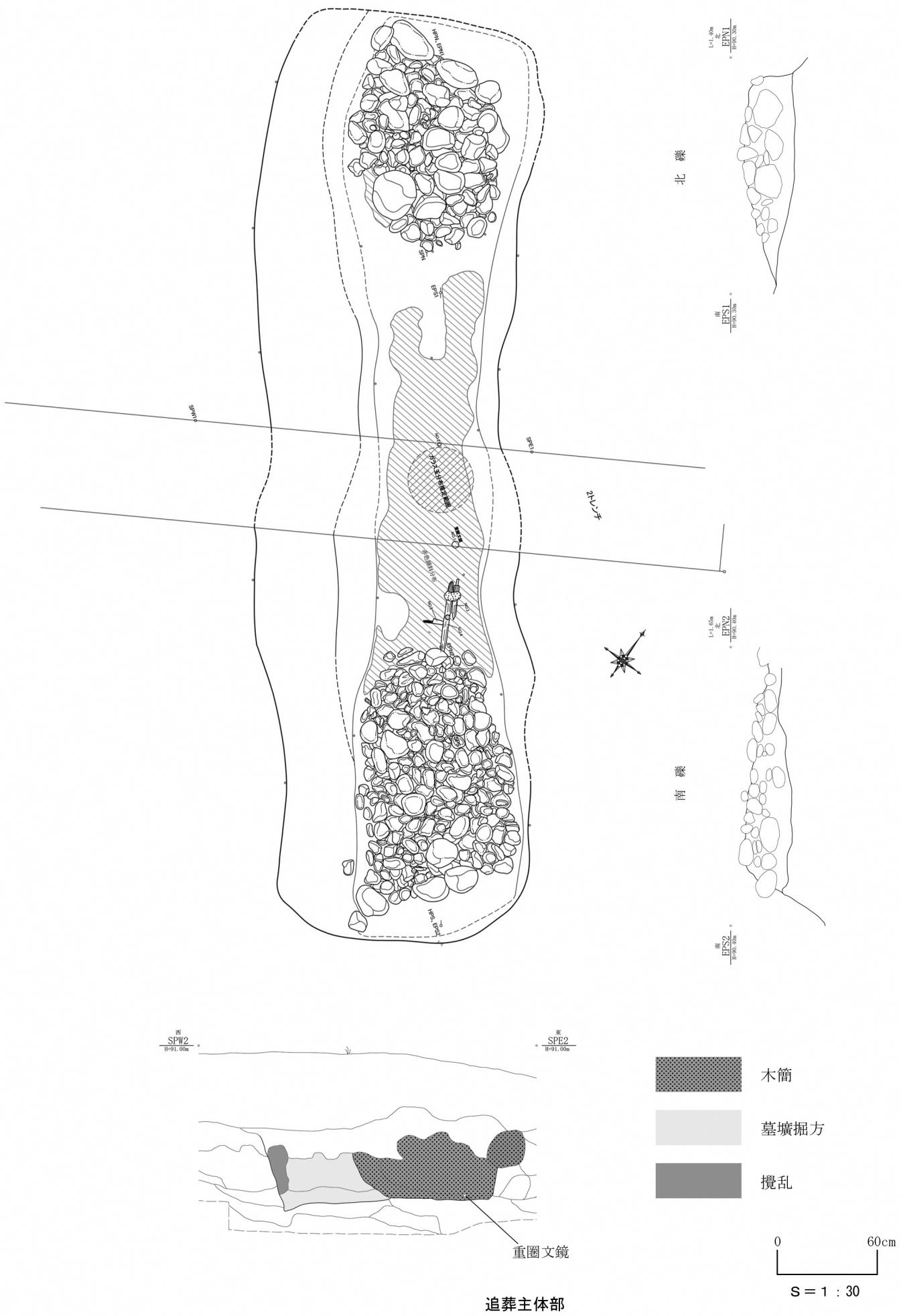


小島田八日市古墳調査区位置図



小島田八日市古墳調査区全体図





2 市内遺跡発掘調査事業

(1)事業の目的

試掘・確認調査の実施は、主に周知の埋蔵文化財包蔵地内外における比較的規模の大きな土木工事について、その施工により遺跡が破壊されることを未然に防ぐため、地理的状況や周辺での調査実績などを考慮し、遺構の有無、包蔵地内に至っては遺跡の範囲や残存状況などを確認することを目的とする。

試掘・確認調査の実施にあたっては開発者との協議を前提とし、その趣旨について理解と協力のもとに成り立っている。調査の結果、遺構や遺物等を確認した場合は、群馬県埋蔵文化財発掘調査取扱い基準に基づき、開発者と埋蔵文化財の取扱いについて協議を行う。試掘・確認調査は、埋蔵文化財の現状保存または記録保存（発掘調査）のための基礎調査の面も併せ持つと考えられる。

(2)試掘・確認調査の方法

①遺構確認のための掘削作業

工事予定地にトレンチを設定し、重機による掘削の後、人手による精査を行う。トレンチ内で埋蔵文化財の有無、また、その範囲や密度、検出深度など、埋蔵文化財の内容確認を行う。試掘・確認調査面積は、開発対象面積の1割程度を基準とする。

②記録作成

掘削したトレンチ位置や検出遺構の分布状況を記したトレンチ配置図を作成する。また、調査地の基本的な土層状況を確認するため、トレンチ内的一部について深掘りし土層断面図を作成する。図面記録の他に、35mmカラーリバーサルフィルム及びデジタルカメラを使用して写真撮影を行い、写真記録を作成する。

(3)調査結果

本年度は、別表の「(5)令和元年度試掘・確認調査一覧表」のとおり、試掘・確認調査を42件実施した。このうち、29件で埋蔵文化財を検出した。

①検出した遺構の主な時代

縄文時代、古墳時代、奈良時代、平安時代、中・近世

②検出した遺構の主な種類

古墳、住居跡、水田跡、溝跡、堀跡等

③発掘調査を実施した遺跡

ア 天神風呂N地点遺跡

（前橋市0191遺跡）

奈良・平安時代の竪穴住居跡等

イ 西部第一落合遺跡群（1）

（前橋市0134遺跡）

奈良・平安時代の竪穴住居跡等

3 遺跡台帳整備事業

(1)前橋市遺跡地図の更新

遺跡地図作成事業は平成15年度から開始し、平成24年度に「前橋市遺跡分布地図」を刊行した。

平成25年度以降は、開発等に伴う発掘調査で増加した遺跡の分布地図の更新について検討しており、継続して更新作業の実施を予定している。

(2)遺跡G I Sの更新

平成20年度から開始した遺跡GIS事業は平成29年度までの遺跡分布範囲のデータ化を終了した。次年度以降も開発に伴う発掘調査の成果を遺跡GISへ随時更新を行い、情報を追加していく。また、重要文化財情報もGISに搭載し、内容の充実を図っていく。

4 埋蔵文化財資料整備事業

(1)普及パンフレットの作成

「い・せ・き ワールド in 前橋 2020」

令和元年度に前橋市内で実施した埋蔵文化財発掘調査の成果を広めるため、「い・せ・き ワールド in 前橋 2020」（A3版の両面カラー印刷）を作成した。

作成部数は7,000部で、両面とも写真を多く取り入れ、調査内容を分かりやすくまとめた。

令和2年度当初に市内小・中学校並びに市立図書館、教育関係者等に配布し、埋蔵文化財に関する啓発活動の資料として普及に役立てる。



(2)出土資料の活用（貸出展示）

常設展示

①群馬県立歴史博物館

市之関前田遺跡・柏倉芳見沢遺跡出土石器

苗ヶ島大畠遺跡・前橋天神山古墳出土土器

元総社蒼海遺跡群出土青白磁梅瓶 50点

②岩宿博物館（みどり市）

上ノ山遺跡・市之関前田遺跡出土石器 2点

企画展示等

①文化庁「発掘された日本列島 2019」

大室古墳群（内堀4号墳）出土馬形埴輪 1点

②群馬県立歴史博物館「ハート形土偶大集合!!」

元総社蒼海遺跡群出土土偶 1点

③群馬県立歴史博物館「集まれ! ぐんまのはにわたち」

白藤古墳群出土馬形埴輪、後二子古墳出土小像付円筒埴輪、前二子古墳出土石見型埴輪、王山古墳出土大刀形埴輪・盾形埴輪、中二子古墳出土線刻人面付円筒埴輪 7点

④高崎市観音塚考古資料館「群馬に古墳が造られ始めたころ」

前橋天神山古墳出土三角縁五神四獸鏡・三角縁四神四獸鏡・二禽二獸鏡・半円方格帶画像鏡・変形獸形鏡・紡錘車・鉄製刀子・鉄製鉈・鉄製鑿・鉄製斧・鉄製釣針・銅鏡・鉄鏡・鉄劍・大刀・素環頭大刀（全て複製品）・土師器（二重口縁壺）38点

⑤福島県立博物館「あにまるずANIMAL×Zoo」

後二子古墳出土小像付円筒埴輪、前二子古墳出土装飾付須恵器器台 2点

⑥多胡碑記念館「多胡碑の記憶」

白山古墳出土鐵鏃・和銅開珎・小刀・鉄碗（全て複製品） 21点

⑦かみつけの里博物館「飾り大刀—武器からみた古墳時代のぐんまー」

大胡39号墳出土獅噛環頭大刀柄頭、初室古墳出土頭椎大刀柄頭、白山古墳出土方頭大刀（複製品）、総社二子古墳出土頭椎大刀（復元品） 4点

⑧岩宿博物館「岩宿遺跡と群馬の考古学」

前二子古墳出土台付壺・装飾器台・高坏形器台・提瓶 4点

（3）貸出用資料の整備（写真・遺物・図面）

博物館からの遺物借用依頼のほか、出版社等からの遺跡や遺物の写真提供依頼や、研究者による遺物見学依頼が増加しており、遺物・写真などの資料を管理するため、鳥羽収蔵庫に収納されている遺物の整理およびデータベース作成を行った。

（4）展示成果

①総社歴史資料館

総社歴史資料館では、総社・元総社地区で出土した遺物を展示している。代表的なものは、山王廃寺出土の「放光寺」と記された瓦および塑像群、王山古墳出土の大刀形埴輪、元総社地区の推定上野国府出土の墨書土器、元総社蒼海遺跡群出土の奈良三彩などである。



②元総社公民館

元総社地区の土地区画整理に伴う発掘調査の成果である壺や高盤などの出土遺物、上野国府に関する人形や墨書き器などの複製品、写真などの展示を行っている。



③芳賀公民館

芳賀地区は縄文時代の遺跡が多数調査されている。芳賀地区から出土した縄文土器、縄文土器の変遷などの開設パネル、発掘調査写真などの展示を行っている。

④サンデンファシリティ

見学者体験教室「森の教室」に発掘調査状況や住居、墓などから遺物が見つかった様子などを撮った写真パネルを展示している。

⑤けやきウォーク前橋

文京町No.1 遺跡の解説パネルのほか、「い・せ・きワールド in 前橋 2019」、「新出土文化財展 2018」解説パネルの一部を掲示し、二之宮八王子古墳出土小刀・金銅製耳環、西大室七ツ石遺跡出土須恵器甕、大室古墳の教室製作の土偶などを展示している。



(5) 新出土文化財展 2019

①事業の目的

文化財保護課では、毎年市内各所において埋蔵文化財発掘調査を実施しており、数多くの遺物や新たな知見を得ている。そこで、平成30年度の発掘調査で出土した遺物等の発掘調査成果を速報的に展示し、広く市民に公開ことにより、市民に文化財に対する興味・関心・理解を深めてもらい、郷土を愛する心を育てることを目的とする。

②事業に至る経緯

平成27・28年度に鳥羽収蔵庫において元総社地区の発掘調査成果を中心とした展示を行なったが、開催日が1日のみであったことから、複数日の開催が可能であり常設展も見学可能な総社歴史資料館(平成29.30年度)に会場を移し開催した。令和元年度は、さらなる集客の見込める「国指定重要文化財臨江閣」に会場を移し実施した。

③開催概要

会期：11月6日から11月21日 14日間

来場者数：2,246人

④展示資料

上野国府跡、元総社蒼海遺跡群、遠見山古墳、上細井中西部遺跡群、南橋東原遺跡ほか

上野国府跡、元総社蒼海遺跡群出土の平安時代の白・黒色土器や綠釉陶器、遠見山古墳の墳丘から出土した埴輪、上細井中西部遺跡群出土の縄文・弥生土器、須恵器の高盤・瓦塔・円面硯、石製品の巡方・丸勘等の特殊な遺物など官衙や寺院との関連を想定させる遺物など総数160点の出土遺物と調査概要を解説したパネルを展示。

⑤来場者の意見等

来場者の方から、「毎年この新出土文化財展を楽しみにしている」という感想をいただいた。また、熱心に1時間以上見学をされている方もいた。



上野国府跡・元総社蒼海遺跡群展示品



来場者の様子



上細井中西部遺跡群展示品



総社古墳群 遠見山古墳展示品

(6) 現地説明会

①元総社蒼海土地区画整理事業に伴う発掘調査

元総社蒼海遺跡群（133）

～基礎をもつ建物跡の調査～

場 所 前橋市元総社町

対象者 地元住民

実施日 令和元年9月7日

内 容 古墳時代の住居跡、奈良時代の基礎
(掘込地業)をもつ建物跡とその下層
の区画溝、掘込地業よりも新しい住居
跡、

中世のピット群(建物の柱穴)



元総社蒼海遺跡群(133)現地説明会風景

②上細井中西部遺跡群No.2

場 所 前橋市上細井町

対象者 地元住民

実施日 令和元年12月15日

内 容 縄文～奈良・平安時代の住居跡
9世紀代の大型住居跡(長軸8～10m)
製鉄関連遺構、鍛冶遺構、
多彩な墨書き土器や青銅製品(丸瓶、鉈
尾)等の展示



上細井中西部遺跡群No.2現地説明会風景

(7) 西大室七ツ石遺跡出土金属製品保存処理

平成29年度に実施した小糸荷遺跡群西大室七ツ石遺跡発掘調査で出土した直刀、刀装具、鉄鏃など31点について、長期間の保管を可能とするため、化学的な方法を用いた保存処理を行った。処理を行った金属製品のうち、锷と柄口金具には象嵌があることが判明した。本業務は(公財)山梨文化財研究所に委託し、令和元年6月3日から令和2年2月27日の間に行われた。



5 文化財資料管理

(1) 寄贈図書用務・報告書一斉送付

令和元年度は、他教育委員会、他自治体、各埋蔵文化財調査団体及び個人等から寄贈図書があった。

この寄贈に対する返礼の意味も含め、情報交換及び前橋市の文化財保護行政の周知のため、『推定上野国府～平成30年度調査報告』他14冊を290ヶ所に送付した

(2) 写真資料・図書資料等のデジタル化

劣化していく写真ネガをデジタル化保存し、資料の保存を図り、資料の活用の利便性を目的とする。

6 上野国府等保存整備事業

(1) 上野国府等調査委員会の実施概要

元総社町に存在したとされる上野国府の国庁や諸施設の概況を把握するための発掘調査を平成23年度から「上野国府等範囲内容確認調査事業」として実施している。本事業を推進するにあたり、上野国府等調査委員会において、上野国府とそれに密接な関係をもつ周辺遺跡の調査計画と整備内容の検討を十分に行ないながら事業を実施してきた。

本年度は第2期5か年計画の4年目にあたる。本年度の調査で掘込地業を持つ遺構が検出されたため、9月に第27回委員会を開催し、現地視察を行い専門的な意見をいたいた。2月には本年度の調査成果を再確認のうえ、来年度の調査計画について協議し調査箇所等について検討するため、第28回委員会を開催した。

(2) 第27回上野国府等調査委員会

開催日 令和元年9月5日（木）

開催場所 元総社公民館第2会議室及び発掘現場
《現地視察》

元総社蒼海遺跡群（133）の視察

《協議内容》

① 視察結果の検討

② 今後の上野国府の発掘調査について

《主な意見》

・元総社蒼海遺跡群（99）と元総社蒼海遺跡群（133）はポイントになる遺構である。元総社蒼海遺跡群（133）の中でもう一度、切り合い関係、層序関係をはっきりさせて記録してもらいたい。遺構時期の把握が微妙であるので、時期の幅を狭めるように精査をお願いしたい。

・元総社蒼海遺跡群（133）は元総社蒼海遺跡群（99）と方位が違うが規模が同じであるため、同じ性格の官衙に伴う倉と考えて良い。元総社蒼海遺跡群（133）の北側の溝とされているものの中に入った土は、溝に流れ込んだ土とは違う印象を受けるため、元総社蒼海遺跡群（99）の布地業と近似しているのか確認しながら、元総社蒼海遺跡群（133）も布地業が周っているのかどうか、オープンだったのか埋められていたのかといった性格付けだけはしなくてはならない。

もし布地業だった場合、建築上どのように考えるのか。筑波郡家の正倉の中に、母屋柱の外に柱がある例がある。それを外屋と考える人と目隠し塀的に考える人と解釈が分かれている。布地業の場合、上に礎石が載るわけだから外屋ではない、そうすると本体に伴う本格的な建築物の一部だと考えなけれ

ばならない。それが全面に周っていなくて、一部だとすると、元総社蒼海遺跡群（99）も再検討しなくてはならない。正方形の同じ規模の地業の建物があるわけだから、性格的には一連の遺構だろうと思われる。

- ・元総社蒼海遺跡群（133）の版築はあまり明瞭ではない。版築ではないと考えた方がいいのではないか。7世紀、8世紀の倉だとすると、もう少しきっちり造るが、時代が下り律令体制も衰退してくる時期に造られたことになると、かなり手抜きした状況が反映されている感じがする。その場合、時期が新しいという要素を別に探さなくてはならない。
- ・版築というと互層というイメージをもっているようだが、必ずしも粘質土と砂質土の互層にしていたわけではないと思う。実際に砂質土を固めようと思っても固まらない。恐らく同じような土を使っていて、互層というものは作業の工程が表されているに過ぎない。互層という捉え方ではなく、作業の過程と見て、どこに線が引けるのか確認したほうが良い。
- ・倉の周りを溝が囲む類例としては、雨落ち溝を入れる建築がある。
- ・3度くらい北から振れた形で遺構が2つの場所（元総社蒼海遺跡群（133）（99））から出ている。元総社小学校校庭の掘立柱建物も同じような角度である。全体像が掴めるように、遺構の方位、時期、性格をもう少し整理して考えてもらわないと、これから調査が進まないのではないか。

【群馬県文化財保護課の意見】

- ・大事な遺構が出てきているのは確かであるため、区画整理事業で難しいと思うが、今後の調査も含めて、この場所はという遺構があれば、少しでも現状保存するということを頭の片隅に置いていただきたい。



現地視察の様子

(3) 第28回上野国府等調査委員会

開催日 令和2年2月20日(木)

開催場所 文化財保護課2階会議室

《報告》

- ① 令和元年度元総社蒼海遺跡群発掘調査の成果について
- ② 令和元年度上野国府等範囲内容確認調査の成果について
- ③ 上野国府周辺遺跡のデータ整理について

《協議内容》

令和2年度上野国府等範囲内容確認調査事業計画について

《主な意見》

【宮鍋神社周辺で検出された建物群の性格について】

- ・区画溝の中に総地業と布地業の建物が収まっているとすると、佐位や新田郡家の例から言えば、正倉院にあたる可能性がある。
- ・上野国交替実録帳を見ると、府院の倉が南門の近くにいくつかのブロックに分けられ並んでいて、例えば東で言えば一から十二まであり、西にもある。穀・穀・糧等を納めていた相当な量の倉があったのは間違いない。現在確認されている地業建物はそれらの可能性がある。「庁裏」にもいくつか倉があり、「介館」の乾の方向にも不動底敷稻を納めた倉があると書かれている。大規模な正倉が国府の中にあったことは間違ないので、そのことも想定しながら、溝の関係、区画の中に総柱建物、側柱建物等どういった建物が出てくるのか、場合によっては、南門が想定できる場所がないか、検討していただきたい。
- ・私は、群馬郡の郡家正倉だと思う。評家の正倉と思われる山王廃寺下層で見つかった倉の移転先がここではないか。そうなると、本来であれば国指定級の遺構だ。この上に住宅が建つとのことだが、基礎工事で破壊されてしまうとまずいので、遺構を傷つけないように行政指導し、遺構を現状保存する必要がある。

【郡家と国府の共存について】

- ・最近の研究では、郡司は生涯やるのでなく、10年毎に交代するという説が有力であり、各勢力の広がりがどうなっていたのか、それと国府がどう関わっていたのかが問題である。
- ・武藏国の多摩郡家と寺、国府は当時つながっていた。おそらく、国府を造るにあたり多摩郡が随分と協力した関係もあり、重なっていたのであろう。
- ・郡家そのものはかなりの広がりを持っている。武藏国の榛沢郡や幡羅郡家の整備をやっているが、20haの広さがあり、全部一遍に国指定できないので、とりあえず中心の部分から指定を目指しているくらいである。

【令和2年度上野国府等範囲内容確認調査事業計画について】

- ・中心部分等の現状保存について、そろそろ具体的に検討していく時期に来ている。遺跡を残すということを視野に入れた調査のやり方をとる必要がある。
- ・須田先生からは国指定レベルの遺構、前澤先生からも正倉院とのお話が出ている。今までの調査は民間調査組織へ委託したもののが多かった。全部とは言わないが、中心施設が出そうな場合は、極力、直営で市の担当者が掘ってしっかりと記録をとっていただきたい。



協議風景①



協議風景②